

# 大阪大谷大学 教職教育センター紀要

## 第 13 号

---

### 《論文》

教員採用試験教科専門国語攷

——令和四年度和歌山県の出題を例に——

荒井 洋樹… 1

教職志望学生の教員採用試験結果に影響を及ぼす要因の検討

——大阪大谷大学の教職志望学生を対象として——

四辻 伸吾… 1

中島 悠介

岩井 晃子

### 《調査報告》

富田林市若者会議への参加がもたらす人材育成上の効果

——シティズンシップ教育ルーブリックの試作とその活用，次年度以降のための教訓——

岡島 克樹… 20

中島 悠介

### 《特別寄稿》

佐伯敏子さんと私

——ヒロシマには歳はないんよ——

中島 智子… 41

### 《事業報告》

コロナ禍の中での中学校・高等学校でのインターンシップの取り組みについて

芝本 哲也… 51

### 《活動報告》

令和3年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

教職教育センター… 59

---

2022年3月

大阪大谷大学教職教育センター

# Osaka Ohtani University

## Teacher Training Support Center Bulletin

### Volume 13

---

#### 《Articles》

A Case Analysis of Teacher Employment Examination :  
Japanese Language Exam Conducted by Wakayama Prefecture for the Fiscal Year of 2022  
ARAI Hiroki 1

A Study on Factors Affecting the Results of Teacher Employment Examination  
among Prospective Teachers : The Case of the Osaka-Ohtani University  
YOTSUTSUJI Shingo 1  
NAKAJIMA Yusuke  
IWAI Akiko

#### 《Survey Report》

Identifying Human Resource Development Effects of the Youth Council  
of Tondabayashi City through Utilizing a Rubric Provisionally Made  
on the Basis of Citizenship Education Concept  
OKAJIMA Katsuki 20  
NAKAJIMA Yusuke

#### 《Special Note》

Hibakusha Saiki Toshiko and I :  
Hiroshima has no years  
NAKAJIMA Tomoko 41

#### 《Reports》

Report on the implementation of the internship at a junior high school  
or a high school after taking measures against COVID-19  
SHIBAMOTO Tetsuya 51

Osaka Ohtani University Teacher Training Support Center Annual Report – 2021  
Teaching Training Support Center 59

---

Teacher Training Support Center  
Osaka Ohtani University

# 教員採用試験教科専門国語攷

——令和四年度和歌山県の出題を例に——

## 一、緒言

今年度（二〇二一年度）、公立学校の教員採用試験倍率が全国平均で過去最低を記録した<sup>(1)</sup>ことは記憶に新しい。これはあくまで全国平均であって都市部の自治体では比較的高い倍率を保っていることには変わりはない<sup>(2)</sup>。

教員採用試験は各自治体の方針に則り、教員となるにふさわしい人材を選抜するために行っている。その中でも、中学校高校の筆記試験では教職教養のほかに教科専門の知識を問われることになる。これは中等教育において教科担任制の教育が行われていること、授業の実施には専門的知識が必要だからである。教員採用試験については、夙に平成八年四月二五日の文部省通知「教員採用等の改善について」<sup>(3)</sup>で選考方法の多様化が求められ、こんにちの人物重視へのきっかけを作るが、筆記試験が第一関門となっている状況に大きな変更はない。同通知では、筆記試験の内容につ

いて、

知識の量、記憶力を問うものや、過度に高度な専門的知識を問うものに偏らず、広く教員として求められる資質能力を見極めることが可能な良問を継続的に作成するよう努めること。

と言及しており、良問を作成することが求められている。だが、その専門科目の試験問題には、受験者の専門的知識の適正な測定が困難と思われる試験も存在する。

試験問題というと、大学入試センター試験から大学入学共通テストへ至る過程で、大学入試問題については多くの議論を呼んだ。共通テストをはじめとして、各大学の入試問題も赤本をはじめとする各種参考書や予備校の講評もあり、厳しくその質が問われている。

他方、教員採用試験は、先に見た倍率の低下や教員の質の低下などさまざまな問題が議論されている中で、採用試験問題自体に論及したものは僅少で、吉野康子が英語の長文読解問題について

大学入試問題と同一の形式でよいのかを論じている程度である(4)。国語の採用試験でも、そもそもどのような「国語力」を評価するのか、という問題があり、国語は教科内容的基盤が「あいまいにされてきた」ともされる(5)が、読解問題を中心とする形式に変更がないまま現在に至る。さらに国語の試験問題の質に言及する論考は管見に入らない。しかしながら、現在の教員採用試験の問題には少なからぬ課題を抱えているものがあるのも事実である。

本稿はそうした現状への問題提起として、二〇二一年六月二六日実施の令和四年度和歌山県公立学校教員採用候補者選考試験の教科専門国語の試験問題を取り上げる。当該年度の問題は前年度から続くいわゆるコロナ禍の過酷な状況の中で作成されたものであり、作問のプロセスに同情の余地がないではないけれども、教員採用試験が抱える課題が露呈したものであった。

当該試験は説明的文章、文学的文章、古文の三つの大問で構成される。以下、それぞれに検討を加えてゆくが、説明的文章と文学的文章では、都合上、素材文すべてを掲出してはいない。当該試験問題を座右において読んでいただければと思う。また、今回の試験の模範解答は公開されていないため、特に現代文分野において協同出版の過去問集(6)所載の解答・解説を参考にした箇所がある。記して感謝申し上げます。

## 二、現代文 説明的文章

大問一は現代文の説明的文章で、広井良典『コミュニケーションを問いなおす』を素材文とする(7)。採録範囲は該書の序章に当たる部分で、著者の基本的思考を提示する箇所である。

問一は漢字の書き取りと読みを問う。書き取りは「扶助」と、相まつの「相」、読みは熾烈である。このうち、「熾」は常用漢字外である(8)。国語の出題において漢字の出題範囲をどのように設定するのは難しい問題ではあるが、学校教育に携わる教員としての力量を測るのであれば、常用漢字内に限るのが見識のようにも思われる。

問二は文中の「新たな装い」について、

「新たな装い」とはどのような状態か。この状態を生徒に考えさせる際に必要となる筆者の論の構成を示した板書案を作成せよ。

という出題である。この問題の採点はかなり恣意的・主観的にならざるを得ないが、出題意図から見てそれもよいかと考えている。板書案の作成によって、教員としての適性を判断するのは妥当といえ、各自治体ごとに求める教員像があることを考慮すれば、恣意的・主観的な採点もある程度許容されよう。さらに、「生徒に考えさせる」きっかけとする板書を作成するのは、平成三〇年版指導要領の「主体的対話的で深い学び」を想定したもの

教員採用試験教科専門国語攷

	(A) 農村型コミュニティ	(B) 都市型コミュニティ
特質	同心円を広げてつながる	Ⅱしてつながる
内容	共同体的な一体意識	個人をベースとする公共意識
性格	Ⅰ (&非言語的)	規範的 (&言語的)
関連事項	文化	文明
	共同性	公共性
	母性原理	父性原理
ソーシャル・キャピタル	結合型 (集団の内部における同質的な結びつき)	橋渡し型 (異なる集団間の異質な人の結びつき)

となつている。和歌山県では例年板書案を作成する出題があり、熱意ある受験者は当然対策をして臨んでいるはずである(9)。限られた時間の中で内容を整理しつつ、アウトプットする力量も問われることになる。問三は「それ」の指示内容を文中から抜き出す問題である。二十字程度という字数指定もあり、文脈理解を問う出題である。問四は空欄補充問題である。四つの選択肢の中から本文中の空欄を補充する問題で、これも文脈理解を問う出題である。

問三問四ともに順当な出題であるといえる。問五も空欄補充問題で、字数指定の書き抜き問題であるが、本文への補充では

なく、本文の内容をまとめた表の空欄二箇所への補充である。この表自体は素材文に付帯したもので、出題に当たって作成されたものではない。

Ⅰは「情緒的」が入るが、これは文中に「情緒的(ないし非言語的な)つながりの感覚」という文があり、空欄の配置を考えると、かなり容易な出題であることは否めない。

一方、Ⅱは「『独立した個人と個人のつながり』から『独立した個人』を抜く必要がある。やや変則的な抜き方になるので、Iよりも難易度が高い。

問六は、記述問題で、

「現在の日本社会」について、筆者は、「農村型コミュニティ」と都市型コミュニティ」という視点で、人との間の孤立度が極限まで高まってきた状況を説明している。その内容を、次の文章に続く形で、八十字以内で書け。

日本社会においては、圧倒的に農村型コミュニティのような関係性のあり方が強いが、戦後、      <sup>(10)</sup>という出題である。議論の出発点として、協同出版の作成した解答を提示する。

都市への人口移動の中で、農村からカイシャや核家族のような閉じられたムラ社会を作り、それを超えたつながりはきわめて希薄になり、その単位が個人にまで縮小してきた。七十九字である。設問の条件下での解答としては的確であるが、これでもやや修飾表現が目立つ。それを整理すると、

都市へ人口が移動して閉じたムラ社会へ移行し、現代では個人にまでその単位が縮小している。

と縮約でき、四十三字でまとめることができる。普通、字数を制限して記述式問題を出題する場合、模範解答はギリギリいっぱいまで切り詰めて作成することになる。今回の設題では、八十字という制限とすると、かなり余裕が生まれ、協同出版の解答のように修飾表現まで含み込まざるを得なくなっている。練りの甘い問題といえよう。

問七は、

本文中には、筆者がはじめに表した「コミュニティ」の視点のうち、③「空間コミュニティ（地域コミュニティ）」と「時間コミュニティ（テーマコミュニティ）」についての筆者の考えが述べられていない。この視点によって考えられるコミュニティの内容について推論し、それぞれ、具体例を示しながら説明せよ。<sup>II</sup>

という出題である。ここでも出発点として協同出版の作成した解答を示すと、

空間コミュニティ：自治会組織のように、自身の暮らしを維持する地域の中で、日常的につながりが存在するコミュニティ。

時間コミュニティ：ある目的を持った者が集まり、イベント等を企画・運営することで、つながりが生まれるコミュニティ。

となっていて、空間コミュニティと時間コミュニティを別立てで説明している。この設問は字数指定がないうえに、両者を対比的に説明するのか、あるいは右の解答例のように別立てで説明するのかの説明もなく、回答の仕方がわかりづらい。内容的には、空間をともしにする場合と時間をともしにする場合、二つのコミュニティがあり、両者は基本的に重ならないと想定されているとみられるから別立てで説明するのが穏当か。

推論の基軸としては、協同出版の解説が指摘するように、それぞれの（ ）に示される「地域」や「テーマ」といった鍵語を拾いながらまとめることになる。すると、空間コミュニティは「地域」とあるから「自身の暮らしを維持する地域の中で、日常的につながりが存在するコミュニティ」という整理が的を射ている。一方、時間コミュニティは「テーマ」であり、ややわかりづらいが、同じテーマを持って時間を共有することと整理できそうである。協同出版の解答では、前者の具体例を「自治会組織」とし、後者を「イベント等を企画・運営すること」としている。しかし、後者の場合、趣味や同人のイベントごとなのか、イベント企業の開催するものや年中行事として企画されるものなのかによって、前者にも分類しうる要素を残しており、基準の明確化が難しい。結局のところ、この設題では具体例の善し悪しが採点者の主観に拠らざるを得なくなり、採点が困難になる。むしろ、具体例を示すという条件を外せば、先に示したとおり、比較的容易に解答を導き出せるので、解答のしやすい設題になったものと思われる。

る。

以上の出題を見ると、大問三つで六〇分という時間制限を考え合わせれば、板書案、八〇字の記述、字数制限のない記述という三題を用意するのはかなり厳しいものと思われる。問題の分量を増やすことで難易度を高める手法は、教員採用試験に限らず、大学入試でも行われる手法である。短時間で多くの課題を処理できる力量が問われているのである。しかしながら、出題の仕方が、漢字の書き取りのほかは書き抜き式の空欄補充と分量の多い記述に偏っており、唯一存在する選択問題（問四）も空欄補充問題で、バランスの悪さは否めない。加えて、右のように同じ設題でも字数や内容を現態よりも切り詰めることが可能であり、改善の余地がある。

### 三、現代文 文学的文章

大問二は現代文の文学的文章で、菊池寛『忠直卿行状記』を素材文とする<sup>(12)</sup>。この大問には素材文の選択から大きな問題がある。この素材文は時事通信出版局から刊行される教員採用試験用の演習問題<sup>(13)</sup>（以下、『完全攻略』とする）にほぼ同じ範囲が採用されている<sup>(14)</sup>。しかも、最新版だけではなく、確認できただけでも平成二九年刊の二〇一九年版から同じ箇所が採用されており、特に改訂のないまま今年度版にも収録されている。むしろ両者で出題に変更は見られるが、同一の素材文を用いているため、

以下確認するように自ずと似通った出題となっている箇所もある。従って、『完全攻略』を用いて対策をとった受験者がかなり有利になる。作問において素材文の選択は重要な要素で、二〇二一年度の大学入学共通テストの特例追試において、過去のセンター入試と同じ素材文が使用されたことについて、公平性の面からかなりの批判があった<sup>(15)</sup>。自身の自治体の対策向けに作成されたものではないにせよ、『完全攻略』は教員採用試験対策の問題集としてはシェアが大きく<sup>(16)</sup>、しかも数年前から掲載されていたとなれば、同じ箇所を素材文として採用するのは不用意である。

さて、『忠直卿行状記』はいわゆる歴史小説で、乱行の大名であった松平忠直の行状を、その心理面も含めて作品化したものである。出題箇所は忠直が臣下の右近と左太夫の会話を図らずも聞いてしまい、それまでの自信を打ち碎かれる場面である。

問一は空欄補充と漢字の書き取りを複合した出題で、二題ある。一つ目は、

かすかな月光が城下の街を、玲瓏と澄み渡る夜の大気のうち  
に、Iのように浮かばせている。

で、「にしきえ」「かげえ」「すみえ」から選択し、漢字で回答する。正答は墨絵である。影絵では「かすかな月光」で影ができるとは考えられないため排除できる。

二つ目は、

ただでさえ興奮しやすい忠直卿の感情は收拾のつかぬほど

Ⅱ した。

で、「とうわく」「げきど」「こんらん」から選択する。正答は混乱である。設問自体に問題はないが、この部分は『完全攻略』で傍線部となっており、

「収拾の付かぬほど混乱した」忠直卿だが、一面で冷静かつ打算的でもある。そのことが分かる部分を文中から抜き出して書きなさい。

と「混乱」に着目する出題となっている。『完全攻略』での解答経験がかなり有利に働く出題である。

問二は「会心の苦笑をしたらしい氣勢がした」に対して、「具体的にどのような苦笑か。本文中の語句を用いて四十字程度で説明せよ」という問いである。

この場面は「忠直卿は、大名として生まれて初めて、立ち聞きをする」とあるように、忠直が立ち聞きをする場面であり、視点は忠直にある。だからこそ「苦笑をしたらしい氣勢がした」のである。従って、「苦笑」は目視した事実として記述されているのではなく、あくまで視点人物である忠直の感覚として、苦笑したように感じただけなのである。つまり、苦笑した事実を本文から確定できない以上、「忠直が右近と左太夫が苦笑したように感じたのはなぜか」や「忠直は右近と左太夫が苦笑したと感じたことをどう捉えているのか」といった設題の方が適当ではなかろうか。

実は、この部分は『完全攻略』でもほぼ同じ箇所に線を引

き<sup>(17)</sup>、出題している。選択肢問題で、設問文は、

「会心の苦笑」という言葉から、二人のどのような気持ちを読みとることができるか。

とある。苦笑したかどうかを問題としているのではなく、「会心の苦笑」という表現をしたことを起点として、二人の若武者の気持ちを推察する出題となっており、和歌山県の出題よりの確である<sup>(18)</sup>。

問三は「彼の唇はブルブルとふるえ、惣身の血潮が煮えくり返って、グングン頭へ逆上する」と同じ意味の表現を文中から六字で抜き出す書き抜き問題である。制限字数から正答は「感情の大渦巻」と思われる。だが、これは適切な答えであろうか。以下の本文では、

その激怒の外面は、さかんに燃え狂っているものの、中核のところには癒しがたいさびしさの空虚が、忽然と作られている激怒であった。

とあり、忠直の胸中にはさまざまな感情があることがうかがわれ、問一の設問箇所ではあるが、

ただでさえ興奮しやすい忠直卿の感情は収拾の付かないほど混乱した。

ともあり、素直に読めば「感情の大渦巻」とは激怒とともにさまざまな感情が渦巻き、混乱した忠直の心中を表現したものであり、先掲の出題文と同じ激怒を表す一文と「同じ意味の表現」とはいいがたい。その意味では字数ではじかれる「わかかえる感



情」のほうが適切であろう。このあたり素材文の読みが甘いといわざるを得ない。

問四は小姓が主君の顔色をうかがってしたせきの意味を問う選択肢問題で、選択肢は「警拔」「警護」「警吏」「警告」の四つである。主君の存在に気づかず批評を続ける右近らにせきでそれを示す文脈で、これによりふたりは口をつぐむことになる。従って正答は「警告」である。文脈を理解できているかを問う問題で、選択肢問題でもあるから回答は容易であつただろう。

問五は「彼の少年時代からの感情生活」がどのようなものであつたかを問う問題で、字数制限のない記述式である。これも『完全攻略』に類似の問題がある。「忠直卿は、生まれて初めて、土足をもって、頭上からふみにじられたような心持ちがした」に線が引かれ、その怒りの根拠を説明した文章の空欄補充の問題で、自分のこれまでの生活が、の上存在していたことに気付いたから。

に対して、本文中から語句を抜き出す。正答は「偽りの土台」で、忠直が臣下のもものたちから賞賛され自信にうち満ちていたが、それが臣下のもものたちの配慮によるものであつたと知り、衝撃を受けたのである。

執筆時点で模範解答および採点基準が示されていないので、微妙なところはあるが、「忠直が臣下のもものたちから賞賛されて育つており、自分の能力に対する自信にうち満ちていた感情生活」となるか。欲をいえば、「賞賛」が「偽りの土台」の上に成り

立つものであることを触れるべきであろう。とすれば、『完全攻略』の解答経験は有利に働くであろう。

以上のようにみると、大問二については『完全攻略』の解答経験があるかどうかの問題を解く際の有利不利に大きく作用するだろうことが推測される。しかも、問二のように、『完全攻略』のほうが確かな出題となっている箇所も見受けられ、惨憺たる状態である。

#### 四、古文

大問三、古文の出題は『枕草子』「雪のいと高うはあらで」の章段である。ここでは全文を新潮日本古典集成<sup>(9)</sup>によつて掲出する。本出題は句読点の位置や段落分け、漢字の当て方から同書を底本としていると推察される。都合上、実際の問題と傍線の番号が一致しないことをお断りしておく。

雪の、いと高うはあらで、うすらかに降りたるなどは、いとこそをかしけれ。

また、雪のいと高う降り積もりたる夕暮より、端近う、おなじ心なる人、二、三人ばかり、火桶を中に①据ゑて、物語りなどするほどに、暗うなりぬれど、こなたには灯もともさぬに、大かたの雪の光、いと白う見えたるに、火箸して、灰など掻きすさみて、あはれなるも、をかしきも、いひ合はせたるこそ、をかしけれ。

「宵もや過ぎぬらむ」と思ふほどに、沓の音近うきこゆれば、「あやし」と、見出だしたるに、時々、かやうのをりに、おぼえなく見ゆる人なりけり。

「今日の雪を、『いかに』と②思ひやりきこえながら、なでふ事にさはりて、そのところに暮らしつる」

など言ふ。③「今日来む」などやうの筋をぞいふらむかし。昼ありつる事どもなどうちはじめて、万のことをいふ。円座ばかりさし出でたれど、片つかたの足は下ながらあるに、鉦の音などもきこゆるまで、内にも外にも、このいふ言は、飽かずぞおほゆる。

明け暮れのほどに、帰るとて、

「④雪、某の山に満てり」

と誦したるは、いとをかしきものなり。

「女のかぎりしては、さも得ぬ明かさざらましを。ただなるよりは、をかしう、好きたるありさま」  
などいひ合はせたり。

出題は五題である。

問一は空欄補充で傍線①の「すゑ」が正答となる。設問は、

本文中の空欄には、「動かないように置く」という意味の古語動詞が入る。歴史的仮名遣いを用いてひらがなであてはめよ。

とある。「すゑ」がワ行動詞であることを問う問題であるが、空欄補充で問う必要のある問題ではない。第一、この位置を空欄に

したところで単純に「置く」ではいけない理由を説明できない。確かに原文は「すゑ」であるのだが、この問題は「枕草子」の原文を暗唱しているかどうかの問いではなく、論理的に考えて正しく補充できるのかを問うているはずであり、自由記述でかつ他の動詞が入りうる条件下では適切な出題ではない。もし、設問の「動かないように置く」という意味「や」歴史的仮名遣いを用いてひらがなで」という部分で「置く」を排除することであれば、作品の論理ではなく、設問の論理を読みとることを求める出題となつてしまい、窮めて理不尽な出題となる。

問二は傍線②を主語を明らかにして現代語訳せよ、という問いである。「思ひやる」の語義、謙讓表現の処理、主語の補充が採点基準になると思われるが、この文の主語を明らかにすることはたやすいことではない。文脈的には、客人が雪が降っていることから心配しようしあげている、という内容である。いま、主語を「客人」と置いたが、本文中この「客人」をうまく言い換える言説はない。「おぼえなく見ゆる人」とはあるが、こういうときに不意に現れる人であったなあ、の意で、これ自体が「客人」の説明になつており、主語として抜き出すには不適切であろう。この客人を直接表現する言説がない以上、受験者はなんらかの形で言い換えを行う必要があるが、とすると、どこまでを許容範囲とすかが問題となる。例えば「男」はどうだろうか。雪の日に訪れるところや帰り際に漢詩を誦んずるところからすれば、男性とみられるが、本文中には明記されないのである。ないものをどう補

うのかを測る問題であるともいえないが、設題としては苦しいといわざるを得ない。協同出版の解答は「来訪者である私は、ご心配申し上げ」としている。確かに、来訪者の発話内の主語補充なので「私」とするのは一案であるが、「主語を明らかにして」という条件から、それでは不足すると判断して、「来訪者である」を補っているであろう。

問三は傍線③の引歌に関する出題である。設問では「今日の雪を」の発話を踏まえたもので、平兼盛の、

山里は雪降りつみて道もなし今日来む人をあはれとは見むを引歌にしていることを明示し、この表現の意味するところを説明せよ、となっている。兼盛歌は、山里は雪が降り積もって道もない、今日やってくる人を情緒深く見ることだの意で、雪で道を閉ざされていてもわざわざ訪れてくれる人物の厚誼に対する感動を詠む。当該部では、今日の雪でどのようにお過ごしかと心配しているながら、何かと差し障りがあり、そこで過ごしてしまった、といった。従って、筆者は、この客人が兼盛の歌のように、雪が深く降り積もっているわけではないが、諸事を切り抜けて訪問していることを賞賛してほしいのだろう、と推測していることになる。

この設問は素材文の読解はもちろんのこと、引歌の意味を的確に理解できないと回答することができない優れた作りになっているといえる。

問四は傍線④の部分の漢籍引用を問う問題である。設問は、

傍線部C「雪、某の山に満てり」は、ある漢詩の一節「雪群山に満てり」を用いたものである。この漢詩が収められている平安時代の詩文集名を書け。

である。正答はおそらく『和漢朗詠集』だが、不適切な出題であることは明らかである。『和漢朗詠集』は『枕草子』よりも後代の作品であり、そこから引用することはあり得ないからである。その点、この設問では慎重であり、引用等の書承関係については触れていない。あくまで漢詩文が収められている作品を聞くに留めている。『和漢朗詠集』自体が編纂物で、他作品から秀歌を選びすぐったものであり、当該作については原典が既に失われていると考えられている<sup>(20)</sup>。

それにしても、典拠でもない作品名を問うこと自体が妥当であるかどうか。そもそも、ここで引かれている詩文は「某の山」と臆化されていることもあり、一筋縄ではゆかない。現行の注釈書では『和漢朗詠集』の、

暁梁王の苑に入れば 雪群山に満つ

夜庾公が楼に登れば 月千里に明らかなり

(冬・雪・白賦謝観・三七四)

に拠る<sup>(21)</sup>とするのが主流であるが、本出題が底本としているとみられる新潮日本古典集成では、『文選』の、

冰長江を塞ぎ 雪羣山に満つ

(鮑明遠「舞鶴賦」)

も指摘し<sup>(22)</sup>、両説併記の形式をとっている。もつとも、同じ萩

谷朴がのちに執筆した『枕草子解環』では『和漢朗詠集』を「よ  
りふさわしい」としている<sup>(23)</sup>。「暁」を詠ずる『和漢朗詠集』の  
ほうがふさわしいようにもみえるが、『文選』も夜の景を歌うも  
のであり<sup>(24)</sup>、典拠論としては悩ましいところである。現在の理  
解では、『和漢朗詠集』にとられたものであることは、当時人口  
に膾炙したものであったろうという推測を含んでこれを是として  
いるものとみられる。とすれば、この出題は、「ある漢詩の一節」  
として典拠に関して複数の説があることをおそらくは認識しつ  
つ、『和漢朗詠集』を典拠と理解するのが主流な理解であるにせ  
よ、これを典拠と確定して出題していることになる。加えて、  
『枕草子』よりも成立が遅れる『和漢朗詠集』を出典としている  
ことも周到に回避して明言せず出題を行っている。だが、こう理  
解するとこの問いで聞いているのは、平安時代の詩文集の名前と  
いうことになる。作品の読解とはまったく無関係に文学史知識を  
問う問題なのである。実に些末な一問一答であり、わざわざこの  
素材文を利用して質問するような問題ではないように感じられ  
る。確かに『和漢朗詠集』は知っていてほしい作品ではあるが、  
定番教材ではなく、現行の教科書でもほとんど採用されていない  
ことを考慮すれば、良問であるとは言いがたい。

問五は「清少納言は、この段でどのような風雅を感じている  
か」を説明する問題で、制限のない記述解答である。この章段の  
内容理解を問う問題である。雪の日にわざわざ訪ねてくる客人の  
心遣いと明け方まで雑談に興じる楽しさ、去り際に漢詩文を言い

残す客人の風流心に対して風雅を感じている。本文に即せば、  
「女のかぎりしては、さも得る明かさざらましを。ただなるより  
は、をかしう、好きたるありさま」とあるので、女だけではな  
く、男性も加わることで普段以上に情趣深いということである。  
「風雅」がどのようなものであったかは本文中には明示されてお  
らず、「漢詩文を口ずさむ風雅」とでも答えればよいのだろうか。  
ここは設問を少し変え、「どのような点に風雅を感じているか」  
とした方が的確に思われる。

古文の出題はやや理不尽と思われるものや聞き方に難がある出  
題がある。出題側もそれを理解している節があり、問一の「動  
かないように置く」という意味」や「歴史的仮名遣いを用いてひ  
らがなであてはめよ」や問四の「この漢詩が収められている平安  
時代の詩文集名を書け」など批判を避けるような設問となってい  
たのは確認したとおりである。

## 五、展望と補遺

以上、和歌山県の教員採用試験専門国語の問題を検討してき  
た。特に大問二と大問三については杜撰といわれても仕方がない  
作問となつている。確かに教採の倍率は低下しており、えり好み  
できない状況であるのかもしれない。しかし、それでも中高は小  
学校に比べ高い倍率を保っている。だからこそ、数少ない希望者  
の中からの確な候補者を選定するためにも、良質な採用試験問題

が必要なのではなかるうか。入学試験問題が入学者の質や公平性に大きな影響があるからこそ、大学入学共通テストの特別追試に對して厳しい批判が出たわけであり、難関といわれる大学の入試問題が複数の予備校によつて検討されるのも同様の理由による。

一方、教員採用試験の問題は、ほとんど組上に載せられていないのが現状である。教採過去問の刊行は協同出版の寡占状態で、解説も必要最小限にとどまる。もつとも、全国の自治体の問題を集め、短期間で検討・出版を行うことで、多くの受験者に利するものであるから、批判的検討がなされていないのはやむないことである。

教員志望者が減少し、求人倍率が下がっていく中で、優秀な人材を確保するためには、しっかりとした選考を行い、人材を精選するほかない<sup>(25)</sup>。近年では、人柄を重視する選考も見受けられ、面接や模擬授業に比重を置く自治体もある。これも一つの見識である。それでも教科の専門家を採用するのであれば、教科に関する知識や能力は必要不可欠であり、ほぼすべての自治体で教科専門の筆記試験を一次試験として<sup>(26)</sup>、第一関門として筆記試験が配置されているのである。その試験問題において、公平性が損なわれたり、受験者の力量を的確に測ることができないものであったとすれば、大きな問題である。本稿で確認したような状態のまま出題されていることからみて、当該年度における和歌山県の作問のプロセスに問題があることは明らかである。とはいへ、試験問題の作成プロセスには、機密性確保の観点からも、容易に

第三者による監査を導入できない。近年では、問題の質の担保のため、全国統一の教員採用への提言も行われている<sup>(27)</sup>。右のように質の悪い試験問題が出題されている現況を鑑みると、妥当な見解のようにもみえるが、大学入学共通テスト導入の際にも問題になったとおり、記述式回答を多く含む出題では、誰が採点するのか、採点の質を担保できるのかが課題となる<sup>(28)</sup>。大学入学共通テストでは、これを乗り越えられなかったがゆえに、センター試験と同様に全問マーク式でスタートを切るようになった。教員採用試験の受験者は大学入学志望者よりは人数は少ないものの、それでも全国統一で行うとなると人数は多くなり、記述式回答を含むとすると、公平性を担保した採点をどのように行うのかという課題は避けられない。生徒の主体的学習を重視する現状からすれば、択一式の問題では教員としての能力は十全に計測できないであろう。こうした教採の構造自体の改革には制度の組み立てから実施まで多大な時間を要し、すぐに実施することは叶わない。さしあたり、現在のシステムのまま、候補者の選考を行う必要がある。また、今後、全国統一の採用試験とするのか、各自治体ごとの選考を維持するかを議論するためにも、現在の採用試験問題の水準を検討することは急務である。和歌山県もそうだが、模範解答を公開しない自治体も存在する<sup>(29)</sup>。記述式の問題を検討するためには出題者側が想定する解答の吟味が必須であり、模範解答の公開を前提とする必要がある。こうした改善策を積み上げの中で、各自治体の問題の質が向上すれば現在のシステムを維持

するという選択肢も当然あり得ることとなる<sup>30)</sup>。

ただ、現時点においては、教員採用試験についてごく簡単なことでも、簡便に調べることができない。たとえば、国語の問題を例にすると、現代文・古文・漢文の出題の有無や出題ジャンルは協同出版の過去問集に一覧があるが、それが菊池寛の『忠直卿行状記』なのか、『枕草子』なのかといった情報は記載がなく、本文頁をめくっていく必要がある。全都道府県と独立採用を行う自治体分の調査をするとなると、全体の傾向を知るだけで多大な労力が必要である。本稿では菊池寛の『忠直卿行状記』が『完全攻略』所載分とほぼ同一の範囲であることを取り上げたが、右の現状は教採の作問に当たって、近隣自治体の出題を調査するだけかなりの労力が必要であることにつながる。近隣自治体の過去問との素材文の重複などへの対策のために、『完全攻略』などの参考書への目配りが甘くなつたことも事実であろう。教採出題の一元的整理・公開が求められる<sup>31)</sup>。国語では著作権の問題もあるため、全自治体の試験問題を公開することは困難で、素材文の出典を明記するにとどまるかもしれないが、こうした整理も行われていないのが現状である。

本稿では令和四年度和歌山県の出題を例としたが、同年度では北海道の教員採用試験の中学校国語で漢字の書き取りなどの簡単な国語常識と指導要領に関するものだけが出題され、読解問題が用意されていなかった。中学校の国語教員に読解力が必要ないともいえるのだろうか。このように多くの課題を残す年度であつ

た。従来、教員採用試験の問題はさほど注目されていなかったが、今後批判的検討を行う必要がある。試験問題の検討は相応の専門的知識を要する作業であり、それは人材を送り出す側である教員養成課程の教員の責務ともなろう。こうして教員採用試験の問題を吟味し、課題を提示してゆくことで、問題の質に対する関心が薄い状況を打破することが、よりよい方向へ転換してゆく第一歩となるはずである。担当するゼミ生の受験する自治体の検討が中心になるだろうが、継続して精査してゆきたい。

注

- (1) 「公立小教員の採用倍率、過去最低更新 長時間労働で敬遠」〔朝日新聞デジタル〕令和三年六月二十五日) など。
- (2) 全国の教員採用試験の倍率はNSK教採ネットの「令和4年度(2022年度) 教員採用試験●倍率速報●」で簡便に一覧できる。倍率自体は求人枠により変動するので、あくまで目安である。
- (3) 文部省「教員採用等の改善について(通知)」(平成八年四月二五日)。
- (4) 吉野康子「教員採用試験(英語)の長文読解問題」〔英語教育〕六三一五 平成二六年八月)。
- (5) 伊坂淳一ほか「小学校教員養成教育における国語科の専門的事項についての提言」〔千葉大学教育学部研究紀要〕六六一一 平成三〇年三月)。
- (6) 『和歌山県の国語科過去問』(協同出版 令和三年)。
- (7) 広井良典『コミュニティを問いなおす』(ちくま新書 平成二二年)。

- (8) なお、参考までに示せば、実用漢字能力検定では1級相当である。
- (9) 中高共通問題のみの二〇二一年度のほか、二〇二〇年度は中高共通問題で、それ以前は中学校志願者用の問題に出題されている。
- (10) ゴチック太字は原文ママ。協同出版の過去問集ではフォント・行詰りを整えている。
- (11) ゴチック太字は原文ママ。協同出版の過去問集ではフォントを整えている。
- (12) 初出は『中央公論』大正七年(一九一八)九月号。『菊池寛全集』のほか、岩波文庫、新潮文庫など各種文庫本でも閲読できる。
- (13) 『中高国語の完全攻略』(時事通信出版局 令和二年)。
- (14) 収載範囲の違いは和歌山県の出題が末尾に「右近の言葉は、彼の耳朶のうちに彫り付けられたように、残っている。」という一文が多くとられているに過ぎない。
- (15) 「特例追試・国語、過去問と同じ文章二つ 予備校講師ら「公平性に疑念」」(『朝日新聞 EduA』 令和三年三月二三日)、「特例追試・国語、過去問と同じ文章二つ 元作問委員はどう考える?」(『朝日新聞 EduA』 令和三年四月一九日)など。
- (16) 例えば、Amazonで「教採 国語」と検索すると、該書がトップに表示される(令和三年二月一三日検索)。
- (17) 『完全攻略』では「二人の若武者は、そこで顔を見合わせて会心の苦笑をしたらしい氣勢がした」と直前の文章も含めて線を引く。
- (18) なお、付言すれば、『完全攻略』では「解答へのアプローチ」で視点問題について触れており、「小野田右近の声は、忠直が聞き、判断したこととして描かれる」と記している。
- (19) 萩谷朴 新潮日本古典集成『枕草子 下』(新潮社 昭和五二年)。一七三段。
- (20) 注(19) 萩谷著に記述される。
- (21) 『和漢朗詠集』は和歌文学大系に拠り、書き下し文を引用した。
- (22) 『文選』は新釈漢文大系に拠り、書き下し文を引用した。『文選(賦篇) 下』。
- (23) 萩谷朴『枕草子解環』(同朋舎出版 昭和五八年)。
- (24) 引用部の後「既にして気昏夜歇み 景物澄廓たり 星翻り漢廻り 暁月將に落ちんとす」と続く。
- (25) 根本的課題として教員志願者を増やす施策が必要だが、本稿の問題意識とは異なるため今は措く。
- (26) ただし、推薦制度などによって免除される場合がある。
- (27) 教育再生実行会議「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について(第七次提言)」(平成二七年五月一四日)。
- (28) 紅野謙介『国語教育の危機』(ちくま新書 平成三〇年)。
- (29) 大阪府は模範解答を公開しているが、京都府や奈良県では公開していない。
- (30) 生徒の主体的学びが重視される現況から、教員に必要な能力資質は変化があることも事実であり、それをどう測定するのも大きな課題であろう。この点は現行の試験問題を対象とする本稿の問題意識とは離れるため、言及に留めたい。
- (31) たとえば、大学入試問題では赤本などの過去問集で各大学ないし学部ごとの素材文は数年分を簡潔に調査可能であるし、主要な大学だけで、ページをめくる必要もあるが、旺文社の『全国大学入試問題正解』シリーズで各年度の調査も可能である。

# 教職志望学生の教員採用試験結果に 影響を及ぼす要因の検討

—大阪大谷大学の教職志望学生を対象として—

四辻 伸吾\*・中島 悠介\*  
岩井 晃子\*\*

本研究の目的は、教職志望学生の教員採用試験結果にどのような要因が影響を及ぼしているのかについて検討することである。研究1として教員採用試験受験者105名を対象に、教員採用試験時点でのGPA及び教員採用試験対策セミナーの参加の有無が教員採用試験の合否とどのように関連しているかを調査した。その結果、教員採用試験合格者の方がGPAが有意に高いということが明らかとなった。さらには、教員採用試験に向けて、事前に本学で実施した教員採用試験対策セミナーに参加している者は、参加しなかった者よりも合格率が有意に高いということが明らかとなった。また、研究2として、教員採用試験対策セミナー参加者51名から得られた自由記述について、テキストマイニングによる分析を行った。その結果、参加者は具体的な学び方の指導や他の学生との情報の共有を求めており、一人一人の学生が教員採用試験対策について不安な気持ちを抱いている可能性があることが示唆された。以上より、教職を目指す学生にとって、GPAを高くする継続的な努力や事前対策として教員採用試験対策セミナーに参加すること、また教員採用試験対策セミナーを通して学生同士がネットワークを築くことが重要であることが示唆された。

キーワード：教員採用試験、GPA、教員採用試験対策セミナー

## 問題と目的

近年、教職を志望する学生が減少していることが懸念されている。文部科学省（2021）によると、全国の公立学校教員採用選考試験（以下、教員採用試験とする）全体の競争率（採用倍率）は3.9倍で、前年度の4.2倍から減少し、採用者総数は、35,058人で前年度に比較して106人増加、受験者総数は、138,042人に、前年度に比較して10,423人減少したとしている。また、文部科学省（2021）はこの教員採用試験の受験者総数が減少している理由として、「小

---

\*大阪大谷大学教育学部准教授

\*\*大阪大谷大学教育学部特任教授



学校における受験者数の減少傾向は、近年の民間企業等の採用状況が好転していることや新規学卒者の採用数の増加等により、教員採用選考試験に不合格となった後、講師を続けながら教員採用進行試験に再チャレンジする層が減ってきていることなどが主な理由であると考えられる」としている。教育現場は未来の子どもたちを育てるための重要な場であり、その中で重要な役割を担う教員の採用ならびに教員の資質・能力の質の担保は必要不可欠なものであると言える。

教員採用試験は、自治体ごとに選考内容が定められている。例えば令和4年度大阪府公立学校教員採用選考テスト（大阪府、2021）における小学校教員採用に関しては、第1次選考として「教職教養、教育関連の法規、教育公務員の倫理（服務規律）、教育時事、思考力・判断力を問う問題（文章理解、判断推理、資料解釈、数的処理等）についての筆答試験」、第2次選考として「個人面接」、第3次選考として「模擬授業及び個人面接」が行われる。また、令和4年度和歌山県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項（和歌山県、2021）における小学校教員採用に関しては、第1次選考試験として「校種・教科専門、教職専門、一般教養、適性検査」、第二次試験として「集団面接、小論文、実技（水泳またはオルガン演奏）、個人面接」が行われる。この二つの自治体を比べても、筆答試験の内容、模擬授業の有無、集団面接の有無等、選考試験の内容が異なっていることがわかる。つまり、教職志望学生は、ただ闇雲に教員になりたいと思い、一般的な教員採用試験への対策をするのではなく、それぞれの自治体に課される試験内容に応じた対策を講じなければならない。

従来、わが国の教育における試験対策については、これまで筆答試験への対策を主としてきたと考えられる。近年は大学入学者選抜において、学力検査のみならず調査書、小論文、面接等を活用して、志願者の能力・適性等を総合して判定するなど、入試方法の多様化や評価尺度の多元化が推進されている（大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議、2021）。しかし実際には、2019年度まで行われてきた大学入試センター試験や2020年度から新たに始まった大学入学共通テストを初めとして、多くの大学入学試験、高等学校入学試験等における選抜内容は筆答試験であり、受験生は筆答試験対策のみをしてきていることがほとんどであると考えられる。一方、教員採用試験において課される試験内容は、筆答試験に加えて、集団面接、実技、模擬授業などこれまでに経験してきていないものであると考えられ、それらの対策にはこれまでの経験とは異なる新たなものが必要となってくる。

従前の受験勉強とは異なる教員採用試験における別の視点としては、受験する自治体によって課される試験内容が異なっていることが挙げられる。そのため、自分が受験しようとしている自治体の教員採用試験に関する情報を収集することが非常に重要であり、学生同士で情報交換を行うことも必要であろう。ただし、教員になりたいという思いを共有した親密な学生同士が闇雲に協力して受験勉強をしようとしても、目指す自治体が異なると対策の仕方が異なり、

協力して対策を進めることが困難になってしまうことも考えられる。これらの状況をふまえると、目指す自治体ごとに学生同士が結びつき、それらの学生が集まって情報共有を行ったり、どのような対策が効果的かを協働的に模索したりことが重要ではないだろうか。

教員採用試験の結果に影響を及ぼす要因については、様々な視点からこれまでに検討されてきている。開沼・中島・江上（2021）は、大阪大谷大学における学生の GPA と教員採用試験の合否結果を分析し、GPA が高いほど合格率が高くなることを示唆している。また、内田・溝口・伊藤（2021）は、三重大学における教員採用試験対策セミナーと教員採用試験合格率の関連を検討しており、教員採用試験対策セミナーの参加回数が多いほど、合格率が高いことを示している。これらの研究において示された教員採用試験の合否結果と GPA 及び教員採用試験対策セミナーの参加回数に関連していることは、教員採用試験合格に向けて各学生がどのような努力を行っているか、それらの努力を継続できているかなどの視点と関連していることを示すものであると推察されるものである。

また、辻本・富安・上森・橋爪・畑（2015）は、鳥根大学における教員採用試験の結果と在学時の学力、教職志向性、1000 時間体験学修との関連を検討している。これによると、教員採用一次試験の結果には在学時の学力が、二次試験の結果には、教職志向性や鳥根大学教育学部で取り組まれている、学生が興味・関心のある体験活動に参加する取り組みである 1000 時間体験学修の実施時間数が関係していることを明らかにしている。さらには、駿河・佐藤・松浦（2010）は、和歌山大学における教員採用試験の合否に関連する要因について分析をしている。この研究では、受験地の合格率、教育実習時間数の長さ、教育実習の成績などが教員採用試験の合否に相関があるとしている。これらについては、いわゆる教員採用試験に合格するための直接的なアプローチだけでなく、教育実習における経験や様々な体験等の間接的な要因も、合否に関連していることを示唆するものである。

これらの先行研究をふまえると、教員採用試験へのアプローチとしては学生が高等学校までに経験してきた筆答試験に対するアプローチだけではなく、大学における日常の学習への指標となる GPA やセミナーや体験学修に参加すること等、様々な視点からアプローチをすることが教員採用試験合格へとつながると考えられる。本研究においては、大阪大谷大学における教員採用試験対策の視点として、教員採用試験対策セミナー、GPA、各自治体の教員採用試験競争率に着目し、それらが試験の合格にどのような影響を及ぼしているのかについて検討したい。

教職志望学生に対する教員採用試験への対策については、全国の大学にて教員採用試験対策セミナーなどの形で行われている。三重大学教育学部附属教職支援センターにおいては、「教員採用試験対策セミナーオリエンテーション」「教職教養対策講座」「個人面接練習」など年間 280 回を超える教員採用試験対策セミナーが開催されている（内田・溝口・伊藤、2021）。ま

た近畿大学においても、「スタート講座」「Eメール講座（論作文対策）」「宿泊学習会」「面接試験対策講座」など年間を通じて様々な講座が行われている（杉山・梅田、2019）。また鳥取大学においては、「教師未来塾」を開講し、「教員採用試験合格者の体験報告会」「宿泊型研修」「集団面接・集団討論対策セミナー」などが行われている（川路・佐竹、2017）。

大阪大谷大学においても、教職教育センターにおいて「教職オリエンテーション」「教職教養対策講座」「一般教養講座」「面接対策講座」など様々な対策講座が開催されている（大阪大谷大学教職教育センター、2021）。これらの講座において学生は教員採用試験対策に関する様々な知識や方策を学ぶことができる。一方、先述の通り、教員採用試験においては、学生がこれまで経験してきたいわゆる受験勉強とは異なり、実技試験・面接試験・模擬授業なども含めた多様な対策が必要となってくる。この多様な対策を考える際の視点として、学生同士のつながり及び学び合いに着目したい。先行研究においては、教員採用試験対策セミナーについて様々な形態で行われていることが示されているが、学生同士のつながりや学び合いを軸として組み立てたセミナーの効果等について言及されたものは十分とは言い難い。

小学校学習指導要領（文部科学省、2017）においては、「主体的、対話的で深い学び」の視点が重要視されており、この中で対話的な学び、すなわち人と協働的に学ぶことの重要性が示されている。教職を目指す学生もこれらの視点をふまえた学習の態度は必要であると考えられる。そうであるならば、教員採用試験への対策においても教育現場にて重視されている「主体的、対話的で深い学び」の視点を持つことも重要である。

この視点をふまえ、大阪大谷大学教育学部において、学生同士の情報交換や学び合いに重きを置いた教員採用試験対策セミナーを行うことが教員採用試験にどのような影響を及ぼすのかという視点を中心として、教員採用試験の可否に影響を及ぼす様々な要因について検討することにする。また教員採用試験対策セミナーに参加した学生が、どのような感想を抱いているのかについても検討を行う。

## 研究 1

### 目的

教員採用試験受験者の可否について、各学生の GPA、教員採用試験対策セミナーへの参加の有無、受験した自治体における教員採用試験の競争倍率の関連を検討する。

### 方法

#### 分析対象者

大阪大谷大学教育学部における 105 名の教員採用試験受験者を分析対象とした。

## 分析内容

調査にあたり以下のデータを使用した。

### ①各学生の GPA

本学において 2015 年度入学生から GPA 制度が取り入れられている。大阪大谷大学「文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規定（昭和 54 年 4 月 1 日制定・令和 3 年 4 月 1 日改正）」第 34 条において、成績評価を「秀（100～90）、優（89～80）、良（79～70）、可（69～60）、不可（59～0）」の 5 段階で行い、これらの「成績評価を数値 Grade Point（以下「GP」という。）に置き換え、単位数に基づいた GP の平均値（Grade Point Average（以下「GPA」という。）を算出するものとする」としている。この GPA について、大学入学から令和 3 年度教員採用試験受験の時期までの各学生の累積 GPA を分析対象とした。

### ②教員採用試験対策セミナーの参加有無及び参加回数

大阪大谷大学において、令和 3 年度 2 月以降、教職対策スタートアップセミナー及び教採サクセスセミナーと称して、継続的に教職志望学生を対象として教員採用試験対策セミナーを行った。内容は教員採用試験に対する対策の仕方についての講義やグループ学習、筆答対策、面接・模擬授業対策、実技対策などであった。このセミナーについて、令和 3 年 2 月～3 月に行われた教職対策スタートアップセミナーについては、本研究の分析対象となる学生の大半が参加したため、参加の有無についての分析が困難であると判断し、4 月以降の教採サクセスセミナーの参加の有無を分析対象とした。また、教採サクセスセミナーに参加した回数についても分析対象とした。

### ③教員採用試験結果における合否

令和 3 年度においては、分析対象者の項にも示した通り 105 名の学生が教員採用試験を受験したが、学生の中には一人で複数の自治体を受験し、合格結果を得た者もいる。本研究においては、一つ以上の自治体に対する合格結果を得た学生、残念ながら全く合格結果を得られなかった学生にグルーピングをして分析を行うことにした。

### ④教職志望者が受験した自治体における教員採用試験における競争倍率

令和 3 年度に行われた教員採用試験の結果において、各自治体にて発表された競争倍率についても、本研究の分析対象とした。具体的には、各学生の受験自治体における受験校種・科目についての競争倍率が合否の結果に及ぼす影響について、他の要因とともに分析を行った。

## 手続き

本研究については大阪大谷大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。データの収集については、教員採用試験の受験実態調査を 2021 年 7 月～9 月に行うとともに、GPA については大学で把握している学生カルテから得た。分析には、IBM SPSS Statistics ver.28.0 及び、IBM SPSS Amos ver.28.0 を使用した。

## 結果と考察

### 令和3年度教員採用試験の合否

大阪大谷大学においては、令和4年度（令和3年度実施）教員採用試験の結果を公表している（Table 1）。これによると教育学部以外の学部も含めた全合格者数は62名となっており、これは前年度の57名よりも5名増加している。また、合格者について自治体ごとに注目すると、大阪府においては22名（前年度17名）、大阪市は7名（前年度4名）、和歌山県は9名（前年度10名）と他の自治体と比べて多くの合格者を出している。

大阪大谷大学は南大阪に立地される大学であり、教育学部は富田林市、河内長野市、大阪市等の大阪府下の自治体や和歌山県において、教育実習やインターン、ボランティア等について受け入れをしてもらっている。また、富田林市、河内長野市と連携協力基本協定、大阪府教育委員会との連携協力協定を結んでいる。これらの関わりの土台には、大阪大谷大学の卒業生が大阪府や大阪市の教員として勤務していることも深く関わっていると考えられる。これらより、大阪府及び大阪市における教員採用試験合格者を今後も増やしていく必要があるだろう。一方、令和3年度における和歌山県の教員採用試験の合格者数が他の自治体に比べて多かったことをふまえると、和歌山県の教員採用試験の結果にも注目し、今後の教員採用試験への対策を考えていく必要があると推察される。

### 教員採用試験の合否による GPA の違いについて

教員採用試験の合格者のグループと不合格者のグループにおける GPA について  $t$  検定を行った。その結果、 $t(103) = -4.395$  ( $p < .001$ ) となり、合格者の GPA が不合格者の GPA に比べて有意に高いことが示された（Table 2）。

この結果から、教員採用試験の合否は、教員採用試験対策に直接的に結びつく学習だけではなく、日々の大学における学習への取り組み方が影響していることを示すものであると考えられる。

### 教員採用試験対策セミナーへの参加について

大阪大谷大学教職教育センターでは、一年を通じて教職オリエンテーション、教職教養対策講座、一般教養対策講座、教採学内セミナー、教職模試など、教職志望の学生のために様々な講座が開催されている（Table 3）。本研究で取り上げる教員採用試験対策セミナーは、これら大阪大谷大学教職教育センターの行事と連携するものであり、主に学生の教員採用試験対策への動機づけを高めたり、学生同士の結びつきを促進したりするために行われたものである。この教員採用試験対策セミナーは、令和2年度内に行われた教職対策スタートアップセミナーと令和3年度になってから行われた教採サクセスセミナーに分かれている。各セミナーの日程及び各参加人数の概数については Table 4 の通りとなっている。

教職志望学生の教員採用試験結果に影響を及ぼす要因の検討

Table 1 令和4年度（令和3年度実施）教員採用試験合格者数

R3.11月末現在

自治体名	小計	内訳								
		幼小・ 小学校	小中 いきいき	中学校			高校			特別支援
				国語	英語	保健体育	国語	地歴	保健体育	
大阪府	22(17)	5(2)	1(0)	3(1)						13(12)
大阪市	7(4)	5(4)		1(0)	1(0)					
堺市	2(1)	0(1)		1(0)	1(0)					
和歌山県	9(10)	7(7)		1(0)						1(3)
奈良県	1(2)	1(1)								0(1)
滋賀県	1(0)	1(0)								
兵庫県	0(1)	0(1)								
相模原市	1(0)	1(0)								
静岡県	1(0)	1(0)								
新潟県	1(0)			1(0)						
三重県	1(0)			1(0)						
広島県・ 広島市	1(2)	2(0)			1(0)					
鳥取県	1(0)				1(0)					
山口県	1(0)			1(0)						
高知県	1(4)	1(4)								
愛媛県	3(1)	2(1)		1(0)						
福岡県	4(4)	4(4)								
北九州市	1(2)	1(1)								0(1)
大分県	0(1)	0(1)								
長崎県	0(1)	0(1)								
宮崎県	0(1)	0(1)								
山形県	1(2)	0(2)		1(0)						
北海道	3(4)	2(4)		1(0)						
合計	62(57)	31(37)	1(0)	12(1)	4(0)	0	0(1)	0	0(1)	14(17)

( ) は前年度

Table 2 教員採用試験における合格者・不合格者の GPA 平均と SD および t 検定の結果

	合格者		不合格者		t 値
	M	SD	M	SD	
GPA	2.93	0.54	2.52	0.39	-4.39***

\*\*\* $p < .001$

教職志望学生の教員採用試験結果に影響を及ぼす要因の検討

Table 3 教職教育センターにおける主な行事

開催月	行事名
4月	教職教育センターオリエンテーション・教採学内セミナー・教員採用試験直前筆答講座 など
5月	教員採用試験面接対策講座・教職模試・幼稚園教員採用試験筆答対策講座 など
6月	教職オリエンテーション・教員採用試験水泳対策講座・教員採用試験面接対策講座
7月	教員採用試験対策講座案内他説明会・教員採用試験面接対策講座 など
8月	教職教養対策講座・一般教養対策講座・教員採用試験面接対策講座 など
9月	教師のお仕事入門・講師登録説明会 など
10月	教職オリエンテーション・講師登録説明会・幼稚園・保育所オリエンテーション など
11月	教員免許状一括申請説明会・教職オリエンテーション など
12月	教採学内セミナー・教職オリエンテーション・幼稚園・保育所オリエンテーション など
1月	教職オリエンテーション・教職模試・教員免許状一括申請説明会 など
2月	教職・幼稚園オリエンテーション・教師のお仕事入門・教職模試・教採・教師塾対策講座 など
3月	教採・教師塾対策講座・教職教養対策講座・一般教養対策講座 など

Table 4 令和3年の教員採用試験対策セミナーの実施状況

セミナー名	開催月	内容	参加学生
教職対策スタートアップセミナー	3月4日	・学部長によるご挨拶 ・教育原理・教育法規 ・最近の出題傾向 ・いますべきこと、スケジュール ・一般教養について	約100名
	3月11日	・最近の出題傾向 ・小学校全科・教育心理・教育時事 ・教員採用試験にむけて－小学校国語の視点から－ ・教師の仕事の魅力再発見①	約80名
	3月17日	・教師の仕事の魅力再発見② ・教員採用試験にむけて－中高国語の視点から－ ・今すべきこと ・面接対策	約80名
	3月24日	・教師の仕事の魅力再発見③ ・教員採用試験にむけて－理数の視点から－ ・教職対策講習会まとめ ・今後の見通し	約100名
教採サクセスセミナー	4月24日	・概要説明 ・本プロジェクトの方向性 ・困っていることの共有 ・学生グループの自治的な運営の必要性 ・教員採用試験に向けて確認すべきこと ・グループで学習状況	約30名
	5月8日	・面接対策 ・エントリーシート対策 ・筆答対策	約50名
	6月12日	・個人面接・集団面接 ・SPI対策・一般教養 ・集団討議対策 ・教職教養対策	約50名
	6月1月～30日	・少人数学習会 ・SPI対策・一般教養 ・教職教養対策	約20名
	7月24日	・2次試験に向けての対策 ・集団討議対策 ・個人面接・集団面接 ・SPI対策・一般教養 ・教職教養対策	約20名
	8月11日～17日	・夏季休業中面接対策	約40名

**Table 5** 教職セミナー参加有無と教員採用試験の可否のクロス集計

		教員採用試験否		$\chi^2$ 値
		合格	不合格	
セミナー 参加有無	参加有	40	32	12.84***
	参加無	6	27	

\*\*\* $p < .001$

#### 教員採用試験対策セミナーへの参加有無と教員採用試験の合格との関連について

教員採用試験対策セミナーのうち令和3年4月以降に行われた教採サクセスセミナーへの参加有無と教員採用試験の可否について、 $2 \times 2$ のクロス集計表を作成した (Table 5)。これによると、教採サクセスセミナーに一度でも参加した学生72名の内、教員採用試験合格者は40名 (55.5%) であった。また、教採サクセスセミナーに一度も参加しなかった学生33名の内、教員採用試験合格者は6名 (18.2%) であった。これらについて  $\chi^2$  検定を行ったところ、 $\chi^2(1) = 12.84$  ( $p < .001$ ) となり有意差が見られた。

#### 各自治体別の教員採用試験の倍率について

令和3年度に実施された教員採用試験について各自治体における競争倍率を Table 6 に示す。

自治体ごとの競争倍率については校種ごとに高い傾向があったもの、低い傾向にあったものについて以下に示す。小学校において競争倍率が高かったものとしては高知県の7.4倍、神戸市の6.1倍、奈良県の5.0倍、京都市の4.6倍、堺市の4.6倍などであり、低かったものとしては福岡県の1.3倍、大分県の1.3倍、宮城県・秋田県・長崎県の1.4倍などが挙げられる。中学校国語および英語について競争倍率の高かったものとして、国語では沖縄県の10.8倍、英語でも沖縄県の12.6倍、低かったものとしては、国語において山形県の1.3倍、英語では山形県の1.4倍、徳島県・福岡県の1.5倍などが挙げられる。高等学校国語・英語において競争倍率の高かったものとして、国語では高知県の33.0倍、英語でも高知県の39.0倍、低かったものとして国語において宮城県の1.9倍、英語においては長崎県の1.3倍などが挙げられる。また特別支援学校においては、競争倍率の高かったものとして、沖縄県の8.6倍、神戸市の5.4倍、低かったものとして、山形県の1.6倍などが挙げられる。

#### GPA、教採サクセスセミナーの参加回数、自治体ごとの競争倍率が教員採用試験に及ぼす影響について

各学生のGPA、教採サクセスセミナーへの参加回数、自治体ごとの競争倍率からの教員採用試験可否に影響を及ぼすという因果モデルを共分散構造分析によって検討した。モデル内において、GPA、教採サクセスセミナーとの間に共分散を仮定した。その結果、Figure 1のモデルが得られた。モデル全体の適合度は、 $\chi^2(2) = 1.511$  ( $p = .470$ )、GFI = .933、AGFI = .964、CFI



教職志望学生の教員採用試験結果に影響を及ぼす要因の検討

Table 6 令和4年度(令和3年度実施) 教員採用試験における自治体別の競争倍率

自治体名	小学校	中学校 (国語)	中学校 (英語)	高校 (国語)	高校 (英語)	特別支援 学校	算出方法
北海道	1.5	3.2		5.3		4.6	受験者数÷合格者数
青森県	1.9	4.9		15.7		3.1	受験者数÷合格者数
岩手県							志願者数・受験者数未発表
宮城県	1.4	1.9	2.5	1.9	2.4	4.7	一次受験者数÷名簿登載者数
秋田県	1.4	2.0	2.1	若干名	若干名	4.3	志願者数÷採用予定者数
山形県	1.5	1.3	1.4	4.5	4.7	1.6	一次受験者÷二次合格者
福島県	1.7	3.1	3.7	14.3	9.0	3.9	志願者数÷合格者数
新潟県	2.0	2.5	3.7	2.5	3.7	1.9	出願者数÷合格者数(中高共通)
茨城県	2.3	2.6	3.2	3.9	2.5	2.7	志願者数÷採用予定数
栃木県	2.5	1.9	2.6	6.0	2.9	2.9	受験者数÷最終合格者数
群馬県	3.9	3.9		3.9		3.3	受験者数未発表(時事通信社)
埼玉県	2.3	3.7	2.2	3.8	2.2	2.3	志願者数÷合格者数
東京都	2.7	4.2	3.1	4.2	3.1	2.8	志願者数÷名簿登載者(中高共通)
千葉県	2.5	3.6	2.8	3.6	2.8	2.4	志願者数÷合格者数(小学校のみ採用予定者数)(中高共通)
神奈川県	2.6	2.3	3.3	2.4	2.7	2.6	受験者数÷合格者数
相模原市	2.9	3.8	4.1				受験者数÷合格者数
山梨県	1.9	4.2		7.2		2.8	志願者数÷採用予定者数(中高→科目の別は非公表)
岐阜県	1.9	2.1	2.7	2.8	2.2	2.4	受験者数÷二次内定者数
富山県	1.6		2.4			1.9/3.0	受験者数÷合格者数(中高共通)(中高→科目の別は非公表)
静岡県	3.0	2.8	3.5	4.4	5.0	2.8	志願者数÷合格者数
長野県	2.6	4.3		5.3		2.5	志願者数÷採用予定者数、中高→科目の別は非公表
愛知県	2.8	3.7	3.5	4.1	3.0	3.9	受験者数÷(合格者数+繰上者数)(令和2年度)
名古屋	2.8	3.3	4.4	3.3	4.4	2.8	受験者数÷合格者数(中高共通)
石川県	2.4	2.3	3.3	2.3	3.3	2.1	受験者数÷採用候補者数(中高共通)
福井県	3.4	2.6	2.9	2.6	2.9	3.9	志願者総数÷内定者数(中高共通)
三重県	3.1	4.4	5.3	7.6	6.0	5.2	受験者数÷合格者数
滋賀県	3.1	5.2		7.0		3.1	志願者数÷採用予定者数、中高→科目の別は非公表
京都府	3.0	4.8	3.8	2.3	2.5	2.4	受験者数÷名簿登録者数(一般・特別支援学校共通)
京都市	4.6	6.4	4.9	14.0	8.8	2.8	受験者数÷合格者数
兵庫県	4.2	2.6	3.1	3.3	3.9	4.6	受験者数÷合格者数
神戸市	6.1	4.8	7.0	4.8	7.0	5.4	受験者数÷合格者数(中高共通)
奈良県	5.0	3.0	3.3	3.5	4.1	4.9	受験者数÷合格者数
和歌山県	2.6	2.6	4.2	3.3	3.6	2.3	受験者数÷合格者数
大阪府	3.5	3.3	3.4	3.4	4.2	2.7(小)	受験者数÷合格者数
大阪市	2.9	3.7	5.3				受験者数÷合格者数(高校の募集無し)
豊能地区	3.7	6.6	4.1				受験者数÷合格者数(高校の募集無し)
堺市	4.6	3.6	4.1				受験者数÷合格者数(高校の募集無し)(特支と共通?)
岡山県	2.8	4.4	3.5	4.0	5.7	3.8	受験者数÷合格者数
岡山市	3.1	3.1	3.3				受験者数÷合格者数(高校の募集無し)
鳥取県	3.7	3.6		6.1		2.1	志願者数÷採用予定者数、中高→科目の別は非公表
島根県	1.7	2.6	1.8	4.3	6.5	2.5	受験者数÷名簿登載者数
広島県	1.7	2.4	2.0	5.9	5.8	2.2	志願者数÷合格者数
山口県	2.0	1.8	3.0	5.4	3.6	2.7	受験者数÷合格者数
香川県	3.3	3.8		8.0		4.1	受験者数÷合格者数、中高→科目の別は非公表
徳島県	3.3	2.4	1.5	9.7	6.3	2.6	受験者数÷合格者数(令和3年度)
愛媛県	1.9	1.7	3.6	3.5	3.5	未発表	受験者数÷合格者数(令和3年度)(高校は県立学校)
高知県	7.4	7.6	8.0	33.0	39.0	2.5	受験者数÷第一回名簿登録者数
福岡県	1.3	1.4	1.5	6.1	6.3	2.0	受験者数÷合格者数
福岡市	2.3	2.0	3.9	9.5	募集なし	1.7(小)	志願者数÷採用予定者数
北九州市	1.9	4.0	6.2			2.3	志願者数÷合格者数
大分県	1.3	2.5	1.8	18.0	12.0	2.2	受験者数÷合格者数
佐賀県	1.5	2.9	2.0	5.3	3.7	2.5	申込者数÷採用予定者数
長崎県	1.4	1.6	3.1	3.6	1.3	1.8	受験者数÷合格者数
熊本県	1.9	2.2	2.2	11.0	13.3	3.1	志願者数÷採用予定者数
宮崎県	1.5	1.6	5.5	5.8	4.4	4.4	受験者数÷合格者数
鹿児島県	2.1	3.7	2.9	9.5	5.5	2.8	受験者数÷合格者数(令和3年度)
沖縄県	4.1	10.8	12.6	11.1	20.5	8.6	受験者数÷合格者数

※受験者は一次受験者、合格者は最終合格者  
 ※採用予定者は募集段階の数

=1.000, RMSEA = .000 となり、本研究でのモデルはデータに十分適合していると判断した。本モデルより、GPA から教員採用試験合否への有意な正の影響 (.29,  $p < .01$ )、教採サクセスセミナーへの参加回数から教員採用試験合否への有意な正の影響 (.32,  $p < .01$ )、自治体競争倍率から教員採用試験合否への有意な負の影響 (-.19,  $p < .01$ ) を及ぼしていることが明らかとなった。

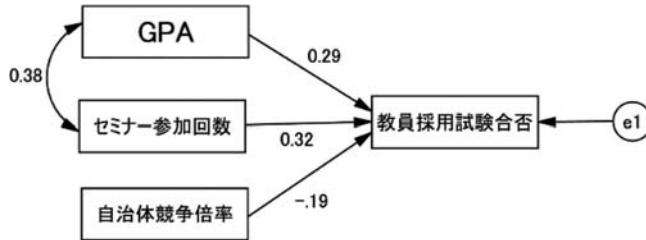


Figure 1 教員採用試験の合否に影響を及ぼす要因に関するパス図

## 研究 2

### 目的

教採サクセスセミナーの内容をどのように捉えているのかについて、参加者の自由記述から検討する。

### 方法

#### 分析対象者

大阪大谷大学における教採サクセスセミナーを受講した 51 名の学生を分析対象とした。

#### 分析内容

教採サクセスセミナーにおける第 1 回目及び第 2 回目に参加した学生を対象に、「教採サクセスセミナーに参加して気づいたことを記入してください」という質問に対して自由記述で得られた回答について分析をした。

**手続き** 本研究については研究 1 同様、大阪大谷大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。また分析については、樋口 (2004) によって開発されたテキストマイニングのツールである KH Coder を使用した。

### 結果と考察

#### 抽出語と文書に関する基本情報

得られた自由記述による回答について、KH Coder に入力して分析を行った。得られた自由記述における回答については、全 133 文であった。前処理を実行した結果、総抽出語数は

教職志望学生の教員採用試験結果に影響を及ぼす要因の検討

Table 7 頻出 150 語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	38	明確	4	持つ	2
面接	25	理解	4	時事	2
自分	24	グループ	3	自己	2
勉強	19	意見	3	自治体	2
練習	15	課題	3	自身	2
出来る	13	確認	3	書き方	2
参加	12	楽	3	小さい	2
人	12	教育	3	深い	2
対策	12	形	3	進める	2
先生	11	見える	3	数学	2
他	11	向ける	3	早い	2
学生	10	考え	3	相談	2
セミナー	9	行う	3	大学	2
悩み	9	仕上げる	3	単語	2
不安	9	子ども	3	知識	2
聞く	9	質問	3	仲間	2
学ぶ	8	実際	3	頂く	2
感じる	8	周り	3	掴める	2
頑張る	8	場面	3	定める	2
指導	8	新た	3	熱意	2
少し	8	提出	3	悩む	2
筆答	8	同士	3	文章	2
気持ち	7	分かる	3	聞ける	2
取り組む	7	イメージ	2	無い	2
受ける	7	サクセス	2	目指す	2
アドバイス	6	メンバー	2	目標	2
安心	6	意識	2	お話	1
多い	6	違う	2	ほんやり	1
良い	6	一緒	2	アイデア	1
話	6	英語	2	インターンシップ	1
機会	5	解き方	2	コツ	1
共有	5	解消	2	コツコツ	1
教える	5	解説	2	コミュニテイ	1
苦手	5	学び	2	センター	1
具体	5	学校	2	ゼミ	1
考える	5	活動	2	ダイレクト	1
初めて	5	活用	2	ツール	1
知る	5	希望	2	テキスト	1
得る	5	疑問	2	ドキドキ	1
方法	5	教職	2	ニュース	1
ポイント	4	教養	2	ノート	1
解決	4	緊張	2	ハッキリ	1
学習	4	経験	2	ボランティア	1
見る	4	繋がり	2	メリハリ	1
自信	4	嫌い	2	リズム	1
積極	4	見つめる	2	一般	1
大切	4	交換	2	引き続き	1
知れる	4	行ける	2	影響	1
丁寧	4	高い	2	科目	1
内容	4	思い	2	解く	1

3,048 語、異なり語数は 499 語となった。

### 語の抽出

得られた自由回答の頻出 150 語を Table 7 にリストとして示した。頻出語の上位 5 つについては、「思う」38 回、「面接」25 回、「自分」24 回、「勉強」19 回、「練習」15 回であった。

### 階層的クラスター分析

次に得られた自由回答について、階層的クラスター分析を行った。分析結果より内容を整理して命名すると「共有」「参加の意義」「学ぶ機会」「モチベーション」「見通し」の 5 つのクラスターに分類された (Figure 2)。各クラスターについて以下に示す。

「共有」と命名されたクラスター 1 の出現傾向が似た語は、「多い」「安心」「不安」「頑張る」「少し」「アドバイス」「勉強」「共有」であった。具体例として挙げると、「筆答対策の学習手段についてはこれまでに自分と同じ方法の人が多くいたことが確認でき、不安な気持ちが和らいだので今後も安心して学習に取り組めそうです」「小さい不安があるのはみんな同じだなと知れて安心することが出来たので、これから気持ちをどんどん高めていこうと思いました」「グループで話し合ったり、多くの先生方からのアドバイスをいただけたりと、参加してよかったです」などであった。

「参加の意義」と命名されたクラスター 2 の出現傾向が似た語は、「出来る」「話」「苦手」「聞く」「自分」「思う」「感じる」「セミナー」「受ける」であった。具体例として挙げると、「学生同士での話し合いからも自分にはなかった具体的なアイデアをもらうことも出来ました」「自分がどういうところが苦手か再確認することができた」「こういった機会に一緒に頑張る仲間ができて、受けて本当に良かったなと感じました」「今回のセミナーに参加して、不安を自信に変えることができたと感じています」などであった。

「学ぶ機会」と命名されたクラスター 3 の出現傾向が似た語は、「先生」「指導」「機会」「良い」「学生」「悩み」であった。具体例として挙げると、「先生にご指導していただいたことを生かして、面接練習をしていきたいと思います」「自己 PR や教員採用試験とは何か知る機会になった」「今回のセミナーを通して、エントリーシートの書き方のポイントを知ることができて良かったと思います」「学生同士での話し合いからも自分にはなかった具体的なアイデアをもらうことも出来ました」「周囲の人の悩みが自分の悩みでもあったので、勉強になったなと感じました」などであった。

「モチベーション」と命名されたクラスター 4 の出現傾向が似た語は、「気持ち」「方法」「対策」「筆答」「具体」「教える」であった。具体例として挙げると、「わからない問題がありすぎてこれから頑張っていこうという気持ちになった」「今は早くこの方法を早く試したいという気持ちでいっぱいです」「今までぼんやりとしか思い浮かべられていなかった教採へ向けての対策をより具体的に考えられるようになった」「筆答対策の具体的な方法や勉強ツールなどを

教職志望学生の教員採用試験結果に影響を及ぼす要因の検討

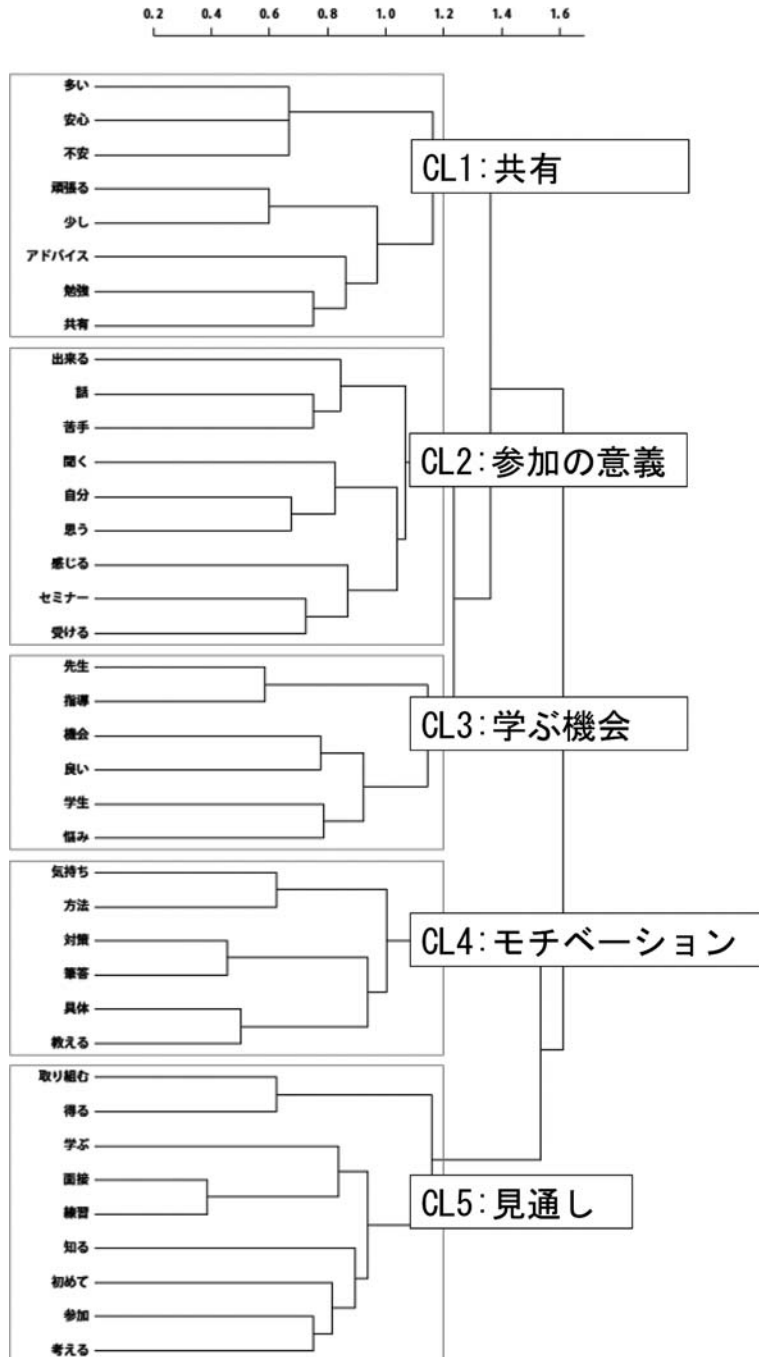


Figure 2 クラスター分析の結果

教えて頂いたので、それらも使って勉強していきたいと思います」「対面で筆答対策を受け、丁寧な解説や解き方のコツなどを教えて頂き納得する形で進めることができたので良かったと思います」などであった。

「見通し」と命名されたクラスター5の出題傾向が似た語は、「取り組む」「得る」「学ぶ」「面接」「練習」「知る」「初めて」「参加」「考える」であった。具体例として挙げると、「そこから得たたくさんの刺激で自分自身の熱意もとても高まったので本番に向けて取り組んでいきたいと思います」「時事に対して知識が不足していると考えています。だから、新聞や教職センターを活用しつつ学んでいきたいと思います」「面接で聞かれることの多い教育時事や、面接でどのようなことを見られているのかなどを学ぶことができました」「実践形式での面接練習だったので面接の難しさや考える内容などたくさん知ることができました」「方向性についても少し定めることができたので参加してよかった」などであった。

これら5つのクラスターから、教採サクセスセミナーに参加した学生は、セミナーへ参加することで、教員採用試験に向けた様々な情報を獲得することができたことに意義を感じているとともに、学生間の結びつきや指導教員とのつながりに価値を見出していることが推察される。

#### 共起ネットワーク

次に得られた自由回答について、最少出現数5、上位150語の条件で共起ネットワークを作成した（Figure 3）。共起ネットワークとは、「出現パターンの似通った語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだもの」（樋口、2013）である。

共起ネットワークより、「思う」「面接」「練習」「勉強」「対策」「自分」などの語について使用頻度が多いものとして捉えることができる。結びつきについては、階層的クラスター分析において整理されたグループに着目して捉えることにする。クラスター5として整理された「見通し」に関する語における「練習-面接-参加-考える-初めて」、「思う-多い-アドバイス」などのつながり、クラスター4として整理された「モチベーション」に関する語における「具体-得る-対策-教える-方法」などのつながり、クラスター1として整理された「共有」における「不安-聞く-頑張る-安心」などのつながり、クラスター3として整理された「学ぶ機会」における「良い-学生-機会-指導-先生」などのつながりが強いことがわかる。またクラスター1の「共有」とクラスター5の「見通し」、クラスター3の「学ぶ機会」とクラスター4「モチベーション」はそれぞれクラスター同士の結びつきが特に強いことが推察される。

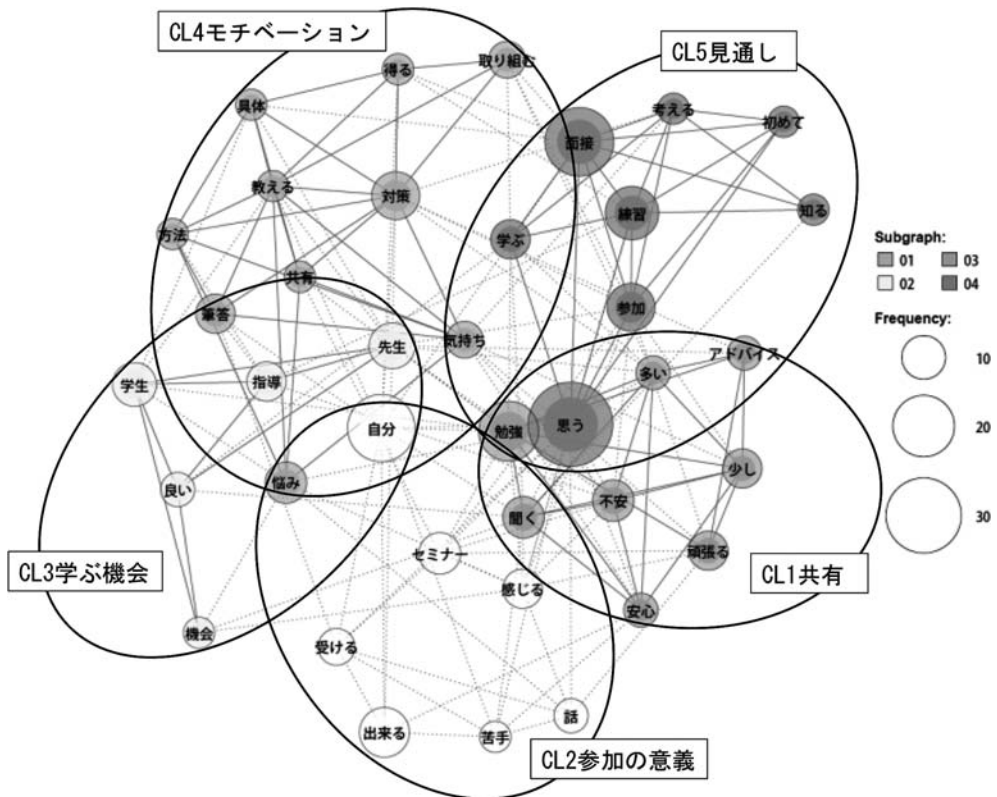


Figure 3 共起ネットワーク

## 総合考察

本研究は、教員採用試験の合否に教採サクセスセミナーへの参加がどのように影響しているのかという視点を中心に GPA や各自治体の競争倍率の視点から検討するとともに、教採サクセスセミナーに参加した学生がどのような視点で自身の学びを振り返っていたのかを分析したものである。

研究1で得られた結果として、教員採用試験の合否と教採サクセスセミナーの参加の有無についてクロス集計を行ったところ、教採サクセスセミナーに参加している者ほど、教員採用試験の合格者の割合が高いことが明らかとなった。さらには共分散構造分析により、教員採用試験対策セミナーへの参加回数が教員採用試験の合否に正の影響を及ぼしていることが明らかとなった。

教採サクセスセミナーは大学の正課の授業ではなく、主に土曜日を中心として、学生の教員採用試験への動機づけや学生同士の学び合いを促すことを目的として行われた。このような教

員採用試験に対する学習意欲を向上させるような機会に参加した学生は、参加しない場合に比べてより教員採用試験の合格の結果を得た可能性があると考えられる。また意欲だけでなく、学び合い活動を促進させることで、学生間で情報交換を行い、より効果的な対策の仕方などについて熟考する機会となり、それらが合格へのつながった可能性があると考えられる。

また、教員採用試験の可否には各学生の GPA も正の影響を及ぼしていることが明らかとなった。これについては、教員採用試験の可否には学生の基礎的な学習に対する資質・能力が関わっていることを示唆するものである。そもそも、大学における GPA はいわゆる受験勉強における良い成績と直結するものではなく、日々の大学の授業に対する真摯な学習の態度や、授業におけるレポートでの各学生の考えなどと結びついているものであると考えられる。先述のように、教員採用試験の試験内容についても、学生がこれまでに経験してきた受験勉強とは異なり、筆答試験だけではなく、実技テスト、小論文、面接、模擬授業など様々な視点から構成されるものである。これらの多様な試験内容から考えると、大学における GPA も同様の視点が含まれていると推察され、GPA が教員採用試験の可否と関連しているものと考えられる。

さらに、本研究の結果より、各自治体の教員採用試験の競争倍率は、その可否に負の影響を及ぼしていた。この競争倍率による負の影響は当然のことであると考えられるが、各学生が各自治体における教員採用試験の過去の実施状況を十分に把握し、競争倍率を吟味した上で、より合格を期待することができる自治体を受験しようとする視点も重要になると考えられる。

研究2においては、教採サクセスセミナー参加学生のセミナー後における自由回答についてテキストマイニングにて分析を行った。階層的クラスター分析の結果からは、「共有」「参加の意義」「学ぶ機会」「モチベーション」「見通し」という5つのクラスターが得られたが、これらからは教職を目指す学生がこれまで教員採用試験に対してどのように対策を行えばよいのかについて十分に把握できておらず、他の学生とも共有できていなかったということが推察される。またテキストマイニングによる共起ネットワークからも、教採サクセスセミナーに参加した学生は、教員採用試験に対して自分一人で勉強を進めることに対して不安を感じ、教採サクセスセミナーにて教員採用試験を目指す仲間と一緒に勉強することが安心感につながっていることなどが推察される。教採サクセスセミナーに参加した学生がこのように他の学生と協力して学ぶことに意義を感じていたことを考えると、研究1の結果で見られたセミナーに参加した学生の教員採用試験における合格率が高かったことは、他の学生との情報共有やつながりについても一つの要因として考えることができるのではないだろうか。

最後に本研究における成果と課題について述べる。本研究は、教員採用試験の可否に影響を及ぼす要因について検討したものであるが、大阪大谷大学における令和3年度の教職希望学生の一部のみを対象としたものであり、これをもって本研究の結果を一般的なものとして捉えることは難しいと推察される。しかし、教員採用試験はこれまでも述べてきたように、各自治



体によって異なる様相を持つとともに、時代によっても変化するものであると考えられ、その時期や地域における特色に応じた視点から分析し、対策を講じていく必要がある。これらの視点から考えると、本研究は大阪大谷大学における今後の教員採用試験対策への一つの方向性を示すものである。一方、本研究において調査対象者数が十分ではなかったことをふまえると、今後はさらに多くの教職志望者を対象として調査を進めるとともに、継続的な研究を行うことが求められる。

教員養成を担う大学にとっては、一人でも多くの学生が教員になりたいと強く思うことができる環境をつくるとともに、教職志望学生が教員採用試験に合格して、その希望を実現させていくことが必要である。本研究では、教員になるための第一歩である教員採用試験の合否に対して、どのような要因が影響を及ぼしているのかについて、教採サクセスセミナーを中心として検討した。今後は、さらに教員採用試験の合否に影響するその他の様々な要因について検討し、一人でも多くの教員が輩出できるように努めていく必要があると考えられる。

#### 引用文献

- 大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議 2021 大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議審議のまとめ
- 開沼太郎・中島悠介・江上直樹 2021 教職教育における教育方法の改善方策に関する考察 大阪大谷大学教職教育センター紀要、12、1-24.
- 川路澄人・佐竹易子 2017 島根大学教育学部における教員就職支援の現状と新たな取り組みに向けて 島根大学教育臨床総合研究、16、17-30.
- 樋口絢一 2014 テキスト型データの計量的分析－2つのアプローチの峻別と統合－社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－ ナカニシヤ出版.
- 文部科学省 2017 小学校学習指導要領
- 文部科学省 2021 令和2年度（令和元年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント  
[https://www.mext.go.jp/content/20210201-mxt\\_kyoikujinzai\\_01-000012429-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210201-mxt_kyoikujinzai_01-000012429-1.pdf)
- 大阪府 2021 令和4年度大阪府公立学校教員採用選考試験受検案内について  
<https://www.pref.osaka.lg.jp/kyoshokuin/kyosai/r4jukennannnai.html>
- 大阪大谷大学教職教育センター 2021 教職教育センターハンドブック－先生になるための応援冊子－
- 大阪大谷大学 2021 文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程
- 杉山友重・梅田和子 2019 近畿大学における教員採用選考試験の近年の合格実績及び課題 近畿大学教育論叢、31、105-123.
- 駿河克宏・佐藤史人・松浦善満 2010 和歌山大学教職・キャリア支援室の活動状況と教員採用試験の合否状況について 和歌山大学教育学部教職実践総合センター紀要、20、23-28.
- 辻本彰・富安慎吾・上森さくら・橋爪一治・畑智子 2015 現入試体制にみる島根大学教育学部生の状況－就職状況と入試形態、教職志向性、GPA、1000時間体験学修との関連 島根大学教育臨床総合研究、14、37-49.
- 内田実・溝口宏彦・伊藤信成 2021 教職支援センター教員養成支援部門における教員採用対策－その成果と課題－ 三重大学教育学部研究紀要、72、531-539.

教職志望学生の教員採用試験結果に影響を及ぼす要因の検討

和歌山県 2021 令和4年度和歌山県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項

[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500300/saiyou/top\\_d/fil/R4youkou.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500300/saiyou/top_d/fil/R4youkou.pdf)

## 【調査報告】

# 富田林市若者会議への 参加がもたらす人材育成上の効果

——シティズンシップ教育ルーブリックの試作と  
その活用，次年度以降のための教訓——

岡島 克樹\*・中島 悠介\*\*

## 1. 本調査の背景・目的

富田林市では、「富田林総合ビジョンおよび総合基本計画」において、基本施策「主体的な市民参加と協働によるまちづくり」とその基本施策1「参加と協働のためのしくみづくり」で、「市民がまちづくりに参加しやすい環境づくりや、適切な情報公開・発信を推進するとともに、まちづくりの担い手となる地域人材の育成や、さまざまな主体によるネットワークの充実を図ります」という基本的な方向が示され、市民参加・協働の促進に努めてきたところである。特に若者については、上述の基本施策1に加えて、分野別施策1「未来への希望を育む子育て・教育」、その個別施策4「未来の担い手の育成」において、「子ども・若者が心身ともに健やかに成長し、社会の一員として活躍できるよう、家庭・地域・学校・行政等の連携を深め、子ども・若者の居場所づくりや主体的な活動の促進を図ります」との方針を掲げ、具体的には、地域に対する愛着や誇りを育み、地域活動を支える人材の育成をはかるためまちづくりへの自主的な取り組みを支援することとなっている。

一方、大阪大谷大学では、地域に根差し、地域の発展に貢献する大学として、大学の長期計画である「Ohtani Vision 2025」において、「人文科学、社会科学及び自然科学を教育研究する総合大学ならではの学際的で特色ある研究を推進し、その成果を大学における教育や社会に積極的に還元する。また、本学教員の専門的な知見を地域の発展のために活かす。これらのことをとおして、社会の発展や地域社会の活性化に大きく貢献する」と記載されている<sup>1)</sup>。そのため、特に富田林市に対しては、大学が位置する自治体でもあることから、市の委員会・審議会や研修に委員や講師として教員を、あるいは、ボランティアとして学生を派遣するなどしてきている。

---

\*大阪大谷大学人間社会学部教授

\*\*大阪大谷大学教育学部准教授

こうした中、富田林市は、2020年8月に開催された「未来の富田林をあなたと描く市民会議“Mira-ton+”」で出てきた意見を踏まえ、2020年12月、「富田林市若者条例」を制定した。その第7条において、「市は、若者が市政等に参画する機会を確保するため、富田林市若者会議を設置する」と定められたことから、富田林市は、2021年1月、富田林市若者会議（以下、若者会議）の開催予定を公にするるとともに、2021年4月より第1期委員の募集を開始した。

大阪大谷大学に対しては、富田林市側からこの若者会議の開催に関する連携の提案が行われ、これを受けて、大学志学台広報係が軸となり、同会議への協力について検討が始められた。結果、大阪大谷大学としては、①次節で詳述する、若者会議委員への事前研修の実施、②教授会での告知や学内イントラネットへの掲載等を通じた、若者会議参加学生の募集、③若者会議の開催が参加者にもたらす影響に関する調査の実施という、3つから構成される地域連携事業を行うこととなった。なお、若者会議には、学内における募集活動の結果、大阪大谷大学からは、人間社会学科3回生3名、歴史文化学科3回生1名の計4名が、他大学の学生、専門学校・高校の生徒、社会人の参加者21名とともに、市から第1期委員の委嘱を受けた。

富田林市若者会議のような取り組みは、日本では、2010年代中頃に様々な自治体で行われるようになった、比較的新しいものである。それら取り組みにおける「若者」の定義は、富田林市のように「概ね16歳から30歳までの者」（富田林市若者条例第2条）とするところもあれば、35歳まで、40歳までとするところもあり、多様である。また、その設置根拠についても、条例が制定されている場合もあれば、要綱に基づく場合、さらには必ずしも正式な行政上の位置づけを有しない場合もあり、この面でも多様性が見られる。

富田林市の調べ<sup>2)</sup>によれば、2020年4月の時点で、「若者会議」あるいは類似の名称を持つ取り組みは全国で約60件確認され、三輪・水野（2017）<sup>3)</sup>では「全国に約50個、私が確認できていないものも含めるとさらに数は多くなるようなイメージもある」との記述が見られる。全国には、現在、1718の基礎自治体があること、また、大阪府内において、若者会議を設置している自治体はごく少数しか存在しないことから、富田林市の取り組みはなおユニークであり、市の先進性を示すものであると言えよう。

こうした若者会議の具体的な活動としては、多くの場合、①市の課題や政策に関して若者からの意見・提案を得る、②若者の意見・提案を市政に取り込むという2つの主要プロセスから構成される。その意図は、そもそも、市政の当事者である市民に対して市政に参加する権利を保障し、市政の民主的正当性を強化するという政治的なねらいがある。加えて、一定の年齢層と性別に偏向する、すなわち、高齢男性に集中するという市政参加の現状の中、市が行う施策と若者のニーズとの間の整合性を確保し、施策の効果・効率を向上させるという行政上のねらいも存在する。そして、このような取り組みは、2019年7月、「富田林版SDGs取組方針」を策定し、2020年7月には、国から「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」の選定を受

## 富田林市若者会議への参加がもたらす人材育成上の効果

けた富田林市にとっては、SDGs が多様なステークホルダーによる連携や当事者による参画を前提とすることから、特に重要な動きであるとも言えよう。

富田林市の若者会議の影響を考えるうえでは、そうした政治的・行政的といった観点から評価を行うことが可能であるが、若者会議の取り組みは、さらに、市のまちづくりを担う人材育成という側面もある。実際、富田林市若者条例も、「若者のまちづくりへの参画及び育成を図る」（第1条。下線は筆者）としている。富田林市若者会議は、2-2で詳述するように、市の課題やその対策に一定程度精通する若者を毎年20人、10年継続すれば200人の若者を輩出することになるのである。本調査では、調査に関わった教員の専門知識・関心、そして、時間的制約もあり、若者会議への参加が参加者にもたらす人材育成上の効果に焦点を絞って、問いを立て、これへの答えを探求することとした。

なお、本調査は、上述したように、大阪大谷大学の地域連携事業として行われたものであるが、2021年6月、富田林市教育委員会からの後援を得て実施されたことを付記する。

## 2. 若者会議委員に対する介入の概要

若者会議において、委員は富田林市の魅力や課題を探し、その魅力を深め、広げる施策や、課題を改善・解決する施策を企画し、市長に報告・提案するということに取り組んだ。表2-1はその主なスケジュールであるが、このほか、以下で記すような、大阪大谷大学教員および富田林市職員による介入が行われた。

表2-1 富田林市若者会議（第1期）のスケジュール

オリエンテーション	令和3年5月9日	リモート開催
事前研修	6月5日	リモート開催
第一回全体会議	6月13日	リモート開催
第二回全体会議	7月11日	対面開催
第三回全体会議	7月25日	対面開催
中間報告会・第四回全体会議	8月15日	対面開催
第五回全体会議	8月29日	対面開催
施策提案・振り返り会	9月12日	対面開催
結果報告会	令和4年4月10日	対面開催

### 2-1. 事前研修

富田林市若者会議においては、前節で触れたように、地域にある大学による貢献として、ま

た、若者会議委員による報告・提案がより円滑に進むことを期待して、若者会議の活動が本格化する直前の時点、6月5日、事前研修が行われた。

その内容としては、まず、岡島から、富田林市がSDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業の選定を受けていることを考慮し、若者会議とSDGsとの関係、特に若者会議という参画型の取り組みとSDGs実施主要5原則との間にある整合について説明がなされた。また、「“よい”事業企画とは何か」と題し、施策を企画する上で意識すべき公共政策学上の基本、具体的には、OECD/DACが構築・改定してきた評価6原則について講義が行われた。さらに、施策の提案を行う際に求められるCRF原則（理由Reason(s)と根拠Fact(s)をもった結論Conclusion）についても解説がなされた。

続いて、中島から、若者会議の意義について、参加者へのシティズンシップ教育の側面から説明されるとともに、政策形成過程への若者参加に関する海外の動向が紹介された。具体的には、市民的権利、政治的素養といった要素が含まれるシティズンシップ（市民性）の育成は、日本の学校教育・社会教育の重要なテーマとなっているが、若者の政治参加は他国と比較しても進んでいるとは言い難い。その一方、米国ボストン市の「ユース・リード・ザ・チェンジ」をはじめ、政策形成過程への若者参加を促進する取り組みは各国で行われており、若者の考えを政策形成に活かしつつ、シティズンシップ育成につながるものである。富田林市若者会議もこのような性格を持ち、参加者にとっても成長の機会となる可能性が伝えられた。

なお、この事前研修は、新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、すべてオンラインで行われた。

## 2-2. 市役所メンター職員による指導

若者会議において、委員が提案施策の検討を進めるにあたり、市役所職員からなる「メンター職員」による指導を実施した。

メンター職員は、会議進行の補助や行政的観点からの助言等、委員を指導・支援するため、テーマごとに設置した5つの部会に各1名配置した。なお、メンター職員の選任にあたっては、出来る限り委員と同じ目線で話せるよう、若手職員を委嘱した。

メンター職員は施策の検討において、補助的な役割を想定していることから、会議の主導権は委員に委ね、議論の誘導や結論への近道を示唆するようなことはしないよう、若者会議運営事務局から指示を受けていた。このため、メンター職員は、委員と同じ目線に立って会議に参加しつつ、施策提案に向けて議論をまとめていかなければならないという、非常に難しい立場で会議の進行を補助することが求められていた。

このような難しい立場に置かれながらも、メンター職員は、委員のすべての意見に耳を傾け、否定をすることなく反応し、時には意見に対する課題や問題点を提起しつつ、各部会の代

表者を会議進行の中心に据えて議論を進め、最後まで委員主体の会議進行に徹した。

メンター職員によると、委員が課題に直面した際に実施するアドバイスの加減や、委員のモチベーションの維持、財源（税金を使用）や公共性への配慮、施策を検討する上で重要な要素を伝えるタイミングを計ることなどに特に注意を払っていたとのことであった。

### 3. 本調査の枠組み

本節では、富田林市若者会議が参加者に与える教育的効果を検討するにあたり、参加者による自己評価の方法及び手続きについて概説する。参加者による自己評価のためのツールとして、①「富田林市若者会議」参加者の学びを自己評価するためのループリック表、②富田林市若者会議ふりかえりワークシート、の2点を作成した。

①のループリック表については、多文化共生のための市民性教育研究会編（2020）に記載されている「多文化共生のためのシティズンシップ教育 ループリック表<sup>4)</sup>」をもとに、松倉（2019 a）<sup>5)</sup>、松倉（2019 b）<sup>6)</sup>、牛込（2019）<sup>7)</sup>を参考にして作成した（表3-1）。ループリック表は「政策提案に関する資質・能力に関する事項」として「提案内容」「提案の根拠の提示」「実現可能性の検討」の3つの観点を設定した。また、「社会参画・主権者意識に関する事項」として「人権と民主主義」「公共性と主権者意識」「政治参加への意識」「社会参画①（社会問題への関心）」「社会参画②（課題解決の考察）」の5つの観点を設定した。そして最後に「個人の学びに向かう力・人間性に関する事項」として「自己主張」「傾聴」「合意形成①（論点の整理）」「合意形成②（参加姿勢）」「他者との協働」の5つの観点を設定した。以上の13の評価の観点に対し、4段階の評価基準を設けた。このループリック表を用いて、若者会議が参加者に対してもたらす教育的効果について、若者会議の参加期間中と、最後に施策提案を行う最終報告会後の変化を検討した。

②のふりかえりシートについては、最初に、各自が自分のループリックの記載を前後比較し、「重要な変化」があった項目3つについてどのような過程でその重要な変化があったのか、それらの背景や理由について考える個人ワークを行った。その後、基本として、4人1組に分かれて個人ワークの内容を共有し、自己評価について修正・追記するグループワークを行った。そして最後に、グループワークの結果を全体で共有した。なお、ここで述べる「重要な変化」とは、ループリックを用いた自己評価の結果が、たとえば1から4にあがるなど、量的に大きく変化した場合と、量的にはとくに大きなものではなくても、自分自身や社会にとって重要であると考えられる質的な変化の双方を含んでいる。

本調査を実施するにあたり、大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部研究倫理委員会より審査を受け、承認された。また、若者会議の参加者に対し、調査の目的、内容、期間、記

富田林市若者会議への参加がもたらす人材育成上の効果

録方法、個人情報取り扱いなどについて調査開始前に説明し、同意した者のみが本調査に参加した。なお、2021年は新型コロナウイルス禍の状況であるため、参加者への説明はZoomを通して遠隔で行い、また、上記の同意書もGoogleフォームを通して回収した。なお、これらの手続きは富田林市役所内の担当課とも随時確認・調整しつつ進められた。

以上の調査の設計及び手続きのもと、①のループリック表を用いた自己評価には23名、②のふりかえりシートによる自己評価には17名の協力を受けた。自己評価の参加者の属性は、表3-2のとおりである。ループリック表による自己評価は、若者会議参加期間中の2021年6月と、市長に対して施策提案を行う最終報告会が開催された2021年9月に実施した（本稿では、6月に実施した自己評価を「事前評価」、9月に実施した自己評価を「事後評価」と記述する）。また、②のふりかえりシートによる自己評価については、上述の最終報告会后にふりかえり会を実施し、その際にシートへの記入を依頼した。

表3-1 参加者が自己評価に用いたループリック表

記入日： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

「富田林市若者会議」参加者の学びを自己評価するためのループリック表（当てはまる項目に☑をつけてください）

分類	観点	4	3	2	1
政策提案に関する 資力・能力に関する事項	提案内容	<input type="checkbox"/> 内容が明確な提案を行うことができ、富田林市が必要だと考える提案を複数することができ、富田林市の課題を的確に把握している。	<input type="checkbox"/> これまでの物事を提案した経験をもとに、その内容を明確に説明することができる。	<input type="checkbox"/> 物事を提案する際に、その内容イメージすることができる。	<input type="checkbox"/> 物事を提案する際に、その内容イメージすることができない。
	提案の視覚的提示	<input type="checkbox"/> 図や写真、グラフや地図など必要なもの、図表などを活用して説明できる。	<input type="checkbox"/> これまでの物事を提案した経験をもとに、その図表や写真などを活用して説明することができる。	<input type="checkbox"/> 物事を提案する際に、「その図表が必要である」という旨を説明することができる。	<input type="checkbox"/> 物事を提案する際に、その理由を述べることが難しい。
	実現可能性の検討	<input type="checkbox"/> 提案が実現する際、実現可能な具体的なイメージを提示することができる。（実行主体、予算、実施期間など） 提案を実現させるために働きかけやすいところを特定している。	<input type="checkbox"/> これまでの物事を提案した経験をもとに、その実現性（実行主体、予算、実施期間など）を検討することができる。	<input type="checkbox"/> 物事を提案する際に、その実現性（多少なりとも）を言及することができる。	<input type="checkbox"/> 物事を提案する際に、その実現性を考えることが難しい。
社会参画・主催者 意識に関する事項	人権と民主主義	<input type="checkbox"/> 人権と民主主義の観念に照らして、その意義を他者に説明できる。	<input type="checkbox"/> 人権と民主主義の観念に照らして、それを伝えていく実践についても述べることができる。	<input type="checkbox"/> 人権と民主主義について興味を持き、自身の意見を述べることができる。	<input type="checkbox"/> 人権と民主主義の観念を説明することが難しいと感じている。
	公共性と主催者意識	<input type="checkbox"/> 公共性とは人々の参加を通じて達成されていくものであることを理解でき、多様な方法による合意形成の方法を探求できる。	<input type="checkbox"/> 公共性とは人々の参加を通じて達成されていくものであるという観点から、多様な方法による合意形成の方法を探求できる。	<input type="checkbox"/> 公共性とは人々の参加を通じて達成されていくものであることを説明できる。	<input type="checkbox"/> 公共性の重要性をイメージ・説明することが難しい。
	政治参加への意識	<input type="checkbox"/> 制度をまわっているだけでは足りない社会的な参加の方法について、その特徴と課題を説明できる。	<input type="checkbox"/> 制度をまわっているだけでは足りない社会的な参加の方法について、その特徴と課題を説明することができる。	<input type="checkbox"/> 制度のような制度をまわっている参加の方法について、その特徴と課題を説明できる。	<input type="checkbox"/> これまでの学び・経験の中で、制度のような制度をまわっている参加の方法に関する知識が深まっていると感じている。
	社会参画	<input type="checkbox"/> 社会的な関心を持ち、情報を収集してその活用方法を考えようとする。	<input type="checkbox"/> 社会的な関心を持ち、解決しようとする。	<input type="checkbox"/> ニュースなどに関心を持っており、社会問題について自発的に自ら調べようとしている。	<input type="checkbox"/> ニュースなどに興味を持ちつつも、社会問題について積極的に調べようといった意識がない。
個人の学びに向かう力・人間性に関する事項	自己主張	<input type="checkbox"/> 自分や他者の生活に関わることで、「もっとこうしたい」という思いを伝えたいという思いや、その場で発言していることを意識することができる。	<input type="checkbox"/> 自分や他者の生活に関わることで、日々の生活の中で発言しやすくなる。	<input type="checkbox"/> 自分や他者の生活に関わることで、自分と他者の意見を表明しやすくなる。	<input type="checkbox"/> 自分や他者の生活に関わることで、意見を表明することが難しい。
	精誠	<input type="checkbox"/> 相手の意見、特に少数意見に傾き多し、自身の意見がある程度賛成を受け、自分の意見を押し通したいという思いや、その場で発言していることを意識することができる。	<input type="checkbox"/> 相手の意見について、自分の意見とは異なるが、相手の意見に賛成を受け、自分の意見を押し通したいという思いや、その場で発言していることを意識することができる。	<input type="checkbox"/> 相手の意見を聞きながら、自分の意見を押し通したいという思いや、その場で発言していることを意識することができる。	<input type="checkbox"/> 相手の意見に賛成を受け、自分の意見を押し通したいという思いや、その場で発言していることを意識することが難しい。
	合意形成	<input type="checkbox"/> 異なる意見を解決するために、論議の争点を分け合ったりして解決できる。	<input type="checkbox"/> 異なる意見を解決するために、争点を分け合ったりして解決できる。	<input type="checkbox"/> 合意形成を目指して、争点を出している意見を整理し、重なることができる。	<input type="checkbox"/> 争点を分け合ったりして解決することが難しいと感じている。
	他者との協働	<input type="checkbox"/> 自分と異なる価値観を持つ他者と役割分担しながら進めようとする。柔軟に相互にフォローすることができる。	<input type="checkbox"/> 自分と異なる価値観を持つ他者と役割分担しながら進めようとする。	<input type="checkbox"/> 自分と異なる価値観を持つ他者と役割分担しながら進めようとする。	<input type="checkbox"/> 「自分と異なる価値観を持つ他者と役割分担しながら進めようとする」ということをイメージできない/自分とは異なる価値観を持つ他者と役割分担しながら進めようとする。

出典：多文化共生のための若者会議研究委員会「多文化共生のためのシティズンシップ教育実践ハンドブック」研究報告、2019年、和歌山県庁「上尾市立東中学校における実践①—50名を達成するための必要な学び—」、田中道彦の報告「50名を達成するための必要な学び」の抜粋、75から86頁を引用可能なまま。本文は、2019年、122頁を参考に筆者作成。

出典：筆者作成。



表 3-2 自己評価参加者の属性

	男子	女子	計	高校生	大学生・ 専門学校生	大学院生・ 社会人	計
ループリックによる自己評価	9	14	23	6	15	2	23
ふりかえりシートによる自己評価	7	10	17	5	11	1	17

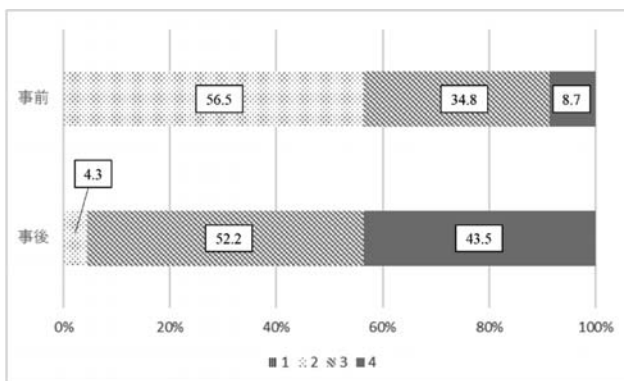
出典：筆者作成。

#### 4. 調査の結果

本節では、前節で説明した調査の枠組みをもとにして、結果の概要を提示する。第1項でループリック表を用いた自己評価について、事前評価と事後評価の変化を検討する。そして第2項において、ふりかえりシートを用いた自己評価に記載された内容を確認する。

##### (1) ループリック評価における学生の変化

まず「政策提案に関する資質・能力に関する事項」の中の3つの観点では、いずれも「1」または「2」と回答した者の割合は減少し、「3」または「4」と回答した者の割合が増加している。「提案内容」では、事前評価で「2」と回答していた者が半数を超えていたが（56.5%）、事後評価では「3」または「4」と回答した者が95.7%を占めている（図4-1）。また、「提案の根拠の提示」では事後評価において「3」または「4」を選択した学生が86.9%を占めている（図4-2）。そして「実現可能性の検討」では、事前評価において「3」と回答した割合は34.8%、「4」と回答した割合は13.0%となっている一方、事後評価では「3」と回答したのは52.2%、「4」と回答したのは43.5%となっており、合計で90%を超えている（図4-3）。このように「政策提案に関する資質・能力に関する事項」については、軒並み自身の成長を実感している様子が看取できる。



4. 内容が明確な提案を行うことができ、富田林市が必要だと考える政策を検討することができる。富田林市の課題を的確に把握している。
3. これまでの物事を提案した経験とともに、その内容を明確に説明することができる。
2. 物事を提案する際に、その内容をイメージすることができる。
1. 物事を提案する際に、その内容をイメージすることができない。

図 4-1 提案内容

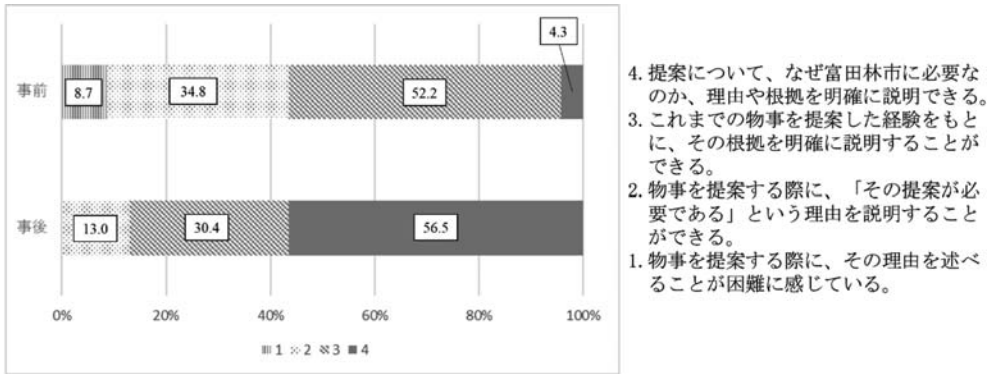


図 4-2 提案の根拠の提示

4. 提案について、なぜ富田林市に必要なのか、理由や根拠を明確に説明できる。
3. これまでの物事を提案した経験をもとに、その根拠を明確に説明することができる。
2. 物事を提案する際に、「その提案が必要である」という理由を説明することができる。
1. 物事を提案する際に、その理由を述べるのが困難に感じている。

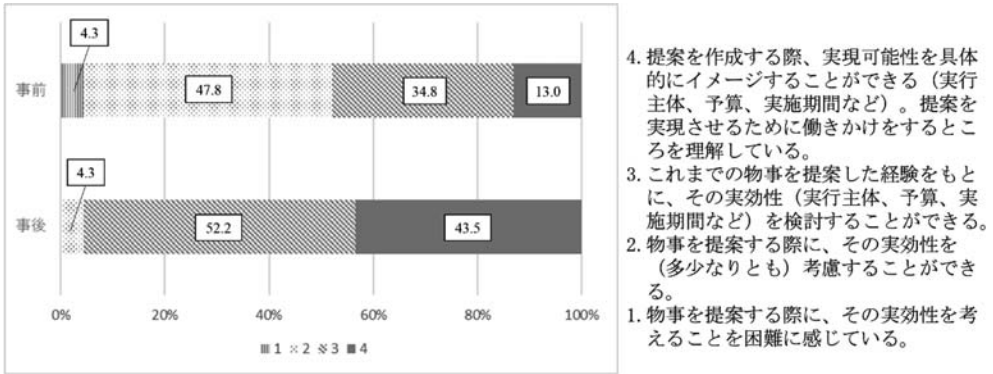


図 4-3 実現可能性の検討

4. 提案を作成する際、実現可能性を具体的にイメージすることができる（実行主体、予算、実施期間など）。提案を実現させるために働きかけをするところを理解している。
3. これまでの物事を提案した経験をもとに、その実効性（実行主体、予算、実施期間など）を検討することができる。
2. 物事を提案する際に、その実効性を（多少なりとも）考慮することができる。
1. 物事を提案する際に、その実効性を考えるのが困難に感じている。

次に、「社会参画・主権者意識に関する事項」について見ていく。「人権と民主主義」では、事前評価では「3」「4」合わせて30%程度であり、また「1」と回答した者も13.0%となっているが、事後評価では「3」「4」と回答した者が50%に迫っており、一定の改善が見られる（図4-4）。また、「公共性と主権者意識」では事後評価で「3」「4」と回答した者が80%を超えており、「4」と回答した者も半数を超えている点で、参加者にとって成長を実感した項目として看取できる（図4-5）。「政治参加への意識」では事前評価では「1」と回答した者が39.1%を占めており、政治参加に関する意識が薄いと感じていた者が多く見られた一方、事後評価では8.7%となっており、こちらも改善が見られた（図4-6）。そして「社会参画①（社会問題への関心）」については、事前評価でも「3」「4」と回答していた割合が50%を超えていたが、事後評価では「3」「4」合わせて85%を超えており、「4」と回答した割合でも59.1%を占めていることから、施策提案に取り組む中で社会問題に関する知識や関心が身に付いたことが推察される（図4-7）。最後に「社会参画②（課題解決の考察）」では、事前評価では「4」と回答した割合が8.7%となっているが、事後評価では43.5%を占めていることから、富田林市が

抱える課題について真剣に考える機会を持つことができた実感している（図4-8）。

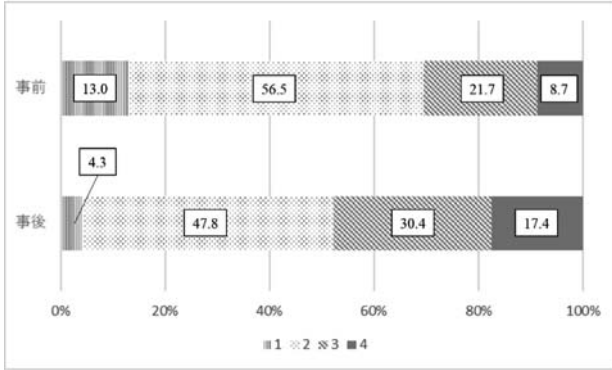


図 4-4 人権と民主主義

1. 人権と民主主義の意味を説明することが難しいと感じている。
2. 人権と民主主義について意味を理解し、自身の意見を述べる事ができる。
3. 人権と民主主義の説明に当たって、それらを支えている諸原理についても述べることができる。
4. 人権と民主主義の諸原理に触れつつ、その重要性を他者に説明できる。

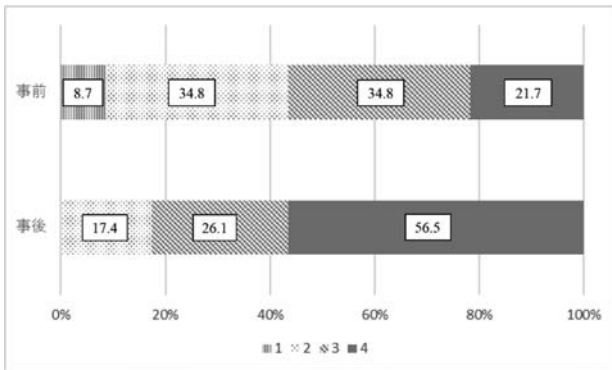


図 4-5 公共性と主権者意識

1. 公共性の重要性をイメージする・説明することを難しく感じている。
2. 公共性は人々の参加を通じて構築されていくものであることを説明できる。
3. 公共性は人々の参加を通じて構築されていくものであるという観点から、多数決での同意調達の問題点を説明できる。
4. 公共性は人々の参加を通じて構築されていくものであることを踏まえて、対話による合意形成の方法を提示できる。

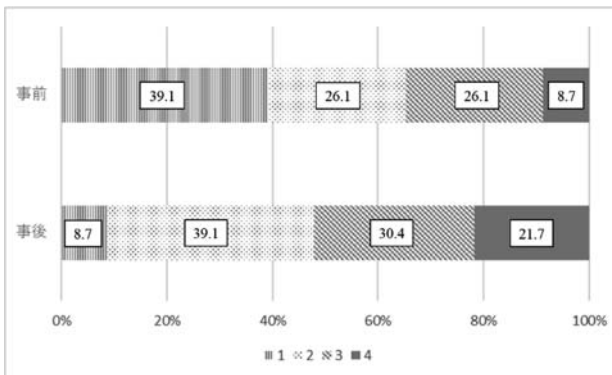
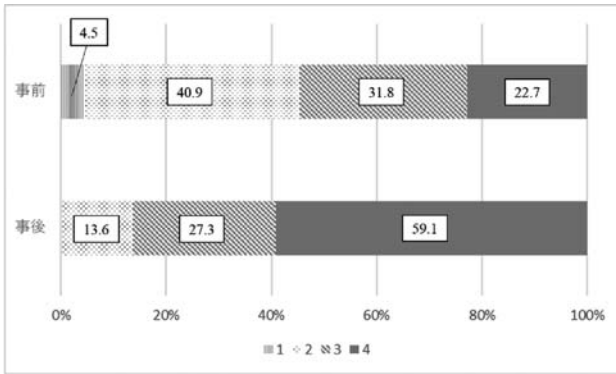


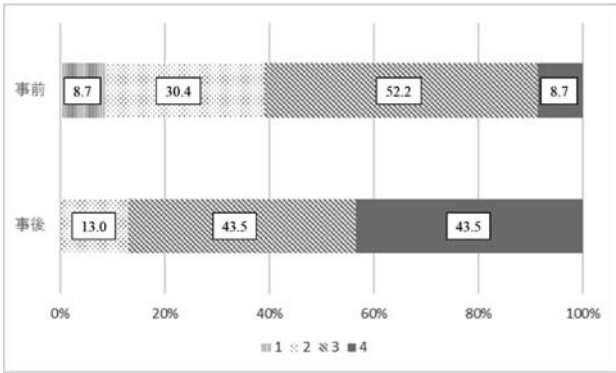
図 4-6 政治参加への意識

1. これまでの学び・経験の中で、(選挙のような)制度化されている政治参加の方法に関する知識が身につけていないと感じている。
2. (選挙のような)制度化されている政治参加の方法について、その特質をある程度説明できる。
3. 制度化されている政治参加の方法について、その特質と課題を説明でき、日本社会の現状との間で起こっている問題点を示すことができる。
4. 制度化されているものだけではない多様な政治参加の方法について、その特質と課題を説明できる。



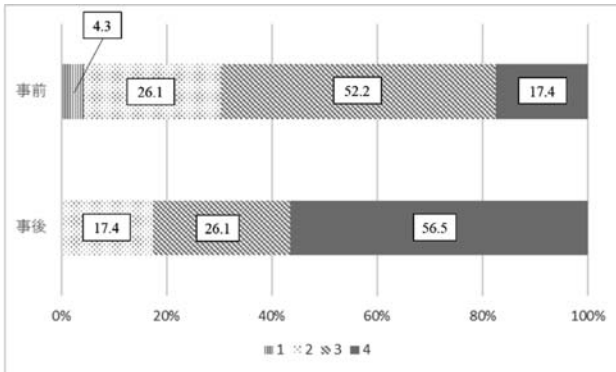
4. 社会問題に強い関心を持ち、課題を発見してその達成方法を考えて実行できる。
3. 社会問題に関心を持ち、解決しようと考えていることができる。
2. ニュースなどに関心をもっており、社会問題について日常的に自ら調べるようになっている。
1. ニュースなどに特に関心を持っておらず、社会問題等について調べるといった習慣がない。

図 4-7 社会参画①（社会問題への関心）



4. 自らの社会問題解決の実践を省察したうえで、探求すべき課題を見出すことができる。
3. 社会問題の解決について考える際に、日々の学習で学んだことを結びつけることができる。
2. 社会問題の解決について考える際、他の授業で学習しそうな内容が思いつく。
1. 社会問題の解決について考えることが苦手である／現在の社会問題についてイメージすることが難しい。

図 4-8 社会参画②（課題解決の考察）



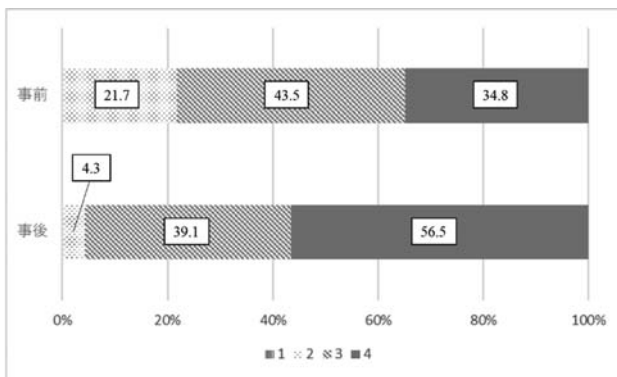
4. 自分や他者の生活に関わることで、「もっとこうしたい／こうしてほしい」という意見や、その場で感じていることを公共の場で論理的に言語化できる。
3. 自分や他者の生活に関わることで、「もっとこうしたい／もっとこうしてほしい」という意見や、その場で感じていることを言語化できる。
2. 自分や他者の生活に関わることについて、ひとまず意見や感情を表明しても良いと理解している。
1. 自分や他者の生活に関わることについて、意見を表明することが苦手に感じている。

図 4-9 自己主張

最後に、「個人の学びに向かう力・人間性に関する事項」については、それぞれの評価の観点に対し、事前評価と事後評価の変化の内容に一定の差が見られた。「自己主張」については事前評価で「4」と回答した割合が17.4%にとどまっているが、事後評価では半数を超えてお

り、「3」と回答した者を含めると80%を超えている(図4-9)。次に「傾聴」であるが、事前評価で「3」「4」と回答した者が78.3%となっており、多くの参加者が傾聴の姿勢を身につけていると感じているが、事後評価では95%を超えており、さらに成長を実感しているといえることができる(図4-10)。

「合意形成①(論点の整理)」についても、事前評価では「1」と回答した者が13.6%を占めており、一定の困難さを感じていたことが見て取れるが、事後評価では「1」と回答した者は見られず、「4」と回答した者が45.5%を占めている(図4-11)。「合意形成②(参加姿勢)」についても同様、事前評価で「1」「4」と回答した割合がそれぞれ17.4%を占めており、苦手と感じている者も多く見られたが、事後評価では「1」と回答した者は見られず、「3」「4」と回答した者がそれぞれ34.8%となっているため、ある程度の成長を実感していることが見受けられる(図4-12)。最後に「他者との協働」について、他の項目とは異なる傾向が見られた。事前評価では、「3」「4」と回答した者の割合がそれぞれ43.5%を占めていたが、事後評価では「3」「4」と回答した者がそれぞれ39.1%と減少しており、「1」と回答した者も4.3%と微増している。これは、もともと他者との協働について自信を持っていた参加者が、若者会議での施策提案を通して、その難しさを再認識したことが背景にあると考えられる(図4-13)。



4. 他者の意見、特に少数意見に関心をもって、発言の背景にある意図や前提状況を理解し、「このようなことが伝えたいということでしょうか？」とその受け止めを表現することができる。
3. 他者の意見について(自分の意見とは関係なく)、言葉の背景にある意図や前提状況を理解しようと質問を重ねながら、受け止めることができる。
2. 他者の意見をささげらずに最後まで聴くことができる。
1. 他者の意見を困難である/他者が意見を述べる前に、自身の意見を優先してしまう。

図4-10 傾聴

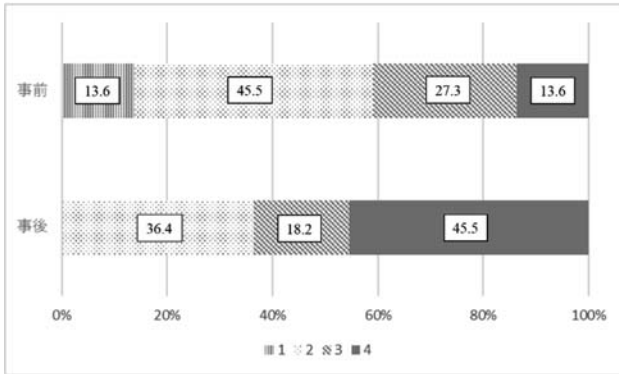


図 4-11 合意形成①（論点の整理）

4. 意見の対立を解消するために、議論の争点を見つけ出して論点提示できる。
3. 合意形成を目指して、場に出ている意見を並べて、表やマトリクスなどを用いて整理することができる。
2. 合意形成を目指して、場に出ている意見を理解し、並べることができる。
1. 他者と話したり議論したりする際、述べられた意見を理解することが難しいと感じている。

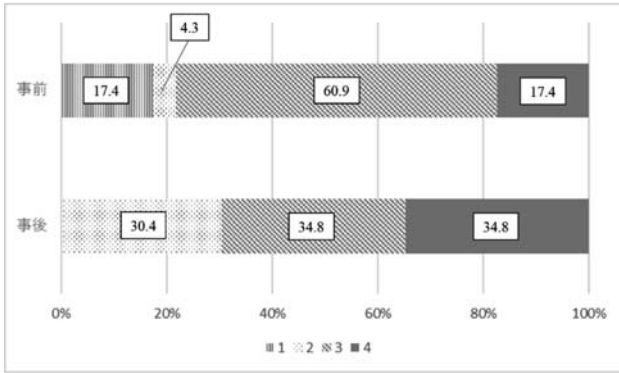


図 4-12 合意形成②（参加姿勢）

4. 緊張度の高くなった場面でユーモアをもたらして場をほぐすなど、議論を継続できる環境をつくることができる。
3. 少数派の立場で緊張度が高くなった際にすぐに妥協せずに、じっくりと議論しようとする。
2. 緊張感の高くなった場面に耐えて、議論に参加し続けられる。
1. 緊張感の高くなった場面に耐えることが苦手である／緊張度の高い場面の議論をイメージすることが難しいと感じる。

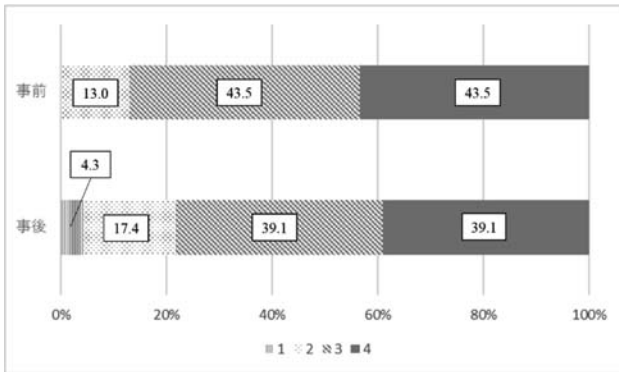


図 4-13 他者との協働

4. 自らと異なる価値観を持つ他者と役割分担をしながら活動しつつも、柔軟に相互にフォローすることができる。
3. 自分とは異なる価値観を持つ他者とも役割分担をしながら活動することができる。
2. 自分とは異なる価値観を持つ他者とも争わない。
1. 「他者が自分とは異なる価値観を持つ」ということをイメージできない／自分とは異なる価値観を持つ人と、よく対立する。

(2) 「ふりかえりシート」を通じた参加者の変化

本項では、ふりかえりシートを通して参加者が実感した変化を検討する（表 4-1～3）。学生が提出したシートについて、評価の観点に沿って整理した。なお、これらの表の中で参加者が

変化を実感したと捉えられる箇所には波線を付している。また、個人が容易に特定されうると考えられる記述については省略した。なお、参加者のコメントは内容的には別のカテゴリーに含まれるように見えるものであっても、本人の意思を尊重し、指定されたカテゴリーのまま記載している。

まず、「政策提案に関する資質・能力に関する事項」に含まれる「提案内容」「提案の根拠の提示」「実現可能性の検討」について見ていく（表4-1）。「提案内容」では、職員からの講義や市の現状や課題について自ら調べることを通し、アイデアを考えたり、それらを言語化できるようになったりしたという内容が見られた。また、「提案の根拠の提示」では、上記の活動の中で、特に量的なデータを根拠として提案することができ、その重要性を認識するようになったという変化が見られた。最後に「実現可能性の検討」については、予算や短期的・長期的計画、実行主体や協力者、事業の主要な対象について、より深く考えることができるようになったという意見が見られた。これらの記述は、自身の提案を実現するためにしっかりと考え、言語化できるようになった変化を示していると考えられる。

次に「社会参画・主権者意識に関する事項」に含まれる「人権と民主主義」「公共性と主権者意識」「政治参加への意識」「社会参画①（社会問題への関心）」「社会参画②（課題解決の考察）」について見ていく（表4-2）。まず「人権と民主主義」の変化に関する記述が見られなかったことから、その概念自体は抽象的なものであり、参加者も変化をイメージするのが難しかった可能性が考えられる。その一方で「公共性と主権者意識」については同様に抽象的な概念であるものの、会議参加の前後で変化を実感した記述が多く見られた。実際に公的資金を投入する以上、特定の人々のみ利益になることを避けるために、幅広い対象や説明責任の重要性について、メンター職員からの指導助言や、中間報告会・最終報告会で指摘を受けたことが、参加者にとっても印象に残っていたと考えられる。次に「政治参加への意識」についても、今回の施策提案において「新しいもの」を提案するために「すでにあるもの」を知る必要があることを実感したという記述が見られた。最後に「社会参画①（社会問題への関心）」「社会参画②（課題解決の考察）」についても、社会問題や達成すべき課題について、以前よりも身近に感じ、当事者意識を持つようになっている。また、課題解決への意欲についても、若者会議での施策提案を通じて、それらを実際に経験することの重要性を認識した記述が見られた。

最後に「個人の学びに向かう力・人間性に関する事項」に含まれる「自己主張」「傾聴」「合意形成①（論点の整理）」「合意形成②（参加姿勢）」「他者との協働」について見ていく（表4-3）。まず「自己主張」では、自身の意見や考えについて、積極性、明確さ、論理的な説明を心がける姿勢が見られた。また、そうした姿勢を支えているものとして、グループ内のメンバーの信頼感や、他者の意見を肯定的に捉える姿勢もあわせて述べられていた。これは次の「傾聴」にも関連しており、少数派の意見を何らかの形で反映させることや、他者の意見をか

み砕いて理解しようとする姿勢にも見られると考えられる。次に「合意形成」については、論点を整理することの重要性を述べる記述が多く見られた。特に、多様な角度から出された意見を並べたり、それらを理解したりする過程を通して、より深く状況を理解するとともに、検討すべき論点を導き出すという経験の重要性に触れられていた。その一方、自分の考えを伝えることの困難さを実感したという記述から、これらの経験を通して自身を客観的に捉える契機になったと考えられる。そして「他者との協働」については、ルーブリック評価では他の項目と比較すると肯定的な変化が見られなかったが、ふりかえりシートでは多くの記述が見られた。施策提案の過程で多くの困難さを経験した分、印象に残っていることも多くなっていると考えられる。特に、個々の価値観や考えが異なる中で、それぞれの個性を活かしながら役割を果たしたり、多くの意見をまとめたりするプロセスの重要性に焦点が当てられている。

表 4-1 提案内容、提案の根拠の提示、実現可能性の検討に関する記述

提案内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 聞いている人に<u>どんな要素を説明することでより正確に提案内容が伝わるかが、より見えるようになったから。</u></li> <li>• 「提案内容」が3から4にあがった。理由：<u>今回の会議で富田林の現状と課題を調べる、教えてもらう機会が大きく増えたため。また、自身の市に対する興味も以前よりわいたから。</u></li> <li>• <u>自分の意見を言っていく中で、イメージだけでなく内容を説明できるようになった。今までは何かを提案する時に、イメージまでで止まってしまっていたが、会議の中で話を振られて説明しているうちに達成できるようになった。</u></li> <li>• はじめは富田林市について何も知らなかったけれど、実際に土地に足を踏み入れ、富田林市民の生の声を聞き、<u>施策を考えていくにつれて、富田林について魅力や課題を知り、積極的に関わろうとするようになったから。</u></li> </ul>
提案の根拠の提示
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市の職員さんへ質問したり、過去のデータや、根拠のあるサイトからのデータを用いて、<u>提案の根拠の提示について、重要性について説明できるようになったから。</u></li> <li>• 第1回若者会議の時に富田林市職員の方々が財政状況や予算編成について、SDGsについて、現在の課題について、<u>グラフや数値に基づいて説明して下さったことで、富田林の現状について理解を深めることができたため。</u></li> <li>• 「提案の根拠の提示」が3から4にあがった。理由：<u>富田林のもつ課題を認識することによって、改善のための提案に根拠をもたせることができたから。</u></li> <li>• 富田林市において、地域による学べる場所の有無が異なるので、その学ぶ機会の格差をなくす、ということができたから（実際に実施されるかは別として）</li> </ul>
実現可能性の検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 若者会議に参加する前は提案自体はできる場合もあったが、実現するために深く考えるということはほとんどなかった。会議に参加することで、<u>予算のことや実現のための協力のアテなど、提案の一步先を考えることができるようになったと感じている。</u></li> <li>• <u>公共性・公平性の面で施策を考えることができるようになった。</u>中間発表の後、このことについてどうしたら考慮できるのかたくさん考え、良い案を導きだせた。</li> </ul>



富田林市若者会議への参加がもたらす人材育成上の効果

- 提案当初は自分がやりたい取り組みだけを発言していたが、それらを実際に施策として行う際には予算がどこから出てくるのかということや、一年を通じてどのような計画を立てなければならないのかという、根本的なことを考え、本当に実施可能であるのか否かを検討することができるようになった。
- 予算や実施期間など、提案内容を実現させるためには何が必要かがより正確に分かるようになったから。
- 施策提案をする時に具体的にイメージしないと施策づくりが進まないの、議論していく内に脳内でイメージ化ができるようになった。その時に主体や対象なども考えるようにした。
- 根拠があやふやでは、提案として成り立たないことを理解しました。

表 4-2 「人権と民主主義」「公共性と主権者意識」「政治参加への意識」「社会参画①（社会問題への関心）」「社会参画②（課題解決の考察）」に関する記述

人権と民主主義
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 記述なし。</li> </ul>
公共性と主権者意識
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 会議に参加することで<u>まちづくりに参加するという主権者意識が備わり、公共性について実際に施策を考えることで、改めてその意味を知ることができた。</u></li> <li>• ワークショップ形式で初対面の人と何か活動するということが今までなかなかなく、<u>今回全員の参加が大切であること、1人1人が意見を発することが必要だということを実感したから。</u></li> <li>• 企画を市の関係者に提案する際に感じたことだが、<u>企画内容には「公共性」が不可欠であること、企画を実行に移す際、発案者である自分たちが主体にならないといけないと感じた。</u></li> <li>• 問題点の説明→合意形成の方法。他の部会員の話との比較によるところが大きい。本会議の課題かも。。。</li> <li>• 考えた施策が初めての壁にぶつかった時、その場にいた人全員が考えて、何か発言しようとしていた。<u>直接解決につながるわけではなくても、何かしらの意見を言うことで、後に役立つかもしれないから、会話をやめようとしなかった。→参加するだけでなく自分の考えを伝えることが物事を前に進めるきっかけになると学んだ。</u></li> </ul>
政治参加への意識
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 行政と市民の関わり方や、<u>既存の事業について学ぶ意欲がわいた。今までは気にとめることがなかった広報誌を自ら手に取り、市の取り組みを知ろうと思うようになった。まずは市の取り組みを知り、既存のものを活かす方法にも目を向けるようになった。</u></li> <li>• 政治というか、行政に我々が実際に参加することによって見えてきた課題点や、逆に良いところを実際に感じれたから。</li> </ul>
社会参画①（社会問題への関心）
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社会の課題を他人ごとと考えるのではなく<u>自分ごと、自分の課題として考察できるようになった。</u></li> <li>• 若者会議で実際に地域を盛り上げる施策提案をすることで、<u>社会問題への関心が高まり、解決への意欲も以前より大きくなったから。</u></li> <li>• 第1回の職員の方々の説明や施策提案をするための情報収集を通して、<u>今まで以上に行政や地域における課題を学んだり、考えたりする機会が増えたため。</u></li> <li>• <u>富田林市の課題を資料や富田林市民の仲間に話を聞きながら発見しました。また、それを一度ではなく、節目で行いました。</u></li> </ul>

社会参画②（課題解決の考察）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参画に内容が思いつく→実践を省察&amp;課題を見出す。実際に実践&amp;課題のあぶり出しをする機会があったこと自体が大きい。学校では普段、そもそも討議できるチャンスがない。</li> <li>・今まではここ（関心をもつ）で止まっていたが、今回の施策提案を通じて課題を見つける力が身に付いたように感じる。</li> </ul>

表 4-3 「自己主張」「傾聴」「合意形成①（論点の整理）」「合意形成②（参加姿勢）」「他者との協働」に関する記述

自己主張
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を伝えるということに恐怖感のようなものがあつたが、今回の会議の場では部会メンバーへの信頼もあり、今までよりは自分の意見を表に出すことへの恐怖感が少なくなったように思う。</li> <li>・「もっとこうしたい」と思うことを積極的に発言することで新しいアイデアが生まれると思うようになったから。言語化できなければ他者に伝えることはもちろん、実現することはできないという思考に変化した。</li> <li>・以前までも自分の気持ちを言語化することは苦手ではなかったが、より強い意志（ex. 施策に向けての想いや、みんなで精一杯考えた内容）が増えると、アドリブの場であっても公共の場で（自分の）意見を説明できるようになったから。</li> <li>・言語化はできていたものの、話の筋道があまりしっかり立ってはおらず、話が飛んでいったりしたが、会議を重ねていくにつれて、筋道を立てて明確に要点をまとめることができるようになった。</li> <li>・「自己主張」が2から3にあがった。理由：人と意見をかわしあう中で、自分の考えを主張することに対するタブー意識がうすれた。他者から主張を肯定されているうちに自尊心が育まれ、考えを積極的に言語化できるようになった。</li> </ul>
傾聴
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策提案を行うにあたって、チーム内で意見が分かれた際、少数派の意図を組みこめるように話を深く聞くように変化した。</li> <li>・何度も会議を行い、相手の話をきき、受け止めを表現できたから。少数派の意見も出てきたりしたが、その時に「～ってことですか」などと受け止めて表現できたから。</li> </ul>
合意形成①（論点の整理）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで「話し合い」というものに参加するときに、相手の意見を自分の中でまとめることに精一杯で、積極的に話し合いに参加できないことが多々あつたが、何度も会議の場に居ることで相手の意見を聞いたうえで、自分の意見を伝えるという流れに少し慣れたように感じる。</li> <li>・意見を理解し並べる→争点を見つけ出して論点提示。若者同士で意見を出し合う経験を何度も積んだことで、意見を並べて表にする習慣がついた。さらに表を眺めて何度も議論するうちに、自然と論点を見つけ、提示することを身につけられた。</li> <li>・争点を見つけないと議論が進まず、会議が行きづまってしまうため、争点をはっきりと示す必要があつた。行きづまった時は、一つ前にもどる方法が有効でした。</li> <li>・メンター職員や同じ部会のメンバーが現在の状態を整理していたり、会議終わりに発表を行うことで、論点の整理ができたことで、徐々に争点を見つける手法を学ぶことができたため。</li> <li>・話し合いを続けていく中で、思っていることと異なる時が多かつたが、周りのメンター職員の方や、部員の方々がまとめてくださったり、自分がその立場になったりしたから。</li> </ul>
合意形成②（参加姿勢）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張しても、あがって何も話せなくなることはないと思っていたが（過去はそうだったが今はなおって話せると思っていた）、<u>実際は、緊張しじっくりと自分の考えを述べることは難しく、自分の本質は変わらないと気付くことができた。</u></li> </ul>
<p>他者との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの会議を進めていく中で、<u>自らと異なる価値観を持つ人の意見に対して受け入れつつ、より発展した意見を述べる</u>ことができた。短い時間の中で、<u>自ら進んで LINE グループを動かし、役割分担</u>をした。</li> <li>・高校生から大学院生という若者の中でも年代の違う人と同じグループで行ったため、専門性も感覚も価値観もみんな異なっていて、そこに難しさを感じたが、<u>高校生ならではのフレッシュさ、大学院生は多くの知識を持っていて互いに高め合い、それぞれの良さを活かすことができた</u>と感じたから。</li> <li>・施策を考えていく上で、<u>どのように全体の意見をまとめれば良いのか、また誰がどのような役割が良いのかという役割分担</u>をすることができるようになった。</li> <li>・これまでは会議のときは仲介役に回ることが多く、周りの意見をまとめることが得意な方だと思っていた。でも<u>今回の活動で色んな人と出会って、何度も会議を重ねていく中で“もっとできるな”って思ったし、他の人がまとめているのを見て刺激を受けることが多くあった。→自分の中で「柔軟な思考」はもっと伸びしろがあるとわかった！</u></li> <li>・発表の際に相互にフォローできるようになったため。会議の中で話が滞ってしまった時に、<u>話を振って（細かい内容）進められた</u>から。</li> <li>・お互いの強みを尊重した役割分担をし、<u>意見を聞く場や言える場を作りながら進めた。</u></li> </ul>

## 5. 考察

前節までで、本調査の枠組みや、ループリック表とふりかえりシートへの記入結果の概要を記してきた。本節では、その調査結果を踏まえ、あらためて、富田林市若者会議（第1期）の、人材育成上の影響について検討する。全体の傾向としては、以下、2つのことが言える。

### (1) 全体として、高い人材育成上の効果が見られる

ループリック表への記入結果によれば、若者会議への参加は、「政策提案に関する資質・能力に関する事項」「社会参画・主権者意識に関する事項」「個人の学びに向かう力・人間性に関する事項」のいずれの事項においても、参加者の自己評価の向上につながっている。

図 5-1 はループリックによる事前・事後評価について「3」または「4」と回答した者の割合の変化を示しているが、そこにもあるように、たとえば、「提案内容」に関する資質・能力について、ループリック表上、「3」または「4」と自己評価する者が若者会議参加前では43.5%であったが、参加後では95.7%と増加している。同様に、「提案の根拠の提示」に関しても、「3」または「4」と自己評価する者は若者会議参加前後で52.5%から86.9%と増加している。さらに、「実現可能性の検討」についても、若者会議参加前後で47.8%から95.7%と増加している。

こうしたルーブリック上に現れる資質・能力・関心等に関する自己評価上の向上は、実際に達成された資質・能力・関心等の向上をどのくらい反映するものなのであろうか。これについては、本調査の結果から厳密に正確な答えを導き出すことは困難であるが、しかし一方で、参加者によってなされた、ふりかえりワークシート上の記述からは、一定の能力の向上が実際にあったとは安全に推測することが可能である。

たとえば、「イメージ」レベルで、漠然としか理解できていなかった「提案」という行為が具体的にどのような要素から構成されるものなのかがより明確に理解できるようになったこと、あるいは、市の現状や課題がどのようなものか、時に根拠となる質的・量的データを含めてより深く把握するようになったことが窺える書き込みがなされている。さらに、実行可能性を検討する上では、市のリソース、すなわち、予算や、連携可能な企業・団体等の有無についての考慮が欠かせないことを認識するようになったことが窺えるコメントも見受けられた。

全体として、今回、富田林市若者会議は、講義等を通して受動的に地域の課題を学ぶだけでなく、課題の解決を目指し、しかも、市長に対して提案を行うという「本気度」が高い設定の下、能動的に活動する機会を参加者に提供してきた。その中で、参加者は、地域社会の課題やリソースに関する知識・関心を向上させ、市民としての当事者意識や社会人に求められる他者との協働について考えるという成長を獲得したと言えよう。

## (2) 人材育成上の効果は項目ごとに異なる

一方、こうした人材育成上の効果は、ルーブリック表への回答を見る限り、項目によって濃淡が見受けられるのも事実である。上述したように、「政策提案に関する資質・能力に関する事項」に関してはすべての評価観点において自己評価の向上が見られ、しかもその向上は、「3」または「4」と回答した参加者の増加率が30～50%台のレンジにあり、顕著なものであったと言える。これに対して、「社会参画・主権者意識に関する事項」では増加率のレンジは10～30%台となっている一方、「個人の学びに向かう力・人間性に関する事項」の増加率は10～20%台となっている項目もあれば、10%程度のマイナスを示す項目も見られる。

富田林市若者会議への参加がもたらす人材育成上の効果

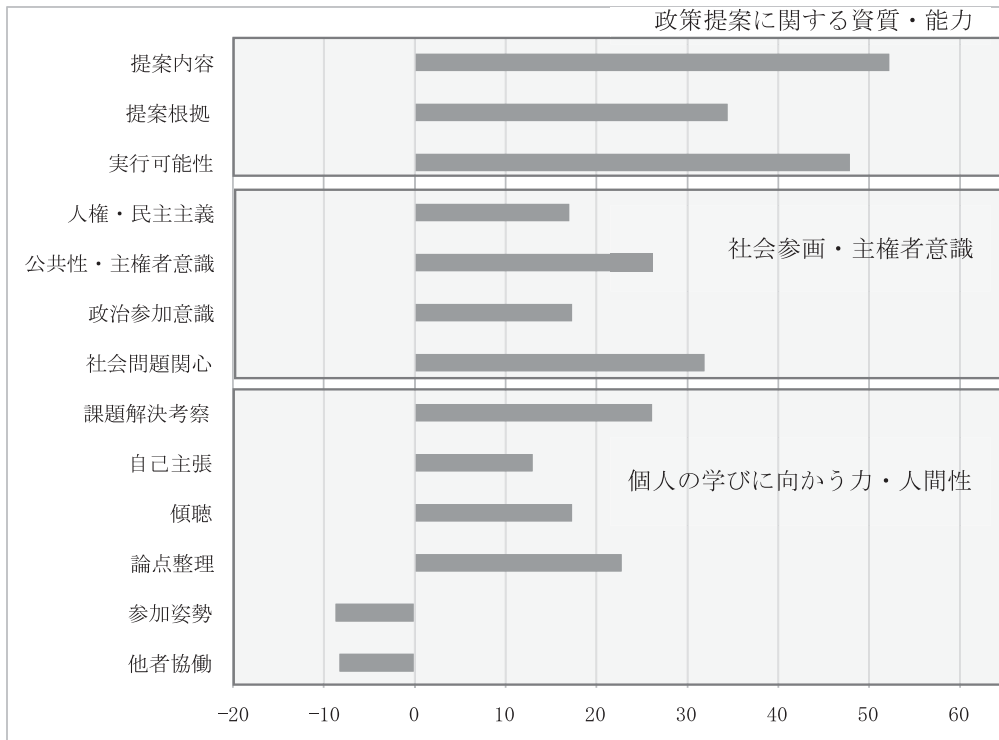


図 5-1 ルーブリック項目ごとの前後比較の結果

このような効果のかたよりは、若者会議参加者に対して行われた、事前研修を含む介入と、本調査のあり方双方に起因する可能性がある。

たとえば、ルーブリック表に「3」または「4」と回答した参加者の増加率がもっとも緩やかであったものには「人権と民主主義」（事前は 30.4%、事後 47.4% である）、「政治参加への意識」（事前は 34.8%、事後 52.1% である）が含まれる。これらは、人権や民主主義を個人と社会を支える重要な価値観として認識した上で、より具体的に、制度化されているもの（選挙や、審議会・委員会における市民公募委員制度、パブリックコメント制度、これらを支える情報公開制度等）・制度化されていないもの（市民活動や日常生活の中で行われる議論等）をどう活用していくのか、基本的な知識や関心を問う評価観点である。しかし、本調査の趣旨を説明した事前研修においても、また、市役所職員によるレクチャーやメンター職員による介入、さらには市長への最終報告会後に開催されたふりかえり会においても、若者会議をそのような人権・民主主義を実現する制度の 1 つとして位置づけて説明し、参加者の考えを深めるような機会は設けられなかった。このような事情が関係して、ルーブリック表上、「3」または「4」とした回答があまり増加しなかった、あるいは、ふりかえりシート上、評価観点の趣旨を踏まえたコメントの書き込みが見受けられなかったという現象が起こったものと思われる。

なお、実際の介入には、事前研修や事後のふりかえり会も含めて、そもそも、参加者の属性に由来する事情、すなわち、参加者の多くが大学生であり、学期中の、学業の合間をぬって週末に行われるということから、厳しい時間的制約が存在する。また、メンター職員による介入も、参加者が市に対して行う提案の熟度を上げる必要があり、その意味でも、時間的制約は一層厳しいものがある。そのため、いくつもの目的を同時に達成しようとすることは現実的には困難である。したがって、こうした人権・民主主義という価値の普及や、これを支える公式・非公式の諸制度への理解・活用といった観点に関しては、若者会議単体に限定して考えるのではなく、より広く、若者会議終了後、若者会議参加者による地域への関与をどう維持していけばいいのかを含めて、中長期的に取り組んでいく課題としてとらえることが望ましい。

また、「個人の学びに向かう力・人間性に関する事項」の各観点における参加者の成長実感も、少なくともルーブリック表上では、謙虚なものにとどまった。殊に「参加姿勢」と「他者との協働」においては、ルーブリック表上、「3」または「4」と回答した参加者が、事前・事後の比較で、それぞれ8.7%（事前は78.3%、事後69.6%である）と8.3%（事前は86.5%、事後78.2%である）と下がった。

ただし、4において一部既述の通り、「他者との協働」に関して言えば、ふりかえりシートでは、「自らと異なる価値観を持つ人の意見に対して受け入れつつ、より発展した意見を述べるのができた」「誰がどのような役割が良いのかという役割分担をすることができるようになった」といったコメントが書き込まれている。若者会議の参加者はもともとコミュニケーション能力に一定の自信があったものの、実際に提案を行うために議論を重ねる中で、具体的にどのような場面でどのような能力要素が社会的に求められているのか、それに照らして自分自身にどのような改善が必要なのかがより明確になり、自分自身の能力に関するメタ認知が向上したことが窺える。

若者会議参加者の大半を占める大学生たちが所属する高等教育機関では、現在、文部科学省の言う「汎用的技能」「態度・志向性」、経済産業省の言う「社会人基礎力」の向上が課題となっており、多様な取り組みが展開されているところである。今回、若者会議が参加者に提供した機会は、こうした高等教育機関での取り組みを補完するものであり、若者会議にはそのような側面もあわせ持っていることは銘記されるべきである。

#### 注

- 1) 大阪大谷大学「Osaka Ohtani University Vision 2025」<https://www.osaka-ohtani.ac.jp/vision2025/>、2021年12月31日取得。
- 2) 富田林市「1. 若者会議設置状況」（市役所内部資料）
- 3) 三輪昭子・水野翔太「名古屋わかもの会議とESD：若者の声 集約事業から」『地域社会デザイン研究（第5号）』愛知学泉大学、2017年、61頁。

富田林市若者会議への参加がもたらす人材育成上の効果

- 4) 多文化共生のための市民性教育研究会編著『多文化共生のためのシティズンシップ教育実践ハンドブック』明石書店、2020年、20-23頁。
- 5) 松倉紗野香「上尾市立東中学校における実践. 1 グローバルシティズンシップ科の設立」田中治彦・奈須正裕・藤原孝章編著『SDGs カリキュラムの創造：ESD から広がる持続可能な未来』学文社、2019a年、110頁。
- 6) 松倉紗野香「上尾市立東中学校における実践. 2 SDGs を達成するために必要な学び」田中治彦・奈須正裕・藤原孝章編著『SDGs カリキュラムの創造：ESD から広がる持続可能な未来』学文社、2019b年、122頁。
- 7) 牛込裕樹「大妻中野中学校・高等学校のスーパーグローバルハイスクール事業」田中治彦・奈須正裕・藤原孝章編著『SDGs カリキュラムの創造：ESD から広がる持続可能な未来』学文社、2019年、140-141頁。

【特別寄稿】

## 佐伯敏子さんと私

——ヒロシマには歳はないんよ——

中島 智子\*

はじめに

1980年、私をはじめて教員になったその年に、ヒロシマの被爆者佐伯敏子さんと出会った。そして2曲の歌をつくった。私は一人の初任者として諸先輩の教員とともにヒロシマを訪れたにすぎない。だが、教員生活の出発点で佐伯敏子さんに会ったことは、40余年教育に携わった自分にとって替え難い経験となった。

今年、教員としての仕事を終うにあたり、佐伯敏子さんとの出会いと2曲の歌をつくったことについて振り返って記すこととした。

佐伯敏子さん【1919-2017】のこと

・・・「もう済んだことええじゃないか」「そういうようなこと言ったって、どうしようもないじゃないか」勝手にそう言われたんじゃ困るんですよ。事実を知るとる者は、苦しみながら生きとるんじゃから。苦しみながら、兄のこと思い出し、いろんなこと思いだしとるんじゃから。

そして本当に山の方へ逃げていって大声上げて泣きたいの、私は。8月いう月は。だがそうしとったんじゃ、訪ねてくださった人に対しても申し訳ないし、話さにゃいけんことだから。私が個人のために逃れて行くことは、自分に許せないんですよ。

【1980年佐伯敏子さんの語りから】

佐伯敏子さん（以下佐伯さん）は、ヒロシマの被爆者である。2017年10月に亡くなられたときは新聞に大きく取り上げられ、多くの学校が、多くの人びとがその死を悼んだ。

佐伯さんが被爆したのは、25歳のときだ。夫の出征後、爆心地近くの実家に居住していたが、原爆投下前日は広島市郊外の伴村（現在の沼田町）にある姉<sup>1)</sup>の嫁ぎ先に居た。ここに5歳になる長男を疎開させていたのである。当時、佐伯さんは広島の工場で働いていたが、8月

\*大阪大谷大学教職教育センター担当特任教授



5日は日曜日で仕事が休みだったため子に会いに行ったのだ。5日の夜に広島市内へ帰るつもりだったが、子や姉に引き留められ、5日の夜は泊まることとなり、翌日6日の原爆投下時も伴村の姉の家に居た。しかし、原爆投下後は家族を探すため徒歩で広島市内に戻り、その後も何度も広島市内と伴村を往復した。

佐伯さんは、原爆投下後70日余りの期間に、母や兄妹、夫の両親など家族・親族計13人を失った。原爆資料館や原爆祈念館では、今でも佐伯さんの語りを視聴することができる。

また、原爆資料館には、佐伯さんの実母、茂曾呂（もそろ）トヨさんの眼鏡が展示されている。茂曾呂というのは佐伯さんの旧姓だ。原爆投下後、佐伯さんがいくら探しても見つからなかった実母は、9月になってやっと佐伯さんのもとに帰ってきた。その日、義兄が持ち帰った風呂敷包みにはトヨさんの焼け焦げた頭部が入っていたそうだ。この眼鏡によって実母であることが分かったのだと言う。

平和公園を訪れると西のエリアに原爆供養塔がある。佐伯さんはよく「土まんじゅう」と呼んでいた。ここは7万柱の遺骨が納められた場所である。佐伯さんは、ここに収められている遺骨のうち、名前が明らかになっていながら引き取り手のない815人の遺骨を遺族の元へ返す活動をされた。また、40年間にわたって原爆供養塔の清掃活動を続け、被爆体験を語り続けてきた。

数えきれないほどの人が佐伯さんと出会い、「あの日にかえってしまって」話す佐伯さんの語りに、引き込まれ、圧倒され、そして救われた。「戦争体験を学ぶ」に留まらず、佐伯さんの言葉は、聞き手の「いのち」や「生き方」に迫る迫力があつた。

特に大阪府内の小学校には、修学旅行で佐伯敏子さんに出会って自分の生き方を見出した子どもたちがたくさんいる。そして松原市では、現在もすべての小学校がヒロシマに修学旅行へ行き<sup>2)</sup>、佐伯敏子さんの語りを教材に平和学習を実施している。

## ヒロシマ修学旅行のはじまり

1980年4月、私が初任者として赴任したのは、松原市立布忍（ぬのせ）小学校だった。人権教育を学校運営の中心に置き、子どもの集団づくり、教師集団づくり、地域連携に一貫して取り組んでいる学校である。

私は、6年生の音楽の授業を受け持った。音楽は、専門的に習得した訳ではなく、大学のときの小学校専門科目音楽の授業で学んだ程度である。ただ、ピアノは好きで、我流ではあるがよく弾いていたので、音楽の授業をするのは苦にならなかった。だが、教員としては新米であり、子どもの指導には日々頭をうちながら悪戦苦闘していた。

ちょうどこの年は、布忍小学校が修学旅行の行き先を伊勢から広島に変更した年であった。

折角の修学旅行をただ楽しいだけでなく、子どもたちにとって価値のあるものにしたいという教職員の議論の中で、「ヒロシマ」という行き先が浮上したのだとあとで聞いた。

6月の修学旅行の引率には、6年生に音楽の授業をしていた私も加えていただいた。はじめてのヒロシマ修学旅行では原爆資料館や原爆養護老人ホームを訪れ、児童は真剣に修学旅行に取り組み、充実した修学旅行だと私はつくづく感じいった。

だが、先輩の先生方は満足していなかった。今少し物足りない、なにかヒロシマで生きてきた人の生き方に触れるようなそんな修学旅行にできないか、そのような問題提起の中、夏休みを利用して、再度行ける者で広島へ行こうということになった。当時、若い教職員が多かった布忍小学校では、20人以上の先生方が参加して、夏に広島を再訪することとなった。

ヒロシマに到着して最初にしたことは、平和公園での取材である。概ね2人ずつのグループに分かれ、出会う人に片っ端からマイクを向けた。今はあまり見かけないが、取っ手のついた重いカセットテープレコーダーをぶらさげて、「原爆の話をしてもらえませんか」「被爆者の方ですか」と、会う人ごとに聞いてまわった。しかし、殆ど誰も答えてくれず、話してくれず、こちらを向くことさえしない人も居て、気が付くと夕方になっていた。

意気込んでいた私たちは、がっかりしてその日泊まる旅館へ向かった。翌日には広島を去らねばならない。がっかりはしていたが、正直言って初任者の自分には何を求めてインタビューをしていたのかもよくわかっていなかったと思う。

ところが、その夜、戻った旅館で出会いがあった。たまたま、東京の中学校の先生方が泊まっておられたのだ。上平井（かみひらい）中学校という都内の中学校の先生方である。その学校は、4年遡る1976年からすでにヒロシマへの修学旅行を実践しておられた。その実践の蓄積を上平井中学校の先生方は、惜しみなく私たちに分けてくださった。たくさんの被爆者の方も紹介してくださった。

私たちには翌日の午前中しか時間がなかったため、手分けして教えていただいた方のところへ行くことになった。先輩の教員は、てきぱきとグループを組み、この日のうちに依頼の電話をして段取りを整えた。

そして、私は、数人の先輩の先生方とともに佐伯さんの家へ伺うことになったのである。

## 佐伯敏子さんとの出会い

翌朝、訪問時間は9時という約束であったが、少し早めに佐伯さんのお宅<sup>3)</sup>に着いた。

ものすごく暑い日だった。家の近くの小さな流れの水音を、今でも鮮明に記憶している。佐伯さんは、その暑い中、帽子もかぶらず日傘もささず、家の前で私たちの到着を待っておられた。昼すぎまでしか時間がないと伝えていたので、道に迷って話す時間が短くなってはいけな

いという配慮だったことを後で知った。

佐伯さんは、多くの学校に資料を送り、子どもたちに話をさせてほしいと手紙を送っておられた。しかし、実現することは少なかった。そんな中、大阪から教師が話を聞かせてほしいと連絡したのだ。佐伯さんはこの機会を大切なものにとらえ、連絡のあった前の日からほとんど不眠で話の準備をしておられたらしい。

小さな家だった。ところが中に入ると、壁が一面本棚で、下から上までびっしりとヒロシマや原爆に関する本、資料などで埋まっていて圧倒された。そして、佐伯さんは言われた。

「嘘をいっちゃいけん。ヒロシマのことをつくり話のように言うもんもおる、おとぎ話のように言うもんもおる。だけど、私には、本当にあったことなんよ。」

はじまった佐伯さんの話を聞くうち、私たちは、時間が経つのを忘れた。

「私がね、こうやって泣きながら話すのは、あの日に帰ってしまっているの。だから、ヒロシマには歳はないんよ。何年たってもあの日のままだ。歳はとらないんだ。とらせたらいけないんだ。」

佐伯さんの話は凄かった。生きざまそのものが凄かった。話が終わったとき、私たちは全員、この話をなんとかして子どもたちに伝えたいと思った。

大阪に戻って、私たちは手分けしてテープ起こしした。当時はまだ、パソコンどころかワープロもいきわたっていない頃だ。何度も何度も聞きなおし、手書きで佐伯さんの話を5ミリ原紙に書きつけていった。

3~4時間の話は、分厚い紙の束となった。子どもたちの教材とするには長すぎる、難しすぎる。議論を重ね、中身を整理し、時間をかけて教材をつくった。

題名は、「ヒロシマには歳はないんよ」とした。佐伯さんの語りからそのまま教材名にした。

現在も、このとき作った教材をもとにして、松原市の多くの小学校が修学旅行の事前学習をしている。

## 歌をつくる

教材ができあがった初秋、6年生は、修学旅行の事後学習として「ヒロシマには歳はないんよ」を学習した。学習するにつれ、教員も子どもたちも、学んだこの内容をもっと誰かに伝えたいという気持ちが大きくなっていった。そこで、佐伯さんの語りをもとに劇をつくらうということになったのである。

次の課題は台本づくりだった。その過程で壁におちあたって。佐伯さんの被爆体験を劇に表現するのもたいへん難しいのだが、佐伯さんの生き方、私たちが感じ心揺さぶられたもの、言葉で説明するのが難しいその内容をどうしたら劇として表現できるだろう。

議論を重ね、悩んだ末に、「生き方につながる部分は劇ではなく歌で表現しよう」ということになった。私は音楽の授業を担当していたので、先輩教員から「佐伯さんの歌をつくってみないか」と言われた。全くの素人であった私は自信がなかった。しかし、佐伯さんと出会った時間、佐伯さんのご自宅であの部屋で話を聞かせていただいたその時間が、やってみようという気にさせてくれた。

だが引き受けたもののその仕事は難しく、窓のない音楽室に毎日こもり、佐伯さんのテープを何度も何度も聞き直した。佐伯さんの言葉を拾い出して書いては、何枚もの用紙を書きつぶした。どのぐらいそのような時間を費やしたかは覚えていないが、ある日、その日も一人で音楽室にこもってテープを聞いていたとき、突然、「妹の照子さんが佐伯さんに語らせているのかもしれない」ということに思い至った。

そこから、どんどん歌が形になっていき、歌詞とメロディーが同時に頭の中に生まれてきた。それを必死で書き止めていったが、「佐伯さんの生き方」の歌はどうしても一つにまとまらず、同時に二つの歌ができた。

それが、「てるちゃんという」と「ヒロシマには歳はないんよ」である。

歌ができると真っ先に、子どもたちの歌声のテープとともに佐伯さんに送った。佐伯さんはとても喜んでくださった。そればかりでなく、楽譜を印刷して、いろんな学校に配られた。

## 歌『てるちゃんという』

「てるちゃん」というのは佐伯さんの妹照子（てるこ）さんのことである。

原爆投下後、家族を訪ねて広島市街に入った佐伯さんは、緑井の竹藪で照子さんに再会する。照子さんは、その日、朝から通院しており、原爆投下後、市街を外れて少し北にある緑井へ避難していたのである<sup>4)</sup>。

その後、佐伯さんは、足を痛めた照子さんを連れ、苦勞して伴村に戻る。借りたりヤカーは壊れ、山道を辿り、何時間もかかった。途中、安（やす）小学校で休ませてもらいようやく帰り着いたのは翌7日の朝だった。

行方不明の母を探し、義父母を訪ね、大怪我をおっている兄一家を訪ね、佐伯さんは8月7日以後も徒歩で広島市街を何度も訪れたが、姉一家の協力を得ることはできず、一人で動かざるを得なかった。

そのうち、軽傷に見えた照子さんが「足が痛い、手が痛い、骨と身がはずれるほど痛い」と言うようになり、洗面器いっぱい的大量の血を吐くようになる。姉をはじめ周りの者は、「うつる病気かもしれん」と照子さんの傍に行くのを避けるようになった。照子さんは夜に佐伯さんが戻ると、そのことを泣いて訴えたという。

原爆投下から2週間たとうかという8月19日<sup>5)</sup>に、照子さんは「目が見えん」と言い出し、同日の夜中に「きょうだい、仲ようしてね」という言葉を残して亡くなった。

通夜をしている最中、停電になった。それで、それぞれ、部屋に戻って横になることとした。ところが、夜中の2時頃、姉の怒鳴り声が出た。

…一体、何が起こるとるんじゃろうと思ったら、そしたら聞いたこともないような声がするんですよ。今度は逆にね、

「お姉ちゃん、お姉ちゃん、お姉ちゃん、聞いて、おはなし、聞いて。」

という声がするんです。

私はその声に腰が抜けたようになってね。あら、あれ、てる子の声じゃないか、と思ってね。てる子の声が、「お姉ちゃん聞いてよ、ねえ話を聞いてよ」言いよるのに、何で話を聞いてくれ言いよるのか、こっちの声は大きな声で、「黙んなさい、今聞かやしません、あんた、何思うとるんね、死んだんでしょうが、死んだらお母さんとこ行きなさいよ」って言いよるんよね。「お父さんとこ行きなさいよ」って言いよるんよね。「話を聞いて、話を聞いてくれにや行かれん」て、言いよるんですよ。「行かれん言うても行ってくれにや困るんじゃ」ってこっちの方が言うわけよね。…

【1980年佐伯敏子さんの語りから】

照子さんは「なんぼいうてもだめなのね。くやしい。お水ちょうだい」という言葉を言ったきり、声はしなくなった。朝になってふすまをあけると、うつ伏せになった照子さんはくやしそうな顔でこと切れていた。頬に敷居の跡がついていたようだ。

佐伯さんは、ずっと照子さんを親身になって看病していたにも関わらず、その声が聞こえたとき、行ってみることもできず、ただ念仏を唱えていたのだと言われた。「なんであのとき、照子の話を聞いてやれなんだのか」と佐伯さんは泣きながら話された。

そしてこんなことも話された。「私は、自分のことをいい人間じゃと思とった。でもいい人間じゃなかった。人としてしちゃんらんことをたくさんした。」と。母を探すときに、助けてという多くの人を置き去りにしたこと、母を探すのに死体を踏んで探し、その中には生きている人も居たということ、それは一生消えないのだと絞り出すような声で話された。

だから佐伯さんはあの日に帰って語り、だから佐伯さんは原爆供養塔の周りを掃除されるのだ。佐伯さんは「原爆供養塔のなかには、私が踏んづけた人がおられるかもしれない」と言われた。「どんなに家族のもとへ帰りたいかろう」と、原爆供養塔の遺骨を家族のもとに帰すことを続けられた。

佐伯さんは、「死者」について「みんな生きとる人じゃった」と言っておられた。

てるちゃんはいう  
何のために 生きてきたのかと  
私が死んだのは 何のためなのかと  
私の苦しみは 誰のためだったのかと  
生きてきた足あとを 残すことさえ許されず  
いのちのすべてが くだきこわされた  
あの日は何のためかと てるちゃんがいう  
原爆を作ったのは 人間だよと  
原爆を落としたのも 人間だよと  
あの日の地獄をつくったのは すべて人間の手によるものだと  
語ることも 叫ぶことも うめくことさえ 奪われて  
死んでいった妹が 私に口を開かせる  
あの日 妹はまだ十八だった  
ヒロシマの遺骨（ほね）をかえさにはあ  
生きた証を 返さにはならん  
ヒロシマの 叫びを 返さにはあ  
今の社会へ 大人たちへ  
子どもたちへ すべての生きるものたちへ  
子どもたちへ すべての生きるものたちへ

【1980年「てるちゃんはいう」の歌詞】

## 歌『ヒロシマには歳はないんよ』

この歌は佐伯さんが話された言葉を一つひとつつなげたような歌詞になっている。

「平和公園、あんたどう思う？きれいだ？本当は死者の上に座っているんだよ。」

前奏は、今の「きれいな」平和公園と流れる水、だが、そのきれいな外見に覆われて、人間の苦しみや叫びが確実に存在していることを表したかった。

ヒロシマの慰霊碑というものはね。今は目に見える慰霊碑、あれだけが慰霊碑じゃないのよ。  
目に見えない慰霊碑がたくさんあるんだよ。広島全体が広島のいしぶみなんだよ、川もそうだよ、川の底の土もそうだ。それを腹によう入れといてくださいよ。・・・  
あの公園の中に四つの街があったんです。広島でも一番にぎやかな街が。

【1980年佐伯敏子さんの語りから】

平和公園はかつて街だった。当たり前が人が暮らしていた。喜びや悲しみがあつた。人と人のつながりがあり、日常があつた。その日常が一瞬にして破壊しつくされた。その上につくられたのが平和公園である。

佐伯さんは、原爆に関係することでは嘘やつくりごとを許さなかつた。平和公園の真ん中の

火の燃えているところには今は紙切れがあるだけ、原爆供養塔には7万人の方の遺骨がある、とよく話されていた。

ヒロシマは すべてがあの日のおいしげみ  
川も 道も 川の底の土も  
今 ヒロシマに 風はそよぎ  
緑の木々は しげっているけれど  
ヒロシマにいるとき ほんとうは死者の上

ヒロシマというとき ほんとうは哭くだけ  
ヒロシマというとき あの日に戻る  
今 ヒロシマに 水は流れ  
空は どこまでも あおいけれど  
このまちは いつまでも 歳をとらない

私は 種まく すべての人に  
花さき 実るまで きっと死なない  
今 ヒロシマに 人はうつり  
幾年月が 流れたけれど  
ヒロシマを語って 私は生きる  
ヒロシマを語って 私は生きる

【1980年「ヒロシマには歳はないんよ」の歌詞】

佐伯さんは種を蒔かれた。花咲き実るまで、それを次の世代につなげていくのは佐伯さんと出会った自分たちだ。そして新たな花を咲かせる次の世代につなげねばならない。

## おわりに

1995年に被爆五十周年記念「ヒロシマ平和祭」が広島市民球場で開催され、(主催「被爆五十周年記念『ヒロシマ平和祭』」実行委員会<sup>6)</sup>) 平和祭の最後に「てるちゃんはいう」「ヒロシマには歳はないんよ」を布忍小学校卒業生が合唱した。私は球場でピアノを弾いた。佐伯さんはこのときとても喜んでくださった。

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言がようやく明けた2021年10月、私は一年ぶりに広島を訪ねた。目的のひとつは、ピアノを弾くこと。私のピアノは我流で、演奏は拙い。だが、この2曲をヒロシマの地で弾きたかった。私は、広島駅に設置されたストリートピアノと林の中の「被爆ピアノ資料館」<sup>7)</sup>にある被爆ピアノで、「てるちゃんはいう」と「ヒロシマには

歳はないんよ」を精一杯弾いた。

「被爆ピアノ資料館」のことは新聞で知った。被爆したピアノを調律し、音を蘇らせているのは矢川光則さんとおっしゃる方だ。被爆ピアノについては、絵本なども出版され、「お母さんの被爆ピアノ」という映画もつくられている<sup>8)</sup>。

資料館への行き方を調べていると「安佐南区伴西・・・」という住所で、驚いた。かつて佐伯敏子さんが長男を疎開させていた伴村と近いのだ。

爽やかな晴天の日だった。終点でバスを降り、さらに登る。周囲は針葉樹の林が青い空とくっきりしたコントラストで、人影もない。どれぐらい登ったか、前に「矢川ピアノ工房」の文字が見えた。日曜日なのでひっそりしている。

その建物の奥に「被爆ピアノ資料館」はあった。鍵がかかっていたが、幸い別の建物に矢川さんの息子さんがおられ、資料館を開けていただき、ピアノを弾かせていただくことができた。澄んだ音が美しく素晴らしいピアノだった。

また、佐伯さんが照子さんとともに一夜休んだ安小学校をも訪れた。安小学校は、当時と同じ場所にあり、足を怪我した照子さんと歩いた道のりが如何に大変であったかということに、改めて思い至った。

私は、現在松原市の多くの小学校で6年生の子どもたちに2曲の歌を教え、佐伯さんの話をしている。

最初の依頼が来たとき、戦争を知らない自分がヒロシマの話をしてよいのかと躊躇があった。「嘘をいう」ことになっていないか恐れた。私は佐伯さんのところを訪れて迷いを話した。「あんたは歌つくったんだから、あんたが話しないと誰が話すんよ」と一喝され、背中を押された。それ以来、依頼があれば話し続けている。その回数は延べ130回を超えた。

結びに、教師生活の出発のときに佐伯さんから聞いた言葉、その後の様々な場面で自分を支えてくれた佐伯さんの言葉で締めたい。

「人間は、すぐ何ができるかを考える。何ができなくて考えると、何もできんようになるんよね。何ができるか、じゃなくて、何をやるかが大事なよね。」

合掌

#### 注

- 1) 佐伯敏子さんの3姉の嫁ぎ先。ここに長姉一家も居住していた。
- 2) 1992年頃に松原市の全15校の小学校がヒロシマへの修学旅行を実施するようになった。
- 3) 当時の安佐南区福田である。
- 4) 照子さんとともに、2番目の姉の家族も緑井に蚊帳をつり避難していた。2番目の姉の家は祇園町にあったが、この家には佐伯さんの家の裏に住んでいた長兄の一家が避難していた。



## 佐伯敏子さんと私

- 5) 19日は、佐伯さんの父の命日であった。
- 6) 1995年8月6日に、元童謡組の和太鼓やバイオリンその他9組の参加によるコンサートで、主催は「被爆五十周年記念『ヒロシマ・平和祭』」実行委員会。佐伯敏子さん（当時76歳）の語りと布忍小学校の卒業生による合唱が最後の演目。
- 7) ピアノ調律師の矢川光則さんが私費を投じて2021年7月に開館した。
- 8) 「お母さんの被爆ピアノ」では俳優の佐野史郎さんが、矢川光則さんの役で出演している。

### 参考文献

- 佐伯敏子（1972）『十三人の死をみつめて』原爆文献を読む会  
仁木悦子編（1973）『妹たちのかがり火』角川文庫  
佐伯敏子（1986）『ヒロシマに歳はないんよ』ヒロシマ・ナガサキを考える会  
中島智子（2006）『佐伯さんへの手紙』雑誌「解放教育」／解放教育研究所編  
堀川恵子（2015）『原爆供養塔 忘れられた遺骨の70年』文藝春秋  
朽木祥（2018）『たずねびと』5年国語教科書／光村出版  
志水宏吉／島義信編（2019）『未来を創る人権教育』明石書店

## 【事業報告】

# コロナ禍の中での中学校・高等学校での インターンシップの取り組みについて

芝本 哲也\*

## 1. はじめに

本学教職教育センターでは、実践的指導力のある教員の養成と教員採用試験の合格をめざして、様々な学生支援をすすめている。

その中の一つに、「教育インターンシップⅠ・Ⅱ」という、個々の学生が実際に学校現場を訪れ、学校見学や授業の補助を通して教員の仕事について体験的に理解をする事を目的にした選択授業を設けている。

この授業は、後述の「3. 主な成果」にも示すが、「キャリアデザインを考える」「教員への志望動機の確認」「教員採用試験に前向きに向かうきっかけ」など特に教員をめざす学生にとって有意義なものである。

しかしながら、令和2年度（2020年度）は、コロナウイルス感染拡大の第1波を受け、受け入れ校である中学校・高等学校側はもちろんのこと、本学でもその対応・対処方法を模索し、何よりも安全・安心をする事が求められる中で「教育インターンシップⅠ・Ⅱ」授業を開講しないこととした。

令和3年度（2021年度）に入り、コロナ禍の収束が見えたわけではなかったが、コロナウイルス感染に対する学校や大学での方針や方法が定まる中で、本学としては、「教員をめざす学生にとって重要な取り組み」であるという事を再認識し、取り組むこととした。

本実践報告は、コロナ禍という中であって、どのような配慮を行い実践できたか、また成果や今後の課題を示し、今後の取り組みの参考として記すものである。

なお、「教育インターンシップⅠ・Ⅱ」は幼稚園、小学校でも取り組んでいるが、本報告は、芝本の担当である「中学校・高等学校での実践報告」である。

---

\*大阪大谷大学教職教育センター担当特任教授

## 2. 実践内容と主な配慮事項など

### 2.1 「教育インターンシップⅠ・Ⅱ」の概要

(以下「教育インターンシップⅠ」を「Ⅰ」、「同Ⅱ」を「Ⅱ」と表記する)

#### ①授業のテーマ

キャリア教育の一環として、中・高等学校でのボランティア実習を体験することで、以下のような8つの成果を獲得することを授業のテーマとしている。

1. 教員像を明確にする。2. 教員に求められる資質能力を知る。3. 自身の教職への適性を探る。4. 教育実習前に現場を体験する。5. 大学生として社会貢献する。6. キャリアデザインを形成する。7. キャリアモデルに出会う。8. インターン実習終了後の学びのモチベーションを高める。

#### ②授業の到達目標

以下の2点を授業の到達目標としている。

1. 生徒・教員・学校の視点からの観察を通して、求められている教師像を考えることができる。
2. 教員に求められる資質・能力を知り、自身の教職への適性を探ることができる。

#### ③対象学年と実施期間

Ⅰは対象を2年生以上とし、中学校は5日間、高等学校は3日間にわたり活動校でボランティアを行う。受講者の希望により、前期実施(9月初旬)、後期実施(2月初旬)に分かれて取り組む。

Ⅱについては、3年生以上を対象とし、受け入れ校で32時間以上のボランティア活動を行う。実施時期は各学生が当該学校と打ち合わせを行い取り組む。

#### ④令和3年度(2021年度)受講人数

Ⅰについては、中学校18名、高等学校13名受講

(前期:中学校10名、高等学校6名。後期:中学校8名、高等学校7名。)

Ⅱについては、中学校1名、高等学校3名受講。

#### ⑤授業の流れ

Ⅰについては以下のとおり

コロナ禍の中での中学校・高等学校でのインターンシップの取り組みについて

- ・ 第1講：前期・後期とも4月12日（月）本学 tani-WA から配信講義  
受講生がインターンシップの概要を知る。活動先の希望調査を行う。  
目 標：受講生がインターンシップの目的と意義について理解できる。
  
- ・ 第2講：前期7月14日5限。後期、11月24日5限。  
活動から学びとるものを考え、活動に向けた取り組みを行う。  
目 標：自分なりの活動の目的と意義を明確にして事前準備をすることができる。  
職員室、全校集会、学級、部活動などのさまざまな場合に応じた自己紹介ができる。
  
- ・ 第3講までに、学生が受け入れ校と事前打ち合わせを行う。
  
- ・ 第3講：前期8月25日2限。後期1月19日5限。  
活動校との事前打ち合わせを終え、活動に向けた準備を受講生同士で交流し、各自の学びを深める。具体的には、「活動の目標確認」「注意事項の確認」「コミュニケーションの取り方」「実習日誌の書き方」などを学ぶ。  
目 標：社会人基準のマナーに基づいた言動ができる。  
初心を振り返り、志を強く持つことができる。
  
- ・ 第4講：前期9月6日～10日、後期2月2日～8日  
受講生が活動校での教育活動に参加し、学校現場や教員の仕事を学ぶ。  
(中学校は5日間、高等学校は3日間)  
受講生が活動内容を日誌にまとめる。  
本学担当教員が活動校を訪問し、必要に応じて指導を行う。  
目 標：教師の立場に立って積極的に活動できる。
  
- ・ 第5講：前期9月22日5限、後期2月9日2限。  
まとめ。それぞれの受講生が活動校での生徒、教員、組織のようすについて報告しあい、成果や課題について交流する。活動で得た成果と課題をレポートにまとめる。  
目 標：学校現場の実態を理解し、大学での学びのモチベーションを高めることができる。また、各自の教職についての適性を確認する。

Ⅱについては以下のとおり

- ・第1講：4月14日5限

インターンシップについて活動の意義及び心構えを理解する。

目 標：インターンシップⅡについて理解することができる。

- ・第2、3講の実施は6月～11月の間

- ・第2講：受講生各自が挨拶や打合せのため活動校を訪問する。

目 標：インターンシップⅡの意義や目的について、受講生が活動希望校を訪問し、活動了承を得る事ができる。

- ・第3講：インターンシップ活動校にて32時間以上のボランティア活動を実施。

目 標：学校現場の実際を観察して、教職に求められる資質・能力について理解することができる。

- ・第4講：12月8日5限

まとめ。受講生各自が、活動校での生徒・教員・組織のようすについて報告しあい、成果や課題について交流する。活動で得た成果と課題をレポートにまとめる。

目 標：ボランティア活動を通して、教職に就くことへのモチベーションを高めることができる。

## 2.2 実施する上での主な配慮事項と実施内容について

### ①主な配慮事項

前年度が未実施であったこと、またコロナ禍の収束がみえない中での主な配慮事項は次のとおりである。

- ・コロナ感染予防への対応

本学にあっても実施校においても、「安全・安心」を最優先に考えて対応を行った。例えば、学生が「活動前2週間分及び実習中の健康状態チェック表」に健康状態を記入し、当該校のチェックを受けて活動の了承を得ること。学生に発熱など健康状態に異変がみられたときは、実習を中止することとした。

当該校においてコロナ感染状況が発生した際には、実習を継続するかどうかについて当該校の判断に任せた。本年度においては、1校で急遽実習日の変更が行われたが、中止に至る事はなかった。

- ・Ⅰの実施校については南河内地区の学校で実施した

受講者が多いIについて、従来は南河内地区以外の堺市などの学校でも実施をしていたが、実施校がコロナウイルス感染対策をすすめる中で、また急な感染発生への対応などの必要から、本学とつながりが強く、また近距離にある南河内地区の中学校での実習を行うこととし、本学担当教員が手分けして各市教委に依頼を行い実施した。結果、南河内地区6市11中学校で実施することとなった。

高等学校については、従来から受け入れていただいていた南河内に2校に継続して依頼を行い、了承を得て実施した。

## ②実施内容

いずれの実施受け入れ校にあっても、活動初日の午前に「学校の概要説明」「活動に際してのアドバイスや注意事項」が示された。

その後の活動について、「授業支援」や「学級活動支援」が主なものであったが、各校の「コロナウイルス感染予防対策の取り組み」から生徒との接触を減らす配慮がなされて、例年にはない以下のような活動も実施された。

「生徒へのコロナ感染予防対策の中で実施された主な活動」

学校図書館での図書整理補助（3校）、書架の塗装作業手伝い（1校）。学校設置器具の営繕手伝い（3校）。高等学校食堂の机上パーティション設置の手伝い（1校）。など

## 3. 主な成果と今後の課題について

### 3.1 主な成果（受講者の主な報告内容から）

#### ①「教育インターンシップ」の意義

- ・学校や先生側からの視点で教育活動を体験することができた。
- ・教員という仕事について、その「やりがい」や「魅力」を改めて感じる事ができた。
- ・先生という立場で、実際に生徒らと関わりあうという貴重な体験ができた。
- ・コロナ感染予防の中で、授業に入る事ができなかったが、様々な営繕活動なども教育活動をすすめる上で「安全・安心」という基礎を担う大事な事であることを知った。
- ・大学の講義だけでは学ぶことのできない実体験を通じた様々な学びをする貴重なものであった。

#### ②教職を志望する思いの変化

- ・生徒から「先生」と呼ばれ、授業や休み時間で生徒と関わる中で、教員になりたいという気持ちが更に高まった。

- ・授業づくりの大変さ、日々の業務、生徒指導などにも多くの時間を費やしている大変さを知ったが、生徒との関りの中で「やりがい」が生まれて教員になりたいと思う気持ちが高まった。
- ・今までは、漠然と教員になりたいと思っていたが、インターンシップを通して「教員に求められる資質」などを考えることができ、具体的に取り組むべき目標ができた。
- ・当初、高等学校教員をめざしていたが、今回、中学校のインターンシップを経験し、担当の先生から「人生の最初に、どの進路を選ぶのかという事を考える時期にある中学生を支えるやりがい」の話聞き、中学校教員をめざす気持ちに変わった。

### ③生徒との関りから学んだこと

- ・生徒たちから挨拶や、様々な声掛けをもらう事がとても嬉しく、こちらからも挨拶や声掛けをすることに取り組み、生徒とコミュニケーションをとることの大切さを学んだ。
- ・一人ひとり異なった人格をもっているのも、それに応じた対応を行う事の大切さを学んだ。
- ・高校生は、中学生よりいろいろな考え方を持っているが、反面、教員の指示に従わない生徒もおり、指導する事の難しさを思った。

### ④教員との関りから学んだこと

- ・授業の中で、先生が生徒からの発言を大事にされており、また発表し易くなるような工夫を学ぶことができた。同じ教科の先生方で情報交換して、生徒のやる気が出るような授業の取り組み方を互いに学んでおられることを知り、チームでの取り組みや授業力の向上が大切だと思った。
- ・同じ単元でも学級や生徒の状況に応じて教え方を変えていることを知り、自分も見習わなければと思った。
- ・ICT 機器の活用など、自分が中学校で受けていた授業とは異なるところが多くあり、大学でそれらの活用についても学ばなければならないと思った。
- ・体育の授業では、運動場と体育館・教室内とで声の大きさやトーンを変えることや、教員主導の授業だけでなく「生徒自身に考えさせ、やらせてみる」取り組みも大事である事を学んだ。

### ⑤学校全体の取組から学んだこと

- ・先生方が学校運営はもとより、生徒や地域連携のために様々な会議が持たれている事を知った。朝の会議にも参加させてもらったが、日々起きる事象にも短時間で打ち合わせが行われて対応がすすめられるなど、教師間の連携の大切さを学んだ。

- ・学校では、様々な課題や事象があるが、大切な事は「先生同士の連携」であると思った。
- ・朝に校門に立ち、先生方と一緒に挨拶や声かけを行ったり服装の注意を行ったりすることが、生徒との距離感を縮めたり、学校の良い雰囲気を維持したりしているだけでなく、地域の方々からも学校の前向きな取り組みを評価して下さる事に繋がっている事を学んだ。
- ・今回学校側の立場になって、行事の実施にも細かな打ち合わせや配慮が必要で、多くの会議と細かな打ち合わせがなされている事を知った。

以上のような受講生の報告から、「教育インターンシップ」で次のような3つの成果を生む事ができたと考える。

1. 生徒・教員・学校の視点からの観察を通して、求められている教師像を考え、具体的な目標をもち、今後の学びをすすめることができる。
2. 教員に求められる資質・能力を知り、自身の教職への適性を考え、どの校種の教員を志望するかを改めて考え、前向きになることができる。
3. 生徒・教員・学校の実態を観察し、現場が抱える様々な課題を知ることになるが、それをやりがいと捉えることで教員を志望する気持ちを確かなものにすることができる。

これらの事から、教員をめざす学生にとって3、4回生で取り組む「教育実習」以前に学校現場を体験でき、改めて教員になりたい気持ちを高めることができるとも有用なものといえる。

### 3.2 今後の課題について

#### ① コロナ禍の中での実施について

コロナウイルス感染の収束が見えない中であっては、何よりも「安全・安心」を第一に考え、今後も受け入れ校と連携した取り組みをすすめる必要がある。

本年度に実施したように、「受講生の健康管理」と「受講生・受け入れ実施校の急な事態変化に応じて取り組みを中止する事を検討する」なども視野に入れた取り組みが求められる。

#### ② 「教育インターンシップ」授業の実施方法について

教職教育センターが実施する、教員をめざす学生のためのキャリア教育として「教師のお仕事入門（正課外、主に1回生対象）」、「教育インターンシップⅠ（正課、2回生以上）」「同Ⅱ（正課、3回生以上）」があり、順次学年を経た取り組みとして位置付けて実施している。

これらを経て教育実習を行う事が望ましいと考えられ、これまでも学生にとって取り組みやすい方法を検討されてきたところである。

例えば、教育実習を受ける学生には必修でという考えもあるが、学生の履修状況をみたと



に、教員をめざす全ての学生が今以上に履修科目に取り入れるのは難しい実情がある。

また、受け入れ校をⅠのような大学からの依頼校だけでなく、Ⅱのように、より学生が取り組みやすいように自宅近隣の学校や、出身校などに受け入れについて相談し、実施校を決める方法もあると考える。

更に、実施方法について、Ⅰ、Ⅱを合体させ、実施日を限定するのではなく「何か月かの間に何時間以上実施する」という形で行うことも考えられる。

いずれにせよ、教員をめざす学生には有意義な取り組みであり、今後もより多くの学生が履修できるように検討を続けていく必要があると考える。

#### 4. まとめ

教員をめざす学生にとって「教育インターンシップ」を受講することの有用性は高い。事実、インターンシップ終了後も実施校で、学習ボランティアとして活動を行い、高い志を持って子どもや教員、学校に深く関わり、教員採用試験の面接や小論文にその経験を熱く語り、教員になってからも実践力を発揮している卒業生がいる。

一方で、全国の新任採用者の状況をみるに、教員になったものの短期間のうちに辞めてしまう者がいるという現実がある。

教員をめざすには「覚悟が必要」である。その覚悟と「やりがい」を持つためにもインターンシップや学習ボランティアなど、実際の学校現場での体験は重要であると考えている。

本年度の実践から、受講生や受け入れ実施校にコロナ感染の影響がなければ、安全・安心の配慮を忘れずコロナ感染について適切に配慮することで、「教育インターンシップ」授業が実施できることがわかった。

教職教育センター担当として、その重要性を考え、今後も取り組み方法について検討を続け、一人でも多くの教員をめざす学生が取り組めるものにしていきたい。

## 【活動報告】

# 令和3年度

# 「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

## 教職教育センター

### I. 令和3年度

#### 1. 組織および配置

令和3年度の教員、職員の配置は次のとおり。

教員：センター長（兼務） 1名

センター教員（兼務） 2名

教職教育担当特任教授 2名

職員：教職支援課 課長 1名、係長 1名、課員 2名

派遣職員 2名（合計：専任 4名、派遣 2名）

センター長および、教職教育担当特任教授の業務内容も変更なく、センター運営に携わった。

教職教育センター室の開室時間

令和3年度 平日 9:00～11:20、12:20～17:30

土曜 9:00～12:30

### II. 業務内容

#### 1. 教職支援課の役割

教員免許状を取得するには、教職課程をはじめ、免許状取得に必要な科目の履修が必要である。履修登録時の履修相談に始まり、前年度の内諾から始まる教育実習の事務的な手続きや、教職実践演習や履修カルテに関する業務、教員免許状の申請に関する業務等に携わっている。教職に就くためには、学力だけでなく学校現場で必要な実践力が不可欠である。

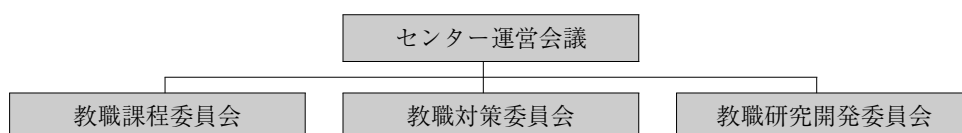
教職支援課では、教職を目指す学生に対して、入学後の早い段階に学校現場を訪問する行事として「教師のお仕事入門」を実施している。さらに、「学校支援学生ボランティア」や正課

の「教育インターンシップ」等への参加を推奨し、大学の授業や自学自習だけでは補えない実践力を養うためのサポート体制を整えている。現場を数多く体験することで、教師として必要な資質能力を深め、教師になる夢を達成するまで継続した支援を行っている。

その他、年間を通して各種行事を計画し、タイムリーな情報提供や各種対策講座を行い学生の知識と実践力の向上及びモチベーション維持を図っている。

## 2. 委員会

教職教育センター運営会議をはじめ教職課程委員会、教職対策委員会、教職研究開発委員会を3本柱にしてセンターを運営している。



### 教職課程委員会

#### 第1回

日時：令和3年4月7日（水）17時から（教職対策委員会との合同会議）

場所：本館第1会議室

議案：1. 教職課程委員長選出について

2. 教育実習時等のトラブル発生時に係るフローチャート（案）について

3. その他

#### 第2回

日時：令和3年4月16日（金）

場所：メール会議

議案：1. 教育実習の取り止めや期間短縮への対応について

2. 介護等の体験への対応

#### 第3回

日時：令和3年6月8日（火）

場所：メール会議

議案：1. 令和4年度教育職員養成課程（幼稚園）規程変更について

#### 第4回

日時：令和3年9月22日（水）16:55から

場所：zoomによるオンライン会議

議案：教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準の改正に伴う本学教職課程科目等の整備

について

1. 「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の事項の新設等についての対応
2. 「数理・データ活用及び人工知能に関する科目」（免許法施行規則第66条の6）についての対応
3. その他 改正に関する報告事項

#### 第5回

日時：令和3年11月4日（木）

場所：メール会議

議案：1. 令和4年度からの「ICT開講科目」における科目等履修生等への対応について

#### 第6回

日時：令和3年11月24日（水）

場所：メール会議

議案：1. 令和4年度から開設の「ICT開講科目」の名称について

#### 第7回

日時：令和3年11月30日（火）

場所：メール会議

議案：1. 令和4年度免許状更新講習の認定申請及び開設について

#### 第8回・第9回

日時：令和4年1月14日（金）

場所：zoomによるオンライン会議

- 議案：1. 令和4年度大阪大谷大学教育職員養成課程に関する規程の一部改正について
2. 「教職課程自己点検評価」の進め方について
  3. 2022年度「教育実習のご案内」について（お礼）の発送について
  4. 令和4年度予算について
  5. その他

以降随時、案件の必要に応じて、課程委員会を開催、また委員長や関わる委員とで確認や打ち合わせを実施した。

#### 教職対策委員会

##### 第1回

日時：令和3年4月7日（水）17時から（教職課程委員会との合同会議）

場所：本館第1会議室

議案：1. 教職対策委員長選出について

2. 大学推薦応募について報告
3. その他

#### 第2回

日時：令和3年11月10日（水）12時50分から

場所：zoomによるオンライン会議

- 議案：1. 令和3年度実施教員採用試験結果（速報）について  
2. 今後の教採対策について  
3. その他

随時、案件の必要に応じて、対策委員会を開催、また委員長や関わる委員とで確認や打ち合わせを実施した。

#### 教職研究開発委員会

##### 第1回

日時：令和3年4月10日（土）

場所：メール会議

- 議案：1. 教職研究開発委員長選出について

##### 第2回

日時：令和3年7月7日（水）

場所：メール会議

- 議案：1. 教職教育センター投稿原稿について

随時、案件の必要に応じて、研究開発委員会を開催、また委員長や関わる委員とで確認や打ち合わせを実施した。

### 3. 教職課程・教育実習・介護等の体験

#### 《教職課程》

令和3年度入学生

文学部日本語日本文学科、歴史文化学科、教育学部教育学科、人間社会学部人間社会学科、スポーツ健康学科の3学部5学科および教育専攻科、大学院文学研究科国語学国文学専攻、歴史文化学専攻の2専攻に教職課程が設けられている。

本学で取得できる免許状

学部…幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・社会・保健体育）、高等学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・地理歴史・公民・保健体育・福祉）、特別支援学校教諭一種免許状（領域：知的障害者

・肢体不自由者・病弱者)

専攻科…幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（国語・外国語（英語））

大学院…中学校教諭専修免許状（国語・社会）、高等学校教諭専修免許状（国語・地理歴史）

《教育実習》

教育実習に行く前年度に、教育実習内諾オリエンテーションを実施し出席する人数等で教育実習を希望する学生数を把握している。平成25年度から令和3年度の人数は表1のとおりである。（「教育実習生数」には、科目等履修生を含む。）

表1 内諾オリエンテーション及び教育実習生一覧表

年度	校種	内諾オリエンテーション出席者数※	教育実習生数
25年度 実習	幼稚園	103	96
	小学校	102	128
	中・高等学校	162	130
	特別支援学校	110	104
	計	477	458
26年度 実習	幼稚園	119	111
	小学校	104	94
	中・高等学校	172	149
	特別支援学校	97	94
	計	492	448
27年度 実習	幼稚園	115	107
	小学校	118	114
	中・高等学校	165	126
	特別支援学校	58	54
	計	456	398
28年度 実習	幼稚園	113	106
	小学校	108	106
	中・高等学校	165	123
	特別支援学校	50	45
	計	456	380
29年度 実習	幼稚園	116	102
	小学校	118	111
	中・高等学校	171	127
	特別支援学校	46	46
	計	451	386

令和3年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

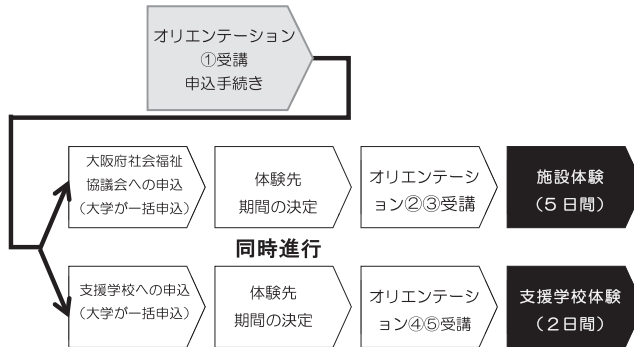
30年度 実習	幼稚園	118	113
	小学校	110	105
	中・高等学校	158	122
	特別支援学校	62	61
	計	448	401
令和元年度 実習	幼稚園	120	116
	小学校	100	94
	中・高等学校	157	124
	特別支援学校	55	55
	計	432	389
令和2年度 実習	幼稚園	125	118
	小学校	89	85
	中・高等学校	144	124
	特別支援学校	53	50
	計	411	377
令和3年度 実習	幼稚園	112	102
	小学校	93	84
	中・高等学校	138	115
	特別支援学校	62	61
	計	405	362

※実習前年度に実施

《介護等の体験》

例年、支援学校及び施設での介護等の体験実習実施のために毎年改善を重ね各施設での体験1か月前「直前オリエンテーション」に加え、支援学校の「直前オリエンテーション」を実施していたが、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大の為、代替措置となり、昨年同様の独立行政法人国立特別支援教育総合研究所が開設する免許法認定通信教育の科目教材によるレポート提出、または特別支援教育に関する科目修得をおこなった学生を介護等の体験の終了とみなす、いずれかを代替措置とした。令和4年2月上旬に完了。

例年の「介護等の体験実習」の流れ



2021 年度の流れ

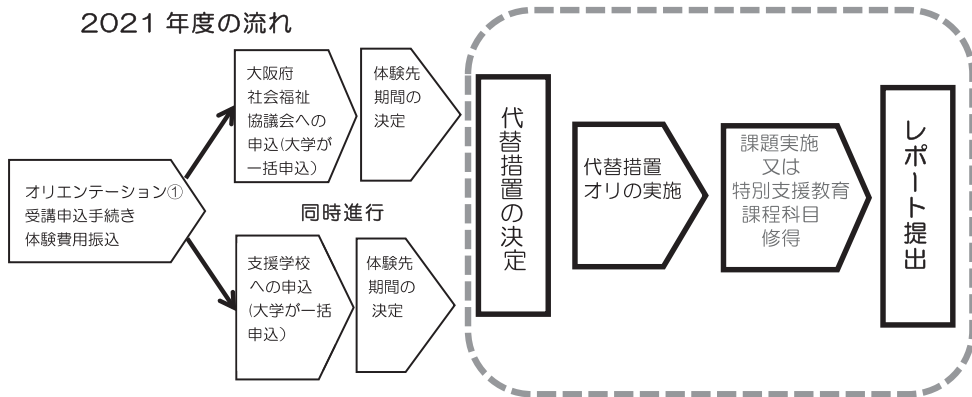


表2 介護等の体験者数

	学科	申込者数		終了者数※	
		前期	後期	前期	後期
平成 25 年度	日本語日本文学科	4	9	4	9
	英語学学科	5	11	5	10
	文化財学科	9	7	7	7
	教育福祉・教育学科	26	116	23	113
	人間社会学科	11	60	8	58
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	55	205	47	199



令和3年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

平成26年度	日本語日本文学科	10	11	10	10
	英米語学科	1	0	1	0
	文化財学科	1	2	1	2
	教育福祉・教育学科	3	96	3	94
	人間社会学科	2	2	1	2
	スポーツ健康学科	0	64	0	57
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	17	177	16	167
平成27年度	日本語日本文学科	3	13	2	7
	文化財学科	1	5	1	4
	教育福祉・教育学科	8	73	8	65
	人間社会学科	14	2	9	1
	スポーツ健康学科	14	50	7	44
	科目等履修生	0	0	0	2
	計	40	143	27	123
平成28年度	日本語日本文学科	2	19	2	16
	文化財・歴史文化学科	3	15	3	14
	教育学科	5	105	4	100
	人間社会学科	0	10	0	6
	スポーツ健康学科	2	49	2	45
	科目等履修生	0	1	0	1
	計	12	199	11	182
平成29年度	日本語日本文学科	1	10	1	10
	文化財・歴史文化学科	12	6	10	4
	教育学科	13	103	13	102
	人間社会学科	0	6	0	6
	スポーツ健康学科	12	29	12	27
	科目等履修生	1	0	1	0
	計	39	154	37	149
平成30年度	日本語日本文学科	11	6	11	4
	文化財・歴史文化学科	7	15	6	14
	教育学科	5	129	5	124
	人間社会学科	0	7	0	7
	スポーツ健康学科	4	50	4	49
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	27	209	26	200

令和3年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

令和元年度	日本語日本文学科	17	1	16	0
	歴史文化学科	13	4	12	4
	教育学科	5	119	5	113
	人間社会学科	7	7	5	7
	スポーツ健康学科	61	2	55	0
	科目等履修生	0	1	0	1
	計	103	134	93	125
令和2年度	日本語日本文学科	6	6	6	5
	歴史文化学科	3	10	3	10
	教育学科	2	44	2	43
	人間社会学科	6	1	6	1
	スポーツ健康学科	0	33	0	32
	科目等履修生	0	0	0	0
	計	17	94	17	91
令和3年度	日本語日本文学科	7	0	7	0
	歴史文化学科	10	3	9	3
	教育学科	44	94	42	94
	人間社会学科	6	4	5	4
	スポーツ健康学科	10	12	10	12
	科目等履修生	1	1	1	1
	計	78	114	74	114

※…施設5日間、支援学校2日間両方の体験終了者数（予定を含む）  
令和3年度終了者は代替措置完了予定者数

#### 4. 免許状更新講習

令和3年度4講習の開設

今年度はコロナ感染の拡大と、「免許状更新制」の発展的解消が今後予想されることなどにより非常に僅少な参加者数となった。

表3 免許状更新講習参加者数

年度	講座名	領域	実施日	時間	定員	受講者数
平成 24年度	特別支援教育講座	選択	8月3日（金）～7日（火）	18	50	57
	幼児教育講習	選択	8月6日（月）	6	60	17
	学校教育講習	選択	8月7日（火）	6	60	21
		選択	8月8日（水）	6	60	8
	計					103

令和3年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

平成 25年度	特別支援教育講	選択	8月2日(金)～6日(火)	18	50	44
	幼児教育講習	選択	8月5日(月)	6	60	13
	学校教育講習	選択	8月6日(火)	6	60	4
	中学・高等学校教育講習	選択	8月7日(水)	6	60	4
	計					65
平成 26年度	特別支援教育講座	選択	8月1日(金)～5日(火)	18	50	50
	幼児教育講習	選択	8月4日(月)	6	60	33
	学校教育講習	選択	8月5日(火)	6	60	12
	中学・高等学校教育講習	選択	8月6日(水)	6	60	7
	計					102
平成 27年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(金)	18	50	53
			8月1日(土)8月3日(月)			
	幼児教育講習	選択	8月4日(火)	6	60	20
	学校教育講習	選択	8月5日(水)	6	60	7
	中学・高等学校教育講習	選択	8月6日(木)	6	60	10
計						90
平成 28年度	特別支援教育講座	選択	7月30日(土)	18	50	52
			8月1日(月)8月2日(火)			
	幼児教育講習	選択	8月3日(水)	6	60	25
	学校教育講習	選択	8月4日(木)	6	60	6
	中学・高等学校教育講習	選択	8月5日(金)	6	60	10
計						93
平成 29年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(月)	6	50	37
	幼児教育講習	選択	8月2日(水)	6	60	37
	学校教育講習	選択	8月3日(木)	6	60	14
	中学・高等学校教育講習	選択	8月4日(金)	6	60	7
	計					
平成 30年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(火)	6	50	49
	幼児教育講習	選択	8月2日(木)	6	60	48
	学校教育講習	選択	8月3日(金)	6	60	35
	中学・高等学校教育講習	選択	8月1日(水)	6	60	16
	計					
令和 元年度	中学・高等学校教育講習	選択	7月30日(火)	6	60	14
	特別支援教育講座	選択	7月31日(水)	6	50	36
	学校教育講習	選択	8月1日(木)	6	60	24
	幼児教育講習	選択	8月2日(金)	6	60	27
	計					

令和 2年度 中止	中学・高等学校教育講習	選択		6	60	
	特別支援教育講座	選択		6	50	
	学校教育講習	選択		6	60	
	幼児教育講習	選択		6	60	
	計					
令和 3年度	中学・高等学校教育講習	選択		6	60	2
	特別支援教育講座	選択		6	50	2
	学校教育講習	選択		6	60	0
	幼児教育講習	選択		6	60	2
	計					6

## 5. 大阪大谷大学教職教育センター紀要

「大阪大谷大学教職教育センター紀要」第13号を発行する。

## Ⅲ. センター独自のプログラム

センターでは、教員免許を取得するだけにとどまらず、教員に求められる資質を身につけ、学校現場へ送り出すために一貫した学生就職支援を実施している。

具体的には、「実践力向上プログラム」として、1. 教師のお仕事入門 2. 学校支援学生ボランティア 3. 教育インターンシップ 4. 現場実践経験基礎講座があり、人間力を磨く機会となっている。また、「筆答対策プログラム」として、5. キャリア教育科目 6. 基礎学力向上講座（通称：タニ☆スタ 6） 7. 教員採用試験対策講座（長期休業期間中実施） 8. タニスパ・タニスポ 9. Web（DVD）講座があり、教員に必要な知識と専門性を高めるための支援を行っている。

その他、各種行事や実技対策講座等を通じ、最新の教育情報を提供している。

### 1. 教師のお仕事入門

「教師のお仕事入門」は、主に1回生を対象としたプログラムである。

学校現場を訪問し、教員の仕事内容や児童・生徒の様子を知るとともに交流を深めることを目的とし、近隣の小学校、中学校、高等学校のご協力を得て、年に複数回実施している。

表4 お仕事入門 参加者

日程	訪問先	参加者数(名)
9月3日(金)	富田林市立彼方小学校	9
9月9日(木)	大阪府立富田林中学校	8
9月16日(木)	大阪府立河南高校	8
10月4日(月)	富田林市立錦織小学校	8

## 2. 学校支援学生ボランティア

学校現場で先生の補助や児童・生徒の授業支援を行うもので、1回生から参加することが可能である。ボランティア活動に際しては、事前・事後の研修を課し、学生たちへ先生としての心構えを指導するとともにモチベーションの維持を図っている。

コロナ禍の中でも令和3年度も50名程度の学生がボランティア登録を行い、活動している。

## 3. 教育インターンシップ

教育実習に行く前に学校現場を体感することで、スムーズに教育実習へと臨むことが出来るように設定された正科目で、2回生以上の学生が履修できる。教育現場を知ることで、自分の課題を見つけ、課題を克服し、実践力向上へとつなげている。

(本号、事業報告(芝本哲也特任教授)「コロナ禍の中での中学校・高等学校でのインターンシップの取り組みについて」を掲載)

## 4. 現場実践経験基礎講座(公開講座)

この講座では、現職教員、指導主事等の講師をお招きし、学校現場の現状を講義していただいている。授業は公開とし、現場経験の少ない学生にとって、実践的指導力を身につける貴重な機会となっているが、昨年に引き続きコロナ感染拡大の影響により令和3年度も「現場実践経験基礎講座」は中止。

## 5. キャリア教育科目

教員として必要とされる教養や実践力を身につけるための正課授業として、令和3年度は表5の科目を設置した。(アドバンスⅠ・Ⅱは正課外の講座として実施)

学習習慣の定着を図る目的で、毎週授業をおこなえるようクラスを設置、特に4年生向けには集中講義形式を取り入れるなど抜本的な見直しをおこなった。

表5 教職総合・基礎演習開講科目

【実践力を向上させるための科目】

科目名称	期	対象学年	授業コード	定員	学習内容
教職総合 アドバンスⅠ	※ 前期集中	3回生以上 (薬学除く)	なし	60	大阪府下の自治体の教員採用1次試験で実施される「判断推理・数的処理・資料解釈・文章理解」の問題演習を中心とした授業です。頻出問題を用い、制限時間内に解答できる力を養います。 (授業実施 15回)
教職総合 アドバンスⅡ	※ 前期集中	3回生以上 (薬学除く)	なし	60	全国ほとんどの自治体で実施される「教員採用試験・一般教養」の問題演習を中心とした授業です。頻出問題を用い、正確に解答する力を養い、本番での得点力UPをはかります。 (授業実施 15回)

※2021年度は、課外講座として実施

(教職総合教職直前対策)	☆	前期集中	3回生以上 (薬学除く)	80281 80282	120	教育時事や学校現場で生じる様々な問題への対応力を養います。小論文やエントリーシート、面接において自分の考えを的確に表現し、伝える力を養います。 (授業実施 16回 2単位)
教職基礎演習 ⅠB+ⅡB						

☆2021年度「教職総合 教職直前対策」は、教職基礎演習ⅠB・ⅡB(両方)として開講

教職総合 ベーシックⅠ	◎	後期水曜 1限	1回生 (薬学除く)	共修 31017 31035 31036	60	大阪府下の自治体の教員採用1次試験で実施される「判断推理・数的処理・資料解釈・文章理解」の基本を学びます。基本的な問題を確実に解答できる力を養います。 (授業実施 16回 2単位)
教職基礎演習 ⅠA+ⅡA	◎		2回生以上 (薬学除く)			

◎「教職総合 ベーシックⅠ」と「教職基礎演習ⅠA+ⅡA」は同じ授業、学年により科目名が異なる。

教職総合 ベーシックⅡ	◇	後期水曜 1限	1回生 (薬学除く)	31018	60	全国ほとんどの自治体で実施される「教員採用試験・一般教養(国語・社会・数学・理科・英語・時事他)」について、学習内容を重要事項に絞り、基本問題に対応できる力を養います。 (授業実施 15回 2単位)
----------------	---	------------	---------------	-------	----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

◇1回生のみ履修可能

(教職総合教職教養対策)	□	後期水曜 2限	3回生以上 (薬学除く)	32154 32155	80	「教育原理」「教育史」「教育心理」「教育法規」「教育時事」等、教員として知っておくべき知識について、教員採用試験での出題内容を踏まえ、重要事項・頻出事項を中心に学びます。 (授業実施 16回 2単位)
教職基礎演習 ⅠC+ⅡC						

2021年度「教職総合 教職教養対策」は、教職基礎演習ⅠC・ⅡC(両方)として開講

## 6. 『基礎学力向上講座』

教員に求められる知識の育成と向上を目指し、平成25年度より平日6限目に行っている「基礎学力向上講座」(学内通称名「タニ☆スタ6」)。

「大阪府、大阪市、堺市、豊能地区」の試験に出題されている「判断力・思考力を問う問題」の問題が難しくなっていることや、高配点となっていることを考慮し、特化したクラス編成を講じて運営していたが、コロナ禍の影響で休止している。

## 7. 教員採用試験対策講座（一般教養対策講座・教職教養対策講座）

夏期及び春期休業期間中を利用して実施する短期（7～8日間）集中の講座夏期の講座は中止としたが、春期休業中にはオンラインによる講座を実施。

## 8. タニスパ・タニスポ

i-pad を利用し、教員採用試験の過去問題を解説したビデオを視聴学習できるシステム。空き時間を利用しての学習が可能であるため、クラブ活動やボランティア活動との両立をする人にとって、有効な学習方法の一つとなっている。

## 9. Web（DVD）講座

教員採用試験の頻出領域の解説が収録された動画を Web（DVD）で視聴し、学習する方法。

タニスパ・タニスポと同様、時間を有効活用できる学習方法の一つである。

校内での視聴環境を整えていることに加え、Webでの視聴もスムーズに行えるよう整備したことで、学生の学習意欲の向上し、既に申込者は100名を越えた。

## IV. 行事報告

センターで実施する行事は、前年度末に翌年度1年間分の行事を計画している。

今年度は実習直前オリエンテーション始め多くの行事を、グループ分け等の工夫をおこなってなるべく対面での実施を心がけた。

### 1. 一般教養対策講座

教員採用試験で頻出の問題を中心に抑えるべきポイントを学ぶ講座。一般教養を学び直すことで自分の弱点を見つけ、早い時期からの学習習慣が身につくよう実施している。特に本学学生の苦手な領域については、基礎を中心に学べるように考慮している。

今年度は春期のみ開講。

## 2. 教職教養対策講座

教職教養の初歩的な内容を押さえ、基礎的な問題に対応できる力を身につけることを目標に例年実施しているが、今年度は春期のみ開講。

## 3. 実技対策講座

コロナ禍の中ではあるが、最大限の対策を講じ8月は例年通り水泳対策講座を実施。  
日程・参加者数は以下の通りである。

表6 体育実技対策講座 参加者

	日程	時間	講座内容	参加者数
1	8月2日(月)	3-4 限目	水泳	11
2	8月4日(水)	3-4 限目	水泳	10
3	8月6日(金)	3-4 限目	水泳	6

## 4. その他

今年度は昨年の経験を踏まえ、オリエンテーション、講座等の行事、それぞれの状況に応じ「オンライン」「オンデマンド」「対面」を使い分け、効果が上がるよう工夫を凝らし実施した。なお、オンデマンド・オンラインでの実施においては丁寧に学生への周知や支援・指導をおこなった。

まだまだ続くコロナ禍の中で、学生にセンターの取り組みをよく知ってもらうことで、教職教育センターを利用し、活用してもらえよう方策を今後も考えていきたい。

ここに挙げた以外の行事实施状況は次頁表令和3年度 教職教育センター年間行事予定(改訂版)の通りである。

次年度も教職教育センター事業活動においてセンター教職員一同、教職を目指す学生の支援をより一層充実させていきたい。



令和3年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

表7 令和3(2021)年度 教職教育センター年間行事予定(改訂版)

年	月	日(曜)	時間	カテゴリ	行事名	内容	変更後(1/19現在)	
2021		4月行事予定表参照		オリ	新入生対象 教職教育センターオリエンテーション	教職教育センターの利用案内&行事について	学科ごとに対応	
		4月行事予定表参照		オリ	2~4回生教職課程履修者・履修予定者対象 教職教育センターオリエンテーション	教職教育センターの利用案内・行事・教職課程履修上の注意	Moodleにて 配信中 ※	
	4	8日(木)	午後		説明	教採学内セミナー <大阪府・大阪市・堺市>	教育委員会担当講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞けません	実施済
		10日(土)	答案提出 締切日		対策	教職模試①(出題:時事通信出版局) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養、一般教養、専門教養、論作文	自宅受験実施済
		21日(水)	4・5限 15:10-18:25		説明	教採学内セミナー <和歌山県・奈良県・関東地区他>	教育委員会担当講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞けません	中止
		24日(土)	2限 11:15-12:45		対策	4回生 教員採用試験 直前筆答対策講座	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 直前対策 外部講師による講演	5/14(金)に延期 Zoomにて実施済 Moodleにて配信中 ※
	5	28日(水)	5限 16:55-18:25		対策	3・4回生 教採・教師塾対策講座③	教員採用試験・教師塾入塾のための対策 エントリーシート作成、面接の心得等について説明と練習	Moodleにて 資料配信中
		1日(土)	午前		対策	教職模試②(出題:協同出版) 有料	(小・中・高) 教職教養、一般教養、専門教養	自宅受験 実施済
		11日(火)	昼休 12:45-13:25		オリ	3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって	学習方法・情報収集について(私立幼稚園を含む) (注)予備日は開講しないこともあります。	Moodleにて配信中 ※
		14日(金)	5限 16:55-18:25		対策	4回生 教員採用試験 面接対策講座	エントリーシート・面接対策(集団面接・個人面接) 注意と心得及び自己PR	Moodleにて 資料配信中 ※
		15日(土)	午前		対策	教職模試③(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)	(幼・小・中・高・特支) 教職教養、一般教養、専門教養、論作文	中止
		18日(火)	4限 15:10-16:40		対策	4回生 教員採用試験 面接対策講座 <予備日>	エントリーシート・面接対策(集団面接・個人面接) 注意と心得及び自己PR	Moodleにて 資料配信中
		19日(水)	5限 16:55-18:25		オリ	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験に向けて	学習方法・情報収集について 幼稚園を除く全校種 外部講師による講演	Moodleにて配信中 ※
		25日(火)	昼休 12:45-13:25		オリ	2回生 教職オリエンテーション 教員に求められるもの	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 勉強の進め方、資質の向上について講義	Moodleにて配信中 ※
		26日(水)	5限 16:55-18:25		対策	4回生 幼稚園教員採用試験 筆答対策講座	幼稚園教員希望者 直前対策 外部講師による講演	Moodleにて配信中 ※
		未定	未定		体験	1回生 教師のお仕事入門(小学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問	中止
		4日(金)	昼休 12:45-13:25		オリ	1回生 教職オリエンテーション 学校の先生になりたい人へ	学校の先生になるには?	Moodleにて配信中 ※
	6	5日(土)	午前		対策	教職模試④(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)	(幼・小・中・高・特支) 教職教養、一般教養、専門教養、論作文	自宅受験 (受付終了)
		12日(土)	2限 11:15-12:45		対策	教員採用試験 水泳対策講座	採用試験(実技試験)の心構えと押さえておくポイントを交えた 実技練習	中止
		19日(土)	2限 11:15-12:45		対策	教員採用試験 水泳対策講座	採用試験(実技試験)の心構えと押さえておくポイントを交えた 実技練習	中止
		22日(火)	昼休 12:45-13:25		オリ	1・2回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって	幼稚園教員・保育士希望者 幼稚園の先生・保育士になるには? (キャリア支援課と合同実施)	Moodleにて 資料配信中 ※
		23日(水)	5限 16:55-18:25		対策	4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編①	模擬面接(集団・個人)・集団討論対策 心得及び実践	Moodleにて 資料配信中 ※
		26日(土)	2限 11:15-12:45		対策	教員採用試験 水泳対策講座	採用試験(実技試験)の心構えと押さえておくポイントを交えた 実技練習	中止
		2日(金)	昼休 12:45-13:25		講座	教員採用試験対策講座案内他 説明会	有料講座の募集案内や情報収集方法など	Zoomにて実施済 (Moodleにて配信中) ※
	7	21日(水)	5限 16:55-18:25		対策	4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編②	模擬面接(個人)・集団討論・模擬授業対策等 講義及び実践	Moodleにて 資料配信中 ※
		未定	未定		体験	1回生 教師のお仕事入門(小学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問	9/3 彼方小学校 9/9 富田林中学校 9/16 河南高等学校 10/4 錦都小学校
	9	※詳細が決まり次第 お知らせ			体験	1回生 教師のお仕事入門(小、中、高等学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問	
23日(木)		5限 16:55-18:25		説明	4回生 講師登録説明会	講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明	中止	

※オンデマンド配信

令和3年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

2021	10	13日 (水)	5限 16:55-18:25	オリ	3回生 教職オリエンテーション 筆答試験対策を中心に	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 教員採用試験の傾向と対策 次年度の採用試験に向けて、外部講師による講演	10/13 Zoomにて実施 (Moodleにて配信※)
		20日 (水)	5限 16:55-18:25	オリ	2回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	<小・中・高・特支> 勉強の進度チェックおよび資質の向上について講義	
	10	22日 (金)	5限 16:55-18:25	説明 会	4回生 講師登録説明会 <予備日>	講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明	カレア教室 5限 対面実施 6限 豊中市講師登録説明会 (Moodleにて配信※)
		27日 (水)	5限 16:55-18:25	オリ	2・3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション	秋から始める勉強について 教員・保育士採用試験体験談 4回生との交流・勉強の進度チェック(キャリア支援課と合同実施)	中止
	11	10日 (水)	5限 16:55-18:25	免許 会	教員免許一括申請説明会① <4グループに分けて実施>	2022年3月免許状取得見込みの4回生・専攻科生・大学院生対象 教育職員免許状授与申請書の配付と説明	11/10※ 5限 6-201 L教室 学教・特支・スポ
		12日 (金)	5限 16:55-18:25				11/11※ 5限 6-201 L教室
		15日 (月)	5限 16:55-18:25				幼教・専攻科 11/15※ 5限 1-108 C教室
		17日 (水)	5限 16:55-18:25				日文・歴史・人社
		24日 (水)	5限 16:55-18:25				オリ
	12	1日(水)	4・5限 15:10-18:25	説明 会	教採学内セミナー(近隣教育委員会他)	教育委員会担当講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます	D教室 大阪市 15:30~16:30 K教室 堺市 16:55~17:55 12/8※ 東京都・和歌山県 (Zoom) 12/15※ 大阪府教育庁 (Zoom)
		7日(火)	昼休 12:45-13:25	オリ	1回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	どんな勉強をするの?	Moodleにて配信※
		10日 (金)	昼休 12:45-13:25	オリ	1回生 幼稚園・保育所オリエンテーション	勉強の進め方、資質の向上について講義	Moodleにて配信※
18日 (土)		午前	対 策	教職模試⑤(出題:協同出版) 有料	(小・中・高) 教職教養、一般教養、専門教養	自宅受験	
2022	1	12日 (水)	5限 16:55-18:25	オリ	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験情報 一般・教職教養対策中心に	次年度の教員採用試験に向けての最新情報と対策 外部講師による講演(有料講座の募集案内を含む)	L教室 5限 対面実施
		22日 (土)	午前	対 策	教職模試⑥(出題:時事通信出版局) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養、一般教養、専門教養、論作文	自宅受験
	26日 (水)	2限 11:15-12:45	オリ	教員免許一括申請説明会② <3グループに分けて実施>	2022年3月免許状取得見込みの4回生・専攻科生・大学院生対象 教育職員免許状授与申請手数料の納付と今後の手続きについて	カレア教室 1限 学教・特支 2限 スポ 3限 幼教・専攻科 4限 日文・歴史・人社	
		3限 13:25-14:55	オリ				
	2	未定 ※詳細が決まり次第 掲示板でお知らせ	オリ	3回生 教職・幼稚園オリエンテーション 教員・幼稚園教員の魅力と採用試験について	卒業生との懇談会 有料講座の日程に併せて実施	2/26(出) 1限 Zoom配信予定	
			体 験	1回生 教師のお仕事入門 (小学校・中学校、高等学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問	中止	
		7日(月)	答案提出 締切日	対 策	教職模試⑦(出題:協同出版) 有料	(小・中・高) 教職教養、一般教養、専門教養	自宅受験で実施予定
	3	16日 (水)	2限 11:15-12:45	対 策	2・3回生 教採・教師塾対策講座①	教員採用試験・教師塾入塾のための対策 エントリーシート作成、面接の心得等について説明と練習	3限 1-108 C教室 実施予定
		2日(水)	2限 11:15-12:45	対 策	2・3回生 教採・教師塾対策講座②		2限 1-108 C教室 実施予定
		2日(水)	3限 13:25-14:55	ボ ラ	2021年度 学校支援学生ボランティア 修了式・報告会	2021年度にボランティア登録をし、活動を行った学生対象 修了証書授与と体験談の発表	3限 1-108 C教室 実施予定
2021 - 2022	未定 ※詳細が決まり次第 掲示板でお知らせ	9 2	講 座	教職教養対策講座	外部講師による講義 次年度以降の採用試験に向けての学習対策	夏期は中止 (代替としてWEB講座実施)	
		8 3	講 座	一般教養対策講座		春期は実施 (対面で実施予定1/19現在)	
		2	講 座	思考力・判断力問題対策講座		春期は実施 (対面で実施予定1/19現在)	

※令和3(2021)年度の行事に関しては、感染症拡大状況等により、変更となる場合があります。

※使用する教室等詳細については、学内ポータルサイトやメール、掲示板等でお知らせします。

大阪大谷大学教職教育センター紀要  
第 13 号

2022 年 3 月 30 日発行

編集発行 大阪大谷大学教職教育センター  
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北 3 丁目 11-1  
電話 (0721) 24-9891